

2024 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
	作業療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	歯科医院院長 (1998. 4. 1～)	2020. 2. 1～ 2026. 7. 14	民間の視点からの 適正な学校運営の 指導・助言
非常勤	介護老人福祉施設事務長 (2003. 9. 1～)	2020. 2. 1～ 2026. 7. 14	民間の視点からの 適正な学校運営の 指導・助言
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
（備考）		

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
1. 教員授業担当科目 新年度のシラバスデータに各授業担当教員が直接アクセスし、新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項確認および加筆・訂正を直接行う。 2. 外来講師担当科目 郵送またはメールによって新年度シラバスの授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項内容の確認を行う。 3. 学内にて最終確認を行う。 4. 新年度開始時期に、印刷した新年度のシラバスを学生に配布する。 また、学校ホームページにて公開を行う。	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
授業科目の学習成果の評価及び単位の認定は次の学則第 23 条に基づき、筆記試験、実技試験、レポートを主軸に置き科目ごとに客観的な基準を設け判定している。 1. 授業科目の評価は、試験・出席状況・学習状況・学習報告等によって行う。 2. 授業科目については、随時試験を行い履修の認定を行う。 3. 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者又は不合格の者については、追試験又は再試験及び再実習を行うことができる。 4. 出席時間数が授業時間数の 3 分の 2 に達しない者は、科目についての評価を受ける資格を失う。ただし、臨床実習については、規定時間の履修を原則とする。 5. 臨床実習の評価は、実習内容・実習記録等によって行う。 6. 臨床実習の履修の認定は、実習終了後に行う。 評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。合格した者には単位の認定を行う。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の方法は学則細則第3条3項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。

さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にG P A (Grade Point Average) 制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のG P (Grade Point)を付与し、次のとおり平均点(G P A)を算出している。

1. G P A成績評価について

標語	G P	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合 格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70点未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

2. G P Aの算出方法

$$\frac{〔秀〕修得単位数 \times 4 + 〔優〕修得単位数 \times 3 + 〔良〕修得単位数 \times 2 + 〔可〕修得単位数 \times 1}{総履修単位数}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

【単位の計算方法】学則第21条による

1 単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30時間（講義・演習）、30～45時間（実験・実習・実技）
45時間（臨床実習）

客観的な指標の
算出方法の公表方法

www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.htmlにて公表

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。																	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)																	
・理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。																	
【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。																	
①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。																	
②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。																	
③学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。																	
④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。																	
理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格																	
作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格																	
【細則 医療専門課程 教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）																	
第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。																	
1) 理学療法学科																	
2) 作業療法学科																	
<table><tr><td>分野</td><td>単位</td></tr><tr><td>基礎分野</td><td>14</td></tr><tr><td>専門基礎分野</td><td>33</td></tr><tr><td>専門分野</td><td>72</td></tr><tr><td>合計</td><td>119</td></tr></table>			分野	単位	基礎分野	14	専門基礎分野	33	専門分野	72	合計	119					
分野	単位																
基礎分野	14																
専門基礎分野	33																
専門分野	72																
合計	119																
<table><tr><td>分野</td><td>旧単位</td><td>新単位</td></tr><tr><td>基礎分野</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td>専門基礎分野</td><td>36</td><td>36</td></tr><tr><td>専門分野</td><td>70</td><td>69</td></tr><tr><td>合計</td><td>120</td><td>119</td></tr></table>			分野	旧単位	新単位	基礎分野	14	14	専門基礎分野	36	36	専門分野	70	69	合計	120	119
分野	旧単位	新単位															
基礎分野	14	14															
専門基礎分野	36	36															
専門分野	70	69															
合計	120	119															
※旧単位…2022 年以前入学者																	
新単位…2023 年以降入学者																	
【単位の計算方法】学則第 21 条による																	
1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。																	
1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）																	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表																

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html にて公表

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

【理学療法学科】

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	理学療法学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	3175 単位時間／単位	1635 単位時間 ／単位	880 単位時間 ／単位	660 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
120 人		88 人	0 人	6 人	84 人		90 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等記入の確認を行う。 ・外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・学内にて最終確認を行う。 ・新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価の方法は学則細則第 3 条 2 項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」と判定している。 各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的に G P A（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 の G P（Grade Point）を付与し、平均点（G P A）を算出している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。
学修支援等
（概要） ※2021 年以前入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後 4 年目の年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除する。 ※2022 年以降入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、同一年次 1 回に限り、後期納付金の納入を猶予及び免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (84.6%)	4 人 (15.4%)
（主な就職、業界等） 医療施設（病院等）			
（就職指導内容） ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士国家試験受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91 人	6 人	6.6%
（中途退学の主な理由） 学業不振、進路変更、病気など		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など		

【作業療法学科】

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	作業療法学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	3240 単位時間／単位	1740 単位時間 ／単位	420 単位時間 ／単位	1080 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
120 人		32 人	0 人	6 人	55 人		61 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・ 教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等記入の確認を行う。 ・ 外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・ 学内にて最終確認を行う。 ・ 新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・ 学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価の方法は学則細則第 3 条 2 項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」と判定している。 各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的に G P A（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 の G P（Grade Point）を付与し、平均点（G P A）を算出している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。
学修支援等
（概要） ※2021 年以前入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後 4 年目の年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除する。 ※2022 年以降入学者 留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、同一年次 1 回に限り、後期納付金の納入を猶予及び免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (50.0%)	7 人 (50.0%)
（主な就職、業界等） 医療施設（病院等）			
（就職指導内容） ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削 教員による就職活動指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士国家試験受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	4 人	9.8%
（中途退学の主な理由） 学業不振、進路変更、家庭の事情など		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
理学療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	
作業療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会 阪奈中央病院	2021. 1. 1～2026. 12. 31	企業関係者
奈良県専修学校 各種学校連合会	2020. 1. 1～2026. 12. 31	教育関連有識者
学校法人興国学園 興国高等学校	2020. 1. 1～2026. 12. 31	高校関係者
医療法人和幸会 パークヒルズ田原苑	2020. 1. 1～2026. 12. 31	地域住民
医療法人和幸会 阪奈中央病院	2020. 1. 1～2026. 12. 31	企業関係者
医療法人和幸会 阪奈サナトリウム	2020. 1. 1～2026. 12. 31	卒業生
医療法人和幸会 阪奈中央病院	2020. 1. 1～2026. 12. 31	卒業生

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html
第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310001566
学校名（〇〇大学 等）	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		14人	11人	14人
内 訳	第Ⅰ区分	－人	－人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				14人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

理学療法学科 教育課程

科 目			実務教員 科目に○	実施時間		単位		1年次				2年次				3年次				卒業 必要 単位数
				講義	演習 実習	講義	演習 実習	前 期 時間 単位	後 期 時間 単位	前 期 時間 単位	後 期 時間 単位	前 期 時間 単位	後 期 時間 単位	前 期 時間 単位	後 期 時間 単位					
基礎 分野	科学的思考 の基盤 人間と生活 (14単位)	教育学		15		1		15	1										14単位	
		心理学		30		2		30	2											
		物理学		15		1		15	1											
		情報処理学		15		1		15	1											
		統計学		15		1				15	1									
		人間工学		30		2		30	2											
		外国語Ⅰ(医学英語)※選択必修		30		2		30	2											
		外国語Ⅱ(医学日本語)※選択必修		30		2		30	2											
		保健体育			30		1		30	1										
		公衆衛生学		15		1		15	1											
	コミュニケーション学		30		2		30	2												
小 計			195	30	13	1	210	13	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
専門 基礎 分野	人体の構造 と機能及び 心身の発達 (15単位)	解剖学Ⅰ		45		2		45	2										33単位	
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1									
		生理学Ⅰ		30		1		30	1											
		生理学Ⅱ		30		1		30	1											
		生理学Ⅲ		30		1				30	1									
		生理学Ⅳ		30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅰ		15		1		15	1											
		基礎運動学Ⅱ		30		1		30	1											
	基礎運動学Ⅲ		30		1				30	1										
基礎運動学Ⅳ		30		1				30	1											
人間発達学		30		1						30	1									
小 計			405	0	15	0	180	7	195	7	30	1	0	0	0	0	0	0		
基礎 分野	疾病と障害 の成り立ち 及び 回復過程の 促進 (14単位)	病理学		30		1				30	1								33単位	
		内科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	○	30		1							30	1						
		臨床神経学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		臨床神経学Ⅱ	○	30		1							30	1						
		整形外科Ⅰ	○	30		1						30	1							
		整形外科Ⅱ	○	30		1							30	1						
		外科・救急医学	○	15		1							15	1						
		精神医学	○	15		1									15	1				
		小児科学	○	15		1					15	1								
	臨床薬学	○	15		1										15	1				
臨床栄養学		15		1											15	1				
画像診断学		15		1										15	1					
臨床心理学		15		1										15	1					
小 計			315	0	14	0	0	0	30	1	105	4	105	4	60	4	15	1		
保健医療福祉 とリハビリテーション 理念(4単位)	リハビリテーションⅠ	○	30		1		30	1												
	リハビリテーションⅡ	○	30		1				30	1										
	リハビリテーションⅢ	○	15		1					15	1									
	社会福祉概論		15		1				15	1										
	小 計			90	0	4	0	30	1	45	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門 分野	基礎理学 療法学 (9単位)	理学療法概論Ⅰ	○	15		1		15	1										72単位	
		理学療法概論Ⅱ	○	15		1				15	1									
		臨床運動学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		臨床運動学Ⅱ	○	30		1						30	1							
		動作分析学	○	30		1							30	1						
		理学療法障害学	○	30		1			30	1										
		理学療法研究概論	○	15		1									15	1				
		基礎理学療法学Ⅰ	○	30		1									30	1				
		基礎理学療法学Ⅱ	○	30		1											30	1		
		小 計			225	0	9	0	15	1	45	2	60	2	30	1	45	2		30
	理学療法 評価学 (12単位)	理学療法評価学Ⅰ	○	30	45	1	1	75	2											
理学療法評価学Ⅱ		○	30	45	1	1		75	2											
理学療法評価学Ⅲ		○	30	45	1	1				75	2									
理学療法評価演習Ⅰ		○		45		2			45	2										
理学療法評価演習ⅡA		○		45		2				45	2									
理学療法評価演習ⅡB		○		45		2					45	2								
小 計			90	270	3	9	75	2	120	4	120	4	45	2	0	0	0	0		
理学療法管理学 (2単位)	理学療法管理学Ⅰ	○	15		1										15	1				
	理学療法管理学Ⅱ	○	15		1												15	1		
	小 計			30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	15	1	
専門 分野	理学療法 治療学 (24単位)	運動療法学	○	15	30	1	1			45	2								72単位	
		物理療法学Ⅰ	○	30		1		30	1											
		物理療法学Ⅱ	○	30		1				30	1									
		義肢装具学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		義肢装具学Ⅱ	○	15		1								15	1					
		日常生活動作Ⅰ	○		30		1	30	1											
		日常生活動作Ⅱ	○		30		1							30	1					
		神経理学療法学	○	15	30	1	1					45	2							
		小児理学療法学	○		30		1							30	1					
		脊髄損傷理学療法学	○		30		1							30	1					
		運動器理学療法学	○	15	30	1	1							45	2					
		神経筋難病理学療法学	○		30		1					30	1							
		呼吸理学療法	○		30		1					30	1							
		心血管理学療法学	○	15		1								15	1					
		糖尿病理学療法学	○	15		1								15	1					
		スポーツ理学療法学	○		30		1							30	1					
		がんリハビリテーション	○	15		1										15	1			
		理学療法治療演習Ⅰ	○		30		1									30	1			
		理学療法治療演習Ⅱ	○		30		1											30		1
		動物介在療法学Ⅰ※選択		(5)		(1)				(5)	(1)									
		動物介在療法学Ⅱ※選択必修		15		1								15	1					
		パーソナルトレーニング論※選択必修		15		1								15	1					
		総合理学療法学	○	30		1												30		1
		小 計(選択科目除く)			240	360	12	12	60	2	75	3	135	5	225	10	45	2		60
地域理学 療法学 (3単位)	生活環境論	○	15		1								15	1						
	予防理学療法	○	15		1												15	1		
	地域理学療法学	○	15		1										15	1				
小 計			45	0	3	0	0	0	0	0	0	15	1	15	1	15	1			
臨床実習 (22単位)	観察実習(医療)	○		40		1			40	1										
	観察実習(訪問・通所)	○		40		1			40	1										
	検査測定実習	○		80		2					80	2								
	評価実習	○		160		4							160	4						
	治療実習Ⅰ	○		280		7									280	7				
	治療実習Ⅱ	○		280		7										280	7			
	小 計			0	880	0	22	0	0	80	2	80	2	160	4	280	7	280	7	
総 合 計				1635	1540	75	44	570	26	605	22	545	19	580	22	460	17	415	13	119単位

作業療法学科 教育課程

科 目			実務教員 科目に○	実施時間		単位		1年次				2年次				3年次				卒業 必要 単位数		
				講義	演習 実習	講義	演習 実習	前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期				
								時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位			
基礎 分野	科学的思考 の基盤	物理学		15		1		15	1										14単位			
		統計学		15		1		15	1													
		情報処理学		15		1		15	1													
		保健体育			30		1	30	1													
	人間と生活	外国語Ⅰ(医学英語)※選択必修		30		2		30	2													
		外国語Ⅱ(医学日本語)※選択必修		30		2		30	2													
	社会の理解 (14単位)	教育学		15		1		15	1													
		コミュニケーション学		30		2		30	2													
		心理学		30		2		30	2													
		公衆衛生学		15		1		15	1													
人間工学			30		2		30	2														
小 計				195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と 機能及び 心身の発達 (18単位)	専門基礎概論		30		1		30	1										36単位			
		解剖学Ⅰ		45		2		45	2													
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2											
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1													
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1											
		生理学Ⅰ		30		1		30	1													
		生理学Ⅱ		30		1				30	1											
		生理学Ⅲ		30		1		30	1													
		運動学Ⅰ(上肢)		30		1		30	1													
		運動学Ⅱ(上肢)		30		1				30	1											
		運動学Ⅲ(下肢・体幹)		30		1		30	1													
		運動学Ⅳ(下肢・体幹)		30		1				30	1											
		運動学実習			60		2						60	2								
		人間発達学Ⅰ(運動)		15		1				15	1											
		人間発達学Ⅱ(心理)		15		1				15	1											
		小 計				420	60	16	2	225	8	195	8	0	0	60	2	0		0	0	0
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進 (14単位)	病理学		30		1				30	1										
			栄養・薬理学		15		1						15	1								
	臨床検査学			15		1								15	1							
	救急医療概論(喀痰吸引を含む)			15		1								15	1							
	内科学Ⅰ		○	30		1						30	1									
	内科学Ⅱ		○	30		1								30	1							
	神経内科学Ⅰ		○	30		1				30	1											
	神経内科学Ⅱ		○	30		1						30	1									
	精神医学Ⅰ		○	30		1				30	1											
	精神医学Ⅱ		○	30		1						30	1									
	臨床心理学		30		1				30	1												
	整形外科Ⅰ	○	30		1						30	1										
	整形外科Ⅱ	○	30		1								30	1								
	小児科学	○	15		1						15	1										
	小 計				360	0	14	0	0	0	120	4	150	6	90	4	0	0		0	0	
	保健医療福祉 とリハビリテー ション 理念(4単位)	リハビリテーション概論	○	15		1		15	1													
		社会福祉学		15		1				15	1											
		多職種連携学		30		1				30	1											
		リハビリテーション制度論		15		1						15	1									
	小 計				75	0	4	0	15	1	45	2	15	1	0	0	0	0		0	0	
専 門 分 野	基礎作業療法学 (5単位)	作業療法学概論	○	30		1		30	1										69単位			
		作業療法研究法	○	15		1									15	1						
		作業分析学	○	15		1				15	1											
		基礎作業実習Ⅰ	○		30		1	30	1													
		基礎作業実習Ⅱ	○		30		1			30	1											
	小 計				60	60	3	2	60	2	45	2	0	0	0	0	15	1		0	0	
	作業療法管理学 (2単位)	作業療法管理学Ⅰ	○	15		1									15	1						
		作業療法管理学Ⅱ	○	15		1									15	1						
	小 計				30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2	0		0		
	作業療法評価学 (9単位)	作業療法評価法総論	○	15		1		15	1													
		生活行為向上マネジメント			15		1							15	1							
		作業療法評価法演習	○	45		2							45	2								
		作業療法評価技法Ⅰ	○	30		1		30	1													
		作業療法評価技法Ⅱ	○	30		1				30	1											
		作業療法評価技法Ⅲ	○	60		2						60	2									
		作業療法評価技法Ⅳ	○	30		1								30	1							
		小 計				15	210	1	8	45	2	30	1	60	2	90	4	0		0	0	0
	作業療法治療学 (23単位)	身体障害作業療法総論	○	30		1				30	1											
		精神障害作業療法総論	○	30		1						30	1									
		老年期障害作業療法総論	○	30		1						30	1									
		発達障害作業療法総論	○	30		1						30	1									
		疾患別作業療法Ⅰ(発達疾患Ⅰ)	○	15		1								15	1							
		疾患別作業療法Ⅱ(発達疾患Ⅱ)	○	15		1								15	1							
		疾患別作業療法Ⅲ(精神疾患)	○	30		1								30	1							
		疾患別作業療法Ⅳ(老年期疾患)	○	30		1								30	1							
		疾患別作業療法Ⅴ(脳血管疾患)	○	45		2						45	2									
		疾患別作業療法Ⅵ(整形外科疾患)	○	45		2								45	2							
		疾患別作業療法Ⅶ(難病)	○	15		1								15	1							
		疾患別作業療法Ⅷ(高次脳機能障害)	○	30		1						30	1									
		疾患別作業療法Ⅸ(脊髄損傷)	○	30		1								30	1							
		動物介在療法Ⅰ	○	15		1				15	1											
		動物介在療法Ⅱ	○	15		1								15	1							
		日常生活活動学	○	30		1						30	1									
		義肢学	○	15		1								15	1							
		装具学	○		45		1					45	1									
		福祉用具支援技術論	○	45		2						45	2									
福祉用具支援技術論演習		○		15		1					15	1										
小 計				495	60	21	2	0	0	45	2	300	11	210	10	0	0	0	0			
地域作業療法学 (4単位)	地域作業療法学Ⅰ	○	15		1									15	1							
	地域作業療法学Ⅱ	○	15		1									15	1							
	地域作業療法学Ⅲ	○	15		1									15	1							
	居住環境整備論	○	15		1									15	1							
小 計				60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0	0			
臨床実習 (24単位)	臨床見学実習Ⅰ	○		45		1					45	1										
	臨床見学実習Ⅱ	○		45		1					45	1										
	地域臨床見学実習	○		45		1			45	1												
	臨床評価実習	○		135		3						135	3									
	総合臨床実習Ⅰ	○		405		9								405	9							
	総合臨床実習Ⅱ	○		405		9										405	9					
小 計				0	1080	0	24	0	0	45	1	90	2	135	3	405	9	405	9			
総合学習 (2単位)	作業療法総合学習Ⅰ	○	15		1											15	1					
	作業療法総合学習Ⅱ	○	15		1											15	1					
小 計				30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2			
総 合 計				1740	1500	80	39	570	27	525	20	615	22	585	23	510	16	435	11	119単位		

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要について

本校では、公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、GPA（Grade Point Average）制度を用いた成績評価を行い、修学指導や優秀な学生の表彰等に利用する。

成績評価の方法は学則細則第3条2項に基づき、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と判定している。
さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にGPA（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0のGP（Grade Point）を付与し、次のとおり平均点（GPA）を算出している。

1. GPA成績評価について

標語	GP	素点	
秀	4.0	100点～90点以上	合 格
優	3.0	90点未満～80点以上	
良	2.0	80点未満～70点以上	
可	1.0	70点未満～60点以上	
不可	0.0	60点未満	不合格

2. GPAの算出方法

$$\frac{〔秀〕修得単位数 \times 4 + 〔優〕修得単位数 \times 3 + 〔良〕修得単位数 \times 2 + 〔可〕修得単位数 \times 1}{\text{総履修単位数}}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数字で成績表に記載する。

以上

卒業の認定に関する方針について

理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

卒業の認定について

【学則 第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

- ①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
- ③学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。
- ④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則 教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）

第 13 条 次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1) 理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

2) 作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 / 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）

以上

講義概要

2024 年度 理学療法学科
1 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《基礎分野》 ＝科学的思考の基盤・人間と生活＝

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木 琳太郎	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	私たちが関わってきた（関わっている）教育を考えてみることを通して、私たちがほかの人々、物事とともに生きてきた（生きている）日常・社会・世界・関係性について、立ち止まって考えてみる。		
授業計画 Course Content	1 階段のぼりと勉強 2 階段のぼりと勉強 3 狼に育てられた子ども 4 狼に育てられた子ども 5 養生 6 養生 7 「生命場」 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小野 隆章	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	性格検査からスタートして臨床心理学の基礎になるストレス（病因論）とリラックス（治癒論）について学習する。		
授業計画 Course Content	1 YG 性格検査の実施 2 YG 性格検査の解説、ストレス論 3 ストレッサー 4 症状論 5 ストレス・トラランス 6 閉じこもり論 7 病気と性格 8 リラックス論 9 心理療法論 10 心理療法の種類と実際 11 リラックス法 その1 12 リラックス法 その2 13 防衛機制 14 治癒と性格 15 人生プロセス		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（論述式、持込不可）により理解力、表現力、総合力を評価する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	随時レジュメを使用する。 テキストは用いない。 <u>口述、板書の記録が大切になる。</u>		

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2 つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	1 物理量とその表し方、ベクトルとスカラー 2 いろいろな運動と力 3 力のつり合いと運動の法則 4 物体の重心と回転運動 5 力のモーメント① 6 力のモーメント② 7 運動、仕事のエネルギー 8 演習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」 羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。 授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	1 Word の基本操作（１）：基本的な文書作成、文書の編集 2 Word の基本操作（２）：表の作成 3 Excel の基本操作（１）：表の作成と計算 4 Excel の基本操作（２）：数式・関数の利用 5 Excel の基本操作（３）：データの入力・編集 6 Excel の基本操作（４）：グラフの利用 7 Excel の応用操作：データベースとしての利用 8 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」、「単位認定試験」で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 割合については初回の講義にて確認。		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の EBM に必要な統計学について学ぶ。統計処理の基礎を学ぶこと、理学療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて統計処理を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	1 統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ 2 推定と検定の基礎、2 標本の差の検定－パラメトリック法 (1) 3 1 標本の差の検定－パラメトリック法 (2)、差の検定－ノンパラメトリック法 (1) 4 相関、回帰分析 5 重回帰分析、分割表の検定 6 一元配置分散分析、反復測定分散分析 7 信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 8 検査値の判断指標、まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	15 レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学 第 2 版 中山書店		
備 考 Other Comments	講義を中心に実施し、必要に応じて統計処理ソフトを用いた実技・実演を実施する。		
実務経験内容			

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	岡田 明	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適につくることが、今強く求められている。老若男女、少数派・多数派を問わず、豊かで健康的な生活を送るためには必要不可欠なことである。それを実現するためには、こうした空間や機器が、人間そのものに適合するようにデザインされなければならない。 人間工学はそれを支援する学問分野である。すなわち、生活を営む人間の形態や生理的・心理的機能を明らかにし、それを機器や環境の設計に結び付けていくことを目的としている。その点、これからの設計者やデザイナーに必要な不可欠な素養といえる。 講義では、居住空間や住宅設備・生活機器等を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、設計のガイドラインや方法を紹介していく。毎回 1 つのテーマをとりあげ解説していく。		
授業計画 Course Content	毎回 1 つのテーマを取り上げていく。全体は 2 部構成となっており、第 1 部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第 2 部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。 〔第 1 部〕 1 イントロダクション ―人間工学とは何か、どう役立つのか 2 人間工学の具体化をイメージする ―イスのデザインを事例として 3 モノづくりは人の寸法を知ることから始まる ―人体寸法とデザイン 4 悪い姿勢が体を壊す ―運動機能と身体負担 5 感覚は五感だけではない ―感覚の種類と視覚機能 6 人はどのように見ているのか ―視覚の生理学 7 人は見たモノをどのように感じているのか ―視覚の心理学 8 ストレスは悪者ではない ―疲労・ストレスと快適性デザイン 9 わかりやすさをデザインする ―人の認知特性と安全設計 10 ストレスは悪者ではない ―疲労・ストレスと快適性デザイン 12 誰もが目的を達成できるモノのデザイン ―ユニバーサルデザインと人間工学 〔第 2 部〕 11 エイジングと高齢者の居住環境 ―高齢社会に対応したモノづくり 介護とリハビリの人間工学的視点 13 リハビリの安全と生理 14 演習：病院のユニバーサルデザイン 15 まとめと明日の人間工学の課題		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	毎時間後の授業コメント＋試験＋レポート		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備 考 Other Comments	毎時間プリントを配布、プリント中に必要事項を書き込んで講義ノートが完成		

科目名 Course title	外国語Ⅰ（医学英語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション：医療英語とは臨床英語&論文読解 2 医療英語を用いた論文の検索方法 国際雑誌の選定 3 Original Article（原著論文）Case Report（症例報告）Review Article（総説）とは 4 医学英語論文の種類と Title の表現 Title から読み取る論文の良し悪し 5 Abstract とは？ Informative Abstract と Indicative Abstract 6 Summary 症例報告の Summary 総説の Summary 7 Introduction の読み方 8 Materials and Methods と Results の読み方 1 9 Materials and Methods と Results の読み方 2 10 Discussion の読み方 11 Conclusion References Acknowledgement の読み方 12 論文を読んでみよう（グループワーク） 13 論文を読んでみよう（グループワーク） 14 臨床上必須英語・診療上常用英語 15 総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」 金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 理学療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験 1 級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および 1 年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5 日本語能力試験 N1 対策講座 読解③&聴解① 6 日本語能力試験 N1 対策講座 読解④&聴解② 7 日本語能力試験 N1 対策講座 模擬試験 8 解剖学用語 総論 9 解剖学用語 骨 10 解剖学用語 関節 11 解剖学用語 靱帯 12 生理学用語 総論 13 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14 生理学用語 循環器系 15 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ショートテニス 3 卓球 4 バスケットボール 5 ショートテニス 6 バレーボール 7 バスケットボール 8 ショートテニス 9 ショートテニス 10 卓球 11 フットサル 12 卓球 13 ショートテニス 14 ショートテニス 15 フットサル		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	活動点		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	村上 由希	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SBOs）： ①公衆衛生学の必要性和重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動を実践できる力を養成する。		
授業計画 Course Content	1 衛生・公衆衛生学序論 2 保健統計・疫学 3 感染症対策・国際保健・災害医療と健康危機管理 4 環境保健・地域保健と保健行政 5 母子保健・学校保健 6 成人保健・産業保健 7 高齢者の保健・医療・介護 8 精神保健・障害者の保健・難病対策		
成績評価等	定期試験 60 点で合格		
教科書 Textbooks	「シンプル衛生 公衆衛生学」 南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森川 あやこ 赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	自分自身の性格を知った上で、自身が集団においてどのように振る舞えるのか、振る舞うべきなのかを学び、さらに臨床実習に必要な対人スキルを学ぶ。 それらを理解したのち、社会人としてだけではなく、さらに医療を担う者として、どのようなコミュニケーション能力が必要か、また患者に対して、チーム医療としてのコミュニケーションの重要性を学び、実技を交えて習得していくことを目標とする。		
授業計画 Course Content	1 自己紹介、他己紹介のためのコミュニケーション① 2 自己紹介、他己紹介のためのコミュニケーション② 3 電話応対、挨拶、お礼、お詫び 4 コミュニケーション概論 5 医療者に必要な身なり、態度を理解する 6 自身の態度を知る。ポーターの態度類型 7 理学療法士の学生に求められる態度を考える 8 言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション 9 観察する力と傾聴する力について考える。身につける。 10 傾聴実践 11 社会人のマナーとしてのコミュニケーション 12 OSCE を使用したコミュニケーションの実践練習 13 臨床で役立つコミュニケーション① 14 臨床で役立つコミュニケーション② 15 実際の患者を想定したコミュニケーションの実践		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、提出物、筆記試験で総合的に評価する。		
教科書 Textbooks	「PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第3 版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	解剖学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田 雅朗	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	人体を構成する器官のうち、骨格と関節・靱帯について学ぶ。 各部位の名称とともに、その構造や働きについて理解する。		
授業計画 Course Content	1 骨学総論 骨格の分類 骨の形態・分類・構造、骨の血管と神経、骨の機能 2 骨学総論 骨発生（軟骨内骨化と膜内骨化）と骨のリモデリング 3 骨学各論 頭蓋骨：顔面頭蓋、脳頭蓋 4 骨学各論 頭蓋骨：内頭蓋底と外頭蓋底、新生児の頭蓋冠 5 骨学各論 脊柱：脊柱の全景、各椎骨の特徴 6 骨学各論 胸郭：胸郭の全景、構成する骨の特徴（胸椎、胸骨、肋骨） 7 骨学各論 上肢骨：上肢帯骨（鎖骨、肩甲骨） 8 骨学各論 上肢骨：自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨） 9 骨学各論 下肢骨：下肢帯（寛骨、骨盤） 10 骨学各論 下肢骨：自由下肢骨（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨） 11 骨学復習 1 12 骨学復習 2 13 関節・靱帯総論 関節の連結様式による分類と運動軸、基本構造、関節の機能 14 関節・靱帯各論 頭蓋の縫合、顎関節 15 関節・靱帯各論 脊柱の連結（関節）、脊柱の運動 16 関節・靱帯各論 胸郭の連結（関節）、胸郭の運動 17 関節・靱帯各論 上肢：上肢帯の連結、自由上肢骨の連結、肩関節の運動 18 関節・靱帯各論 上肢：肘関節と靱帯、橈骨と尺骨の連結、関節の運動 19 関節・靱帯各論 上肢：手関節、手根骨の関節、指節間関節、関節の運動 20 関節実習（顎関節、環椎後頭関節、環軸関節、肋椎関節） 21 関節・靱帯各論 下肢：下肢帯の連結、自由下肢骨の連結 1、股関節の運動 22 関節・靱帯各論 下肢：自由下肢の連結 2（膝関節、脛腓関節、足関節、足根骨の関節）、 関節の運動、関節・靱帯の復習 1 23 関節・靱帯の復習 2		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田 雅朗	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	全身の筋を知り、起始・停止の部位から作用を理解できる。 神経の基本構造を知り、筋・臓器との関連を理解できる。伝導路の構成を理解できる。		
授業計画 Course Content	1 筋学総論 骨格筋組織、筋の構造と形態による分類、筋の補助装置、運動単位 2 筋学各論 上肢の筋（上肢帯、上腕の筋） 3 上肢の筋（前腕、手の筋） 4 下肢の筋（下肢帯、大腿、下腿の筋） 5 下肢の筋（足の筋） 6 体幹の筋（頭頸部の筋） 7 体幹の筋（背部、胸部、腹部の筋） 8 筋学実習 （骨格標本と筋のペーパーモデルを用いて） 9 神経学総論（神経組織、神経系の分類と構成） 10 神経学総論（神経系の発生、脊髄と脳の発生、末梢神経系の発生） 11 神経学各論 中枢神経系（脊髄） 12 中枢神経系（脳幹、小脳） 13 中枢神経系（間脳、終脳） 14 中枢神経系（終脳） 15 末梢神経系（脊髄神経） 16 末梢神経系（脊髄神経） 17 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） 18 末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） 19 末梢神経系（自律神経） 20 伝導路（下行性：錐体路と錐体外路） 21 伝導路（上行性：感覚の伝導路） 22 伝導路（上行性：感覚の伝導路） 23 復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する 2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 3 細胞分裂、組織：上肢組織 4 組織：支持組織、筋組織、神経組織 5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈） 7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 8 静脈：脳、上肢、奇静脈系 9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓 11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 14 消化器系④：肝臓、脾臓、胆道 15 腹膜、間膜		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅳでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドで説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	1 肝臓・膵臓の機能・構造、腹膜 2 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 3 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、呼吸の仕組み 4 泌尿器系：腎小体、尿細管 5 泌尿器系・男性生殖器：腎の機能、排尿の仕組み、男性生殖器、精巣 6 男性生殖器：精子の発生、陰囊、尿道、付属器官、陰茎 7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体、月経周期、膣 8 女性生殖器：外陰部、会陰、ヒトの発生、胎盤 9 内分泌系：下垂体、視床下部、松果体、甲状腺 10 内分泌系：甲状腺の病気、血中カルシウム濃度調整ホルモン、副腎皮質 11 抗ストレス作用、性ホルモン、感覚器、外皮の構造 12 角質器、体性神経、視覚器（眼球壁、脈絡膜、毛様体） 13 視覚器（虹彩、網膜、水晶体、眼筋） 耳（外耳、鼓膜） 14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜 15 耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生体の機能、働きとそのメカニズム・仕組みを学ぶ。 生命現象発現の基本単位は細胞である。細胞が集合して組織を形成し、数種の組織が集合して器官となり、さらに多くの器官が集合して個体となる。ミクロからマクロに視点を移すにつれ、複雑な機能が発現する。細胞に存在する声明の諸反応の基本から器官レベルまでを知る。またそれらが、結合され保たれていることを一貫して理解する。		
授業計画 Course Content	1 生理学の基礎① 細胞の機能的構造 2 生理学の基礎② 物質の移動 3 神経の基本的機能① 神経細胞の構造と働き 活動電位 4 神経の基本的機能② 興奮の伝導 5 神経の基本的機能③ 興奮の伝導 6 筋肉の基本的構造① 骨格筋の構造と作用 7 筋肉の基本的構造② 筋収縮の仕組み 8 筋肉の基本的構造③ 筋収縮のエネルギー代謝 9 筋肉の基本的構造④ 平滑筋と心筋 1 0 神経系の構成① 反射の基礎 神経系の構成 1 1 神経系の構成② 脊髄と脊髄神経 1 2 神経系の構成③ 脳幹と脳神経 1 3 自律神経系と内臓機能① 交感神経系と副交感神経系 1 4 自律神経系と内臓機能② 化学伝達物質と受容体 1 5 自律神経系と内臓機能③ 内臓反射		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 1 0 0 点満点中 6 0 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。 様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。 本科目では、体液、体性神経系と運動の機能、中枢神経系の高次機能、感覚器系の構成と機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 体液とその調節① 体液の区分と組織 酸塩基平衡の調節 2 体性神経系と運動機能① 運動機能概説 3 体性神経系と運動機能② 脊髄の運動機能 4 体性神経系と運動機能③ 脳幹の運動機能 5 体性神経系と運動機能④ 小脳・間脳の運動機能 6 体性神経系と運動機能⑤ 大脳基底核の運動機能 7 体性神経系と運動機能⑥ 錐体路 8 中枢神経系の高次機能① 新皮質の構造と機能分化 9 中枢神経系の高次機能② 新皮質連合野の統合機能 10 中枢神経系の高次機能③ 睡眠と覚醒、辺縁系と視床下部の機能 11 感覚系の構成と機能① 感覚の一般的性質 12 感覚系の構成と機能② 体性感覚 内臓感覚 13 感覚系の構成と機能③ 視覚 14 感覚系の構成と機能④ 聴覚と平衡感覚 15 感覚系の構成と機能⑤ 嗅覚と味覚		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学Ⅲでは、人体における内分泌系の機能、生殖機能、栄養と代謝、消化器系の機能、血液の生理について学習する。その中でも特に理学療法士に必要なかわりの深い内容、国家試験の頻出問題を解説する。到達目標は人体での生理的な機能の重要性を理解し、本講義範囲の国家試験問題を読解する経験を得るところまでとする。		
授業計画 Course Content	1 内分泌系の機能 ホルモンの一般的性質（科学的組成～作用機序まで） 2 内分泌系の機能 下垂体、視床下部、甲状腺の内分泌器官としての役割 3 内分泌系の機能 骨代謝の内分泌調整、副腎皮質、膵臓の内分泌器官の役割 4 生殖機能 性染色体、性腺刺激ホルモン、生殖機能の構造と変化（加齢を含む） 5 栄養と代謝 生体に必要なエネルギー、エネルギー産生と栄養摂取の割合 6 栄養と代謝 エネルギー産生の中間代謝 糖質・脂質・タンパク質 7 栄養と代謝 エネルギー産生栄養素のエネルギー代謝 8 消化器系の機能 消化器系の役割 消化管の運動と分泌機能 9 消化器系の機能 消化管の消化と吸収機能 糖質・脂質・タンパク質 10 消化器系の機能 消化管ホルモン 11 消化器系の機能 肝臓と胆道系の役割 12 血液の生理 血液の機能と組成 血液型の表現型 13 血液の生理 止血機能 生体防御機能としての血液 14 国家試験問題の読解 15 総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	シンプル生理学 改訂第8版		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学Ⅳでは、人体における循環系の機能、呼吸の生理、尿の生成と排泄、体温とその調整について学習する。その中でも特に理学療法士に必要なかわりの深い内容、国家試験の頻出問題を解説する。到達目標は人体での生理的な機能の重要性を理解し、本講義範囲の国家試験問題を読解する経験を得るところまでとする。		
授業計画 Course Content	1 循環系の機能 心臓の構造と基本的性質 自動性・興奮性・伝導性・収縮性 2 循環系の機能 心電図と不整脈のメカニズム 心臓ポンプ機能 3 循環系の機能 血管系とリンパ系官、循環調整機構 4 循環系の機能 循環調節機構と局所循環 5 呼吸の生理 呼吸の仕組み、構造・構成・喚起、ガス交換 6 呼吸の生理 血液中の酸素運搬、二酸化炭素の運搬、一酸化炭素中毒 7 呼吸の生理 呼吸・肺換気量の調整、異常、人工呼吸 8 尿の生成と排泄 腎の機能的構造、糸球体ろ過 9 尿の生成と排泄 腎血漿流量、クリアランス 尿細管による再吸収 1 0 尿の生成と排泄 尿細管における分泌、尿の成分と排尿 1 1 体温とその調整 体温、熱生成、熱放散 1 2 体温とその調整 行動性体温調整、体温調整機構 1 3 体温とその調整 高体温と低体温 1 4 国家試験問題の読解 1 5 総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	シンプル生理学 改訂第 8 版		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	基礎運動学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の内容を確認し、なぜ基礎運動学が必要なのかを学ぶ。 我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学 I においては、神経細胞、筋細胞、神経筋接合部、筋収縮のメカニズムなど神経筋機能の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 運動学とその領域 運動学の歴史 運動学の現状と展望 2 運動の分類 3 生体力学について① 4 生体力学について② 5 運動に関わる生体構造と機能：解剖 6 運動に関わる生体構造と機能：生理 7 運動に関わる生体構造と機能：運動器 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第 6 版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田勝文	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学Ⅱにおいては、中枢神経、末梢神経、感覚器および上肢帯と上肢の関節、靱帯、筋機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 総論 2 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯① 3 上肢帯と上肢の運動：肩甲帯② 4 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節① 5 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節② 6 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節③ 7 上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節④ 8 上肢帯と上肢の運動：肘関節① 9 上肢帯と上肢の運動：肘関節② 10 上肢帯と上肢の運動：手関節① 11 上肢帯と上肢の運動：手関節② 12 上肢帯と上肢の運動：手指① 13 上肢帯と上肢の運動：手指② 14 総復習 国家試験問題 15 総復習 国家試験問題		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験5年及び専任教員17年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	股関節、膝関節、足関節の関節構造と機能を学習する。運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。したがって運動学的知識は先の評価・治療の学習を見据え、骨模型や生体を通じ動的なイメージも身につけること、各関節の構造と機能を説明できることを目標とする。		
授業計画 Course Content	1 股関節の骨指標・関節包内運動・構成運動 2 大腿骨の頸体角・前捻角、Sharp 角・CE 角・ローザーネラトン線 3 股関節筋の靱帯・関節唇の機能、スカルパ三角 4 股関節筋の機能、関節中心と筋のベクトル 5 股関節運動の制限因子、腰部・骨盤運動と股関節の関係性、股関節トルクと体重のつり合い 6 膝関節の骨・靱帯、FTA、ミクリッツ線 7 膝の運動学（転がり滑り、Screw-home movement、Roll back） 8 前十字靱帯・後十字靱帯・側副靱帯の機能、膝蓋大腿関節の運動学 9 膝関節関節の筋機能、膝関節剪断力について 1 0 足関節・足部の骨・靱帯、Leg Heel Angle 1 1 足関節の運動 1 2 足部の運動、距腿・距骨下関節に作用する筋肉 1 3 足部内在筋、クロスサポートメカニズム、ウィンドラス・トラス機構 1 4 縦アーチと横アーチ 1 5 運動連鎖（上行性・下行制、OKC・CKC）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（80%） 小テスト（20%） ※小テストは 2 回目以降の授業開始時に実施予定		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第 6 版」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 1 年及び専任教員 2 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成、高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。体幹の関節構造と機能の学習が胸腰部の疾患や障害の評価・治療の学習に繋がるよう基盤の形成を目指す。 基本的動作能力の回復が理学療法の目的であり、立位や歩行は基本動作の中でも重要視される姿勢と動作である。これらの運動学的知見は姿勢動作観察分析に必要不可欠であるため、本講義で網羅的に姿勢歩行の運動学的知識の修得を目指す。		
授業計画 Course Content	1 脊柱の運動学：腰椎 2 脊柱の運動学：胸椎・胸郭 3 脊柱の運動学：頸椎 4 顔面の運動学 5 姿勢 力学の基礎（重心と筋活動、床反力と筋活動） 6 安静時立位姿勢と筋活動 立位姿勢制御 7 歩行 基礎知識 歩行周期 8 歩行 基礎知識 歩行周期 9 歩行時の重心とその仕組み 10 歩行 関節角度 11 歩行 筋活動 12 歩行 筋活動 13 歩行 関節モーメント 14 歩行 関節モーメント 15 総復習 国家試験問題		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版 「観察による歩行分析」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員6年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員1年の経験を有する。。		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content	1 病理学とは何か？（病因論）病理学とは何か、病理学の役割と内容、病気の原因（病因論）、生命の防御機構、細胞傷害と細胞増殖、細胞組織の修復と再生：細胞死（壊死とアポトーシス）、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理 2 炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎、感染症 3 免疫機構：液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原と抗体、アレルギー、自己免疫疾患 4 循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症 5 循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気 6 腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能的腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学 7 呼吸器：上気道（鼻、咽頭）下気道（気管、気管支、肺）の病気、COPD、肺炎、肺がん 8 代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常 9 消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓、膵臓の病気 10 遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断 11 造血系：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気 12 泌尿器・生殖器：腎臓・膀胱の病気、女性生殖器（子宮頸部・体部、卵巣）、乳腺の病気、繊維毛性疾患、男性生殖器（精巣、前立腺）の病気 13 中枢神経系・末梢神経系：脳血管障害、感染症、脱髄疾患、変性疾患、脳腫瘍 14 運動器：骨・軟骨の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気 15 病理学総括（復習・国家試験対策）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 ＋ 提出物		
教科書 Textbooks	「カラーで学べる病理学 第5版」ニューヴェルヒロカワ		
備 考 Other Comments	すべての講義で10分程度の小テスト実施。		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーションⅠ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（内部教員）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションについての知識を理解し、対象者を取りまくリハビリテーションスタッフとして理学療法士がどのような役割があり、どのように関わっていくかを学ぶ。 リハビリテーションという言葉の意味や概念について学び、リハビリテーション現場の見学を通じて具体的に概念やリハビリテーションスタッフの一員としての役割を理解することを目指す。		
授業計画 Course Content	1 リハビリテーションについて 2 リハビリテーション施設見学 3 リハビリテーション施設見学 4 リハビリテーション施設見学 5 リハビリテーション施設見学 6 リハビリテーション施設見学 7 リハビリテーション施設見学 8 リハビリテーション施設見学 9 障害体験 10 障害体験 11 障害体験 12 障害体験 13 発表準備 14 発表会 15 課題：経験した内容についてまとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	体験学習レポート 発表会内容		
教科書 Textbooks	別途資料を配布する		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 26 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 17 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 11 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 11 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（ＯＴ・ＳＴ・ＮＳ）	期間及び単位 Term/Credits	１年次 後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士・言語聴覚士・看護師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（作業療法） 作業療法とは何をするのか、何ができるのか、チームとして理解を深める。 （言語聴覚療法） 実務経験療法における概論を学ぶことで、将来チームで協業することについて身近なものと感じてもらいたい。また、実務経験療法で、できることを学んでいただこうと思います。 （看護師） 看護師とは何をするのか、何ができるのか、チームとして理解を深める。		
授業計画 Course Content	（理学療法士） １ 多職種連携 理学療法 総論 （作業療法士） ２ 多職種連携 作業療法 総論 ３ 老年期作業療法、精神科作業療法 ４ 発達障害領域の作業療法 （看護師） ５ 多職種連携 看護 総論 （言語聴覚士） ６ 嚥下障害総論・嚥下障害の実際 ７ 言語聴覚総論・失語症と構音障害 （リハビリテーション関連職種） ８ 多職種連携 医療ソーシャルワーカー総論 ９ 多職種連携 ケアマネージャー （３科多職種連携） １０ 多職種連携総論 １１ 多職種連携 症例課題 グループワーク １２ 多職種連携 症例課題 グループワーク １３ 多職種連携 発表 （感染対策） １４ 標準予防策・感染予防実習 １５ 感染予防実習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験と３科多職種連携課題（提出・発表）の合算で評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法の分野は当校作業療法学科教員が担当 その他、関連医療法人の関連職種が講師を担当する予定		

科目名 Course title	社会福祉概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足 of いく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content	1 身体に起こりえる生活問題の紹介と社会福祉との関係性と必要性 2 社会保険制度の仕組みとあり方 戦後の動向 年金制度について（社会保険制度について） 3 医療制度について 介護保険制度について 4 介護保険制度について 公的扶助について 低所得者福祉について 生活保護法について 5 公的扶助について 6 権利擁護と成年後見制度について 7 子どもの権利と女性福祉問題について 8 子どもの権利と女性福祉問題について、テスト対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法概論Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 理学療法の概念と歴史 2 理学療法士の法律：「理学療法士及び作業療法士法」 3 理学療法の意義と役割 4 理学療法の対象 5 理学療法の方法 6 理学療法士の組織 7 理学療法士教育 8 医療・保険分野の理学療法		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「理学療法概論 第4版」 神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員26年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法概論Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 地域リハビリテーションと理学療法 2 医療事故とリスクマネジメント 3 ハラスメントについて 4 個人情報の管理と対象者の権利 5 理学療法士を目指す学生に求められるもの 6 理学療法士研究について 7 臨床で求められる学生とは 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「理学療法概論 第4版」 神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員26年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法障害学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	障害の科学的研究により、どのような障害がどの程度起こるのか、どの程度改善するのか、リハビリテーションの軸は何かを学ぶ。1 年生の観察実習、2 年生の演習授業に先立ち、大まかな病態を把握し障がいを用意できるレベルを目指す。		
授業計画 Course Content	1、病気と障害について 2、障害の構造について 3、ICIDH 症例演習 4、ICF 症例演習 5、障害に対する心理的状況と障害受容、医療職としての関わり 6、復習) 障害をとらえる枠組み (ICIDH/ICF)、器官別機能と治癒過程①皮膚 7、器官別機能と治癒過程②靱帯 8、器官別機能と治癒過程③腱・筋肉 9、器官別機能と治癒過程④末梢神経 10、器官別機能と治癒過程④末梢神経 11、脳の機能、中枢神経障害 12、中枢神経障害 (運動麻痺・筋緊張・運動失調・不随意運動) 13、中枢神経障害 (高次機能障害) 14、中枢神経障害 (高次機能障害) 15、骨・軟骨・関節・骨折の総論		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし (資料配布)		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	関連法人関係職種が担当予定		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹 宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	7 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【講義概要】 理学療法における評価と検査を伝え、評価の重要性について解説する。 バイタルサインチェック（血圧、脈拍、呼吸、血中酸素）、形態測定（四肢長、四肢周径）、関節可動域測定の意義、目的を明確にした上で検査方法の習得を促す。また関節の解剖学的構造を踏まえた運動方向の理解を図りつつ同時に実施時の患者への配慮を学ぶ。 【到達目標】 理学療法プロセスにおけるバイタルサインチェック、形態測定、関節可動域測定の意義や必要性、臨床においての重要性を理解できる。また、正確に実施することができる。		
授業計画 Course Content	1 理学療法評価 総論、体温と 2 バイタルサインチェック① バイタルサインとは、脈拍の測定方法の解説と実施 3 バイタルサインチェック② 血圧について、血圧の測定方法の解説と実施 4 バイタルサインチェック② 呼吸について、呼吸の評価方法の解説と実施 5 形態測定① 形態測定とは、胸囲、腹囲、四肢長と四肢周径の計測意義 6 形態測定② 上肢長（上肢長、上腕長、前腕長）測定方法の解説と実施 7 形態測定③ 下肢長（棘果長、転子果長、大腿長、下腿長）測定方法の解説と実施 8 形態測定④ 周径（上腕周径、前腕周径、大腿周径、下腿周径）測定方法の解説と実施 9 疼痛の評価方法について（NRS、VAS、FaceScale） 10 SOAP と ICDH・ICF について 11 関節可動域測定の意義、目的 12 関節可動域測定① 肩甲帯（屈曲、伸展、挙上、下制） 13 関節可動域測定② 肩関節（屈曲、伸展、内転、外転、内旋、外旋） 14 関節可動域測定③ 肘関節（屈曲、伸展）、前腕（回内、回外） 15 関節可動域測定④ 手関節（掌屈、背屈、尺屈、橈屈） 16 関節可動域測定⑤ 股関節（屈曲、伸展） 17 関節可動域測定⑥ 股関節（内転、外転） 18 関節可動域測定⑦ 股関節（内旋、外旋） 19 関節可動域測定⑧ 膝関節（屈曲、伸展）、足関節（背屈、底屈） 20 関節可動域測定⑨ 足部（内がえし、外がえし） 21 関節可動域測定 下肢振り返り① 22 関節可動域測定 下肢振り返り② 23 関節可動域測定⑩ 手指 24 関節可動域測定⑪ 足趾 25 血圧・形態測定 振り返り① 26 血圧・形態測定 振り返り② 27 関節可動域測定⑫ 足趾・手指 振り返り 28 関節可動域測定⑬ 頸部（屈曲、伸展） 29 関節可動域測定⑭ 頸部（回旋、側屈） 30 関節可動域測定⑮ 体幹（屈曲、伸展） 31 関節可動域測定⑯ 体幹（回旋、側屈） 32 関節可動域測定 体幹振り返り① 33 関節可動域測定 体幹振り返り② 34 関節可動域測定 上肢振り返り① 35 関節可動域測定 上肢振り返り② 36 症例を元にした検査測定（整形） 37 症例を元にした検査測定（中枢） 38 総振り返り		
成績評価の方法・基準・評価	筆記試験（中間試験、終講試験）・実技試験 の3つの成績を加味して判定する。		
教科書 Textbooks	「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 第2版」 メジカルビュー社 「PT・OTのための測定評価 ROM測定 第2版」三輪書店 「理学療法評価学 第6版補訂版」金原出版株式会社		
備 考	なし		
実務経験内容	高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員1年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾、高山 弘幹、梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	7 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標	筋力測定の意義を理解する。MMT の原理・原則を理解する。各測定項目の計測の基本と注意点を習得し、健常者を対象に適切な方法かつ妥当な時間で検査を実践できる。		
授業計画 Course Content	1 総論 筋力とは MMT の原理、原則、注意点、肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨挙上(僧帽筋)、 2 肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) 肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群) 3 肩関節屈曲(前方拳上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋)、肩関節伸展(後方拳上)(三角筋後部) 4 肩関節外転(側方拳上)(三角筋中部および棘上筋)、肩関節水平外転(三角筋後部) 5 肩関節水平内転(大胸筋)、肩関節外旋(棘下筋、小円筋) 6 肩関節内旋(肩甲下筋)、肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋) 肘関節伸展(上腕三頭筋) 7 前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) 8 手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手伸筋) 手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、 9 PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋)の屈曲 複合テスト 10 PIP 関節および DIP 関節、MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋) 11 指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋)、 12 指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋) 13 母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP、IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) 14 母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、 15 対立運動(母指対立筋、少子対立筋) 16 股関節屈曲・伸展 17 股関節伸展別法 18 股関節外転、股関節内転 19 股関節外旋、股関節内旋 20 膝関節屈曲(総合)、内側・外側 21 膝関節伸展 22 足関節底屈、足関節背屈内がえし 23 足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし 24 母趾と足ゆびの MP 関節屈曲、DIP、PIP 関節屈曲、 25 母趾と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展 26 下肢 実技振り返り ① 27 下肢 実技振り返り ② 28 下肢 実技振り返り ③ 29 下肢 MMT 国家試験対策 ① 30 下肢 MMT 国家試験対策 ② 31 頸部屈曲、伸展、回旋 32 頭部屈曲、伸展、体幹屈曲 33 体幹回旋、体幹伸展 34 骨盤挙上、体幹側面 35 安静な吸気 36 脳神経支配筋のテスト 37 徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法) 38 総まとめ		
成績評価の方法・基準・評価	筆記試験、実技試験で評定		
教科書 Textbooks	「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 第2版」 メジカルビュー社 「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢 第2版」 メジカルビュー社 「新・徒手筋力検査法 第10版」 協同医書出版		
備 考	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験12年及び専任教員26年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員1年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験5年及び専任教員6年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	変形性股関節症について調べ・説明することができる。 模擬患者に評価の過程を実践し、障害像を把握する方法を理解する。		
授業計画 Course Content	1 正常股関節の解剖と運動学① 2 正常股関節の解剖と運動学② 3 正常股関節の病態・疫学・症候・機能障害① 4 正常股関節の病態・疫学・症候・機能障害② 5 変形性股関節症の病態・画像 6 医療面接の実技演習 7 医療面接の実践① 8 医療面接の実践② 9 情報収集の整理：handicaps/disability の関係性、impairment の把握 10 変形性股関節症患者の検査測定の実施 11 変形性股関節症患者のテスト・言葉の解釈 12 言葉の解釈（総説）、T H A の手術 13 T H A 術後の機能障害についてと合併症、検査項目 14 T H A 患者に対する移乗・肢位交換の介助、術後炎症の見方、T H A 患者になりきり実体験 15 T H A 術後の検査測定の実施 16 T H A 模擬患者に対する検査測定① 17 T H A 模擬患者に対する検査測定②、その振り返り 18 impairment の想起① 19 impairment の想起② 20 impairment が動作に及ぼす影響、脱臼肢位と動作・その代償 21 社会的不利の関連性① 22 社会的不利の関連性② 23 臨床思考図の要約		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物、筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 7 年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	運動療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・運動療法の歴史と位置づけ、適応の理解 ・関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動、協調性トレーニングの適応と方法の理解 ・基本的運動療法の実践及び習得 ・運動療法機器の理解		
授業計画 Course Content	1 国家試験における運動療法の傾向、運動療法の基礎、バイオメカニクス：ベクトル・モーメント 2 関節可動域運動 関節について① 3 関節可動域運動 関節について② 4 関節可動域運動 関節包内運動 5 実技：関節の遊び 6 関節可動域運動 エンドフィール 7 実技：構成運動、エンドフィール 8 静的ストレッチング 9 バリスティック・ダイナミックストレッチング 10 筋力増強運動① 11 筋力増強運動② 12 筋力増強運動③ 13 筋力増強運動④ 14 筋力増強運動⑤ 15 筋力増強運動⑥ 16 持久力運動① 17 持久力運動② 18 持久力運動③ 19 持久力運動④ 20 持久力運動⑤ 21 持久力運動⑥ 22 運動学習 23 その他		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	中間試験、終講試験にて評定する。		
教科書 Textbooks	「運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版」 文光堂		
備 考 Other Comments	解剖学、生理学、基礎運動学の復習を交えながら理学療法治療理論を深める。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	物理療法学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	講義概要 温熱・寒冷療法を学習する。温熱・寒冷療法がもたらす効果の機序について生理学的知見を交えて学習する。ホットパック・パラフィン・超音波・極超短波・アイスマッサージ・アイスパック・コールドパック・コールドスプレー・持続的冷却装置の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。 到達目標 温熱療法、寒冷療法に伴う生理的变化を説明できる。 物理療法の種類とそれぞれの適応と禁忌について説明できる。 物理療法の使用方法を理解し、実際に使用する		
授業計画 Course Content	1 物理療法の目的、理学療法のなかでの位置づけ、物理療法各機器の概説 2 物理療法の対象と病理（炎症と創傷治癒）、物理療法の対象と病理（疼痛） 3 物理療法の対象と病理（筋トヌス異常）、物理療法の対象と病理（運動制限） 4 温熱が全身、局所に与える影響① 5 温熱が全身、局所に与える影響② 6 ホットパック・パラフィン療法 7 ホットパック・パラフィンの演習 8 超音波療法① 9 超音波療法② 10 極超短波療法 11 極超短波療法・超音波療法の演習 12 寒冷療法 生理学的作用について 13 寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について 14 アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、持続的冷却装置の使用法、注意点などについて 15 アイスパック コールドパックの演習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	ホットパック・パラフィン、極超短波療法・超音波療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験8年及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・ ADL の概念と、その範囲と評価について学び「できる ADL」「している ADL」の違いを理解し ADL 評価を実践する事が出来る。 ・ 車いす、歩行補助具、トランスファー介助、一側下肢障害の ADL、福祉機器等についての理解と実践。 ・ ADL 指導の実践。		
授業計画 Course Content	1 ADL 総論 ADL の概念 2 ADL 評価 FIM 総論・各論 3 ADL を支援する機器、杖設定方法 4 車椅子各部名称、操作方法・介助方法練習 5 福祉機器説明① 6 福祉機器説明②、基本的動作について 7 寝返り・起き上がり 動作介助 8 一側下肢障害の ADL 指導と介助法 9 移乗動作 実技 10 基本的な杖歩行と介助 ②杖による階段昇降 11 寝返り・起き上がり 実技 12 立ち上がり～歩行介助 復習 13 車いすへの移乗 復習 14 FIM について 練習問題 15 振り返り、バーサルインデックス		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験、筆記試験の合算		
教科書 Textbooks	「ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第3 版」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法学Ⅰ ※選択	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場合はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬会介在療法とは何かを学ぶ。 2 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 3 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 4 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ 5 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 6 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のにとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 7 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 8 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してするための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	観察実習（医療）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	40 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	(1) 病院・施設等の全体的な業務と機能を知る。 (2) 理学療法プロセスに触れ、理学療法士の業務内容を理解する。 (3) リハビリテーションチームの構成を知り、その一員として理学療法士の役割責任および協調の必要性を自覚する。 (4) 患者（対象者）の持つ障害を ICF や ICIDH を用いて分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知る。 さらに患者（対象者）の全体像をとらえる努力をする。 (5) 障害の臨床像を見学・体験し把握し、理解を深める。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果と実習課題の合算		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 26 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 17 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 11 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	観察実習（訪問・通所）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	40 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	観察実習（医療）に準じる (1) 病院・施設等の全体的な業務と機能を知る。 (2) 理学療法プロセスに触れ、理学療法士の業務内容を理解する。 (3) リハビリテーションチームの構成を知り、その一員として理学療法士の役割責任および協調の必要性を自覚する。 (4) 患者（対象者）の持つ障害を ICF や ICIDH を用いて分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知る。 さらに患者（対象者）の全体像をとらえる努力をする。 (5) 障害の臨床像を見学・体験し把握し、理解を深める。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果と実習課題の合算		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 26 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 17 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 11 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

講義概要

2024 年度 理学療法学科
2 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	人間発達学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	荒川 鉄也	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	胎児期～老年期までの発達（変化）を考えていく。		
授業計画 Course Content	1 発達概念 2 発達理論 3 発達検査 4 姿勢反射・反応 5 運動発達（0～3ヶ月） 6 運動発達（4～6ヶ月） 7 運動発達（7～9ヶ月） 8 運動発達（10～12ヶ月） 9 運動発達（13ヶ月以降） 10 姿勢反射・反応と6歳までの発達 11 上肢の発達 12 A D L の発達（遊び・食事・排泄・更衣） 13 感覚・知覚・認知・社会性の発達 14 学童期・青年期・成人期・老年期の発達 15 補足講義・まとめ・復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	内科学 I	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	1 内科学総論；内科学とは、主な疾患 2 診療の基本；カルテと問診 3 診察法（1）；バイタルサインの見方・考え方 4 診察法（2）；身体所見の取り方と疾患 5 内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 6 循環器疾患（1）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック 7 循環器疾患（2）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） 8 循環器疾患（3）；虚血性心疾患（②）、心不全 9 循環器疾患（4）；不整脈 10 循環器疾患（5）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） 11 循環器疾患（6）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 12 呼吸器疾患（1）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 13 呼吸器疾患（2）；病原微生物と呼吸器感染症 14 呼吸器疾患（3）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 15 呼吸器疾患（4）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学 第3版」 南山堂		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	1 消化管疾患（1）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 2 消化管疾患（2）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 3 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（1）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか 4 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（2）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など 5 代謝性疾患（1）；糖尿病 6 代謝性疾患（2）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など 7 内分泌疾患 ；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 8 血液疾患（1）；血液解剖生理の復習、貧血 9 血液疾患（2）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 10 アレルギー・膠原病疾患（1）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 11 アレルギー・膠原病疾患（2）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 12 腎・泌尿器科疾患（1）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 13 腎・泌尿器科疾患（2）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 14 感染症（1）；感染症総論（感染経路、感染予防対策、治療法など） 15 感染症（2）；感染症各論（代表的な感染症）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学 第3版」 南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床神経学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor		期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経疾患とは何かを知る。 神経解剖学・神経生理学を通し、神経症状を理解する。 神経疾患特有の症候・検査を知る。		
授業計画 Course Content	1 神経系の構造と機能① 2 神経系の構造と機能② 3 運動とその障害 4 感覚とその障害 5 自律神経系 6 脳神経系 7 意識障害 8 頭痛 9 てんかん 10 神経診断法 11 末梢神経疾患 12 脊髄疾患 13 脳髄疾患 14 高次脳機能障害① 15 高次脳機能障害②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 選択式		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」 メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	関連法人の関係職種が担当		

科目名 Course title	臨床神経学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	多田 智	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	各神経疾患につき病態を理解し、治療法を知る。		
授業計画 Course Content	1 抹消神経疾患／脱髄性疾患 2 神経変性疾患 1 3 神経変性疾患 2 4 筋疾患／代謝性神経障害 5 感染性疾患 6 認知症 7 頭痛、てんかん、復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	テストによる評価		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経」 メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	関連法人の関係職が担当		

科目名 Course title	整形外科科学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 整形外科的基礎知識 2 整形外科治療法 3 整形外科疾患総論 4 炎症性疾患 5 代謝・退行性疾患 6 先天性疾患① 7 先天性疾患② 8 循環障害と壊死疾患① 9 循環障害と壊死疾患② 10 骨・軟部腫瘍① 11 骨・軟部腫瘍② 12 神経・筋疾患① 13 神経・筋疾患② 14 脊椎の疾患① 15 脊椎の疾患②		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学 第15版」 医学書院 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験30年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊椎疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	1 骨折① 2 骨折② 3 脊髄損傷① 4 脊髄損傷② 5 脊髄損傷問題 6 捻挫・脱臼 7 神経障害① 8 神経障害② 9 末梢神経損傷 10 腱・靱帯損傷 11 スポーツ障害① 12 スポーツ障害② 13 タナ障害 14 熱傷 15 切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学 第15版」 医学書院 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験30年の経験を有する。		

科目名 Course title	外科・救急医学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中江 晟	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法士として必要な外科学の知識を取得する。		
授業計画 Course Content	1 外科の歴史 2 外科学総論 3 外科学総論、損傷、創傷 4 外科学総論、熱傷 5 ショック・感染症 6 救急 7 手術供覧 8 器具供覧		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	考査による		
教科書 Textbooks	「STEP 外科 ①外科総論・脳神経外科 第2版」海馬書房		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験46年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	辻井 啓之	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	現代の主要な精神疾患について医学的に理解する。 疾患に限らず精神の様々な問題について考える。		
授業計画 Course Content	1 講師の自己紹介 授業の概要 症例 アルツハイマー型認知症 2 症例 脳血管性認知症 ニューロンとシナプス 心とは 3 症例 統合失調症 統合失調症ノート 4 症例 統合失調症残遺状態 統合失調症治療 リハビリテーション 5 症例 うつ病 うつ病ノート 6 症例 アルコール依存 アルコール依存ノート 7 症例 パニック障害 8 症例 PTSD		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版増補版 医学書院		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	西野 正人・福永 千佳	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	基本的にはテキストを中心に、小児の特徴・疾患について講義します。医師・看護師のカルテ内容を把握して、治療を協力して行える力をつけるようにスライド等資料を活用しながら、短時間の講義時間内でも、小児の特殊性を理解してもらいます。		
授業計画 Course Content	1 小児の成長と発育に関して様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。 2 感染症の数々の症例（写真を中心とした）を通して小児への感染症、消化器疾患を理解して頂く。 3 血液疾患を通じて、免疫や膠原病についても触れて理解を深めて頂きたい。 4 腎疾患を通して腎の生理、免疫、アレルギー、膠原病についても随時触れてゆきたい。 5 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 6 神経・筋・骨系疾患 7 循環器疾患、呼吸器疾患 8 習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小野 隆章	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	4 期の人生プロセスにそって代表的ストレス症状の原因と治療を理解する。自他ともに役立つ内容とする。		
授業計画 Course Content	1 子どものストレス症状① 夜尿 2 子どものストレス症状② チック・喘息 3 思春期のストレス症状① 登校拒否 4 思春期のストレス症状② 拒食症 5 中年期のストレス症状 うつ その① 6 中年期のストレス症状 うつ その② 7 老年期のストレス症状 認知症、死の心理学 8 まとめ（国試概説）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	論述式の筆記試験（持込不可）により全体的な理解力と表現力を評価します。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	テキストは使用せず、毎回レジュメを配布します。 講義内容については変更する場合がある。		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	平均生存率（平成 29 年）が男性 81 歳女性 87 歳とますます高齢化社会が進む現在の日本におけるリハビリテーション医療の重要性を理解し、リハビリテーション医療が取り組む高齢者に多い主要な疾患とその障害についての基本的な病態を講義する。その上で個々の疾患からくる機能障害だけでなく、その障害を持って生きてゆく人たちが対面する社会的障害に対する対応もリハビリテーション医学の領域であり障害の有無に関わらず全ての人が平等に生きられる社会にすることがリハビリテーション医療の使命であることを理解できるように講義を行いたい。		
授業計画 Course Content	（1 5 時間で行う） 1 リハビリテーション医学・医療の基本概念 2 リハビリテーション医学とチーム医療 3 リハビリテーション医学における障害受容の心理 4 高齢者のリハビリテーション ロコモチーブシンドローム、フレイル、転倒、骨折、廃用症候群 5 脳血管障害のリハビリテーション 認知症と高次脳機能障害 6 神経難病のリハビリテーション（パーキンソン病他）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、筆記試験を総合して評価する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	限られた講義時間のなかでリハビリテーション医学の基本概念と高齢者の身体機能を含めてより多く発症する病態を中心に講義を行う。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 5 年の経験を有する。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	臨床運動学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	解剖学，基礎運動学で学習した知識を基に基本的動作について学習を進める。 寝返り・起き上がり・立ち上がり・その他の動作についてメカニズムを理解し，動作観察と分析を行う。		
授業計画 Course Content	1 総論・寝返り 2 寝返り 3 寝返り 4 起き上がり 5 起き上がり 6 起き上がり 7 立ち上がり 8 立ち上がり 9 着座 10 歩行 12 歩行 13 歩行 14 その他動作 15 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 16 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	上肢・下肢・体幹における身体構造と機能、および生体力学や運動学などの専門基礎課程で学習した内容をもとに、病態と合わせて病態運動学として理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 股関節の解剖と症例検討 ① 2 股関節の解剖と症例検討 ② 3 股関節の運動学と生活動作への影響 4 膝関節の解剖と運動学、運動力学 5 膝関節の運動連鎖と症例検討（評価と動作分析）① 6 膝関節の運動連鎖と症例検討（評価と動作分析）② 7 手関節の運動学と動作分析 8 脊椎の解剖学と運動学 9 脊椎の疾患別評価 ① 10 脊椎の疾患別評価 ② 11 足関節の解剖学と運動学 12 足関節の機能障害と運動学 ① 13 足関節の機能障害と運動学 ② 14 肩関節の運動学総論 15 肩関節の疾患別運動学		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「観察による歩行分析」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容			

科目名 Course title	動作分析学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中本 隆幸	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	動作観察・分析について学習する。 動作分析（観察）は、理学療法士において必要不可欠な評価方法であるが、評価尺度が決まっていないため、評価方法の中でも難しい分野である。基礎を再確認し、具体的な症例を提示することにより、理解を深めることがねらいである。		
授業計画 Course Content	1 理学療法・理学療法評価法を再確認する 2 理学療法士における動作分析学の必要性を整理する 3 基礎運動学・臨床運動学における動作分析に関する整理 4 立位姿勢についての動作観察・動作分析 5 歩行についての動作観察・動作分析 6 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅰ ①寝返り ②起き上がり 7 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅱ ③座位姿勢 ④床からの立ち上がり 8 それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅲ ⑤立ち上がり ⑥片脚立位 ⑦その他 9 正常と臨床動作の観察・分析の整理とまとめ 10 VTR 症例による動作観察・動作分析① 11 VTR 症例による動作観察・動作分析② 12 VTR 症例による動作観察・動作分析③ 13 VTR 症例による動作観察・動作分析④ 14 VTR 症例による動作観察・動作分析⑤ 15 VTR 症例による動作観察・動作分析⑥		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験		
教科書 Textbooks	「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 34 年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹 宮脇 孝治	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	7 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 CourseDescription・ Course objectives	神経学的検査と評価および整形外科的検査法の理解と実践について学習する。 到達目標は、神経学的検査と評価について理解し、実施できる。 また、整形外科的検査法について理解し、実施できる。		
授業計画 Course Content	1－27：神経学的検査・バランス検査 28－38：整形外科テスト 1 <神経学的検査総論> 評価学とは、神経学的検査とは 2 筋緊張、姿勢筋緊張とは、姿勢反射について 3 筋緊張異常から生じる異常動作と異常歩行 4 筋緊張の評価方法 5 深部腱反射の検査意義について 6 深部腱反射のメカニズム 7 深部腱反射の検査方法の解説①（上肢） 8 深部腱反射の検査方法の解説②（下肢） 9 錐体路と錐体路障害の解説 10 病的反射の評価意義と検査方法の解説、運動機能検査の解説 11 B R S T、S I A S 12 運動麻痺と検査 13 脳神経検査について（概論） 14 脳神経検査の紹介と実践 15 感覚検査について（概論） 16 神経生理（感覚神経） 17 感覚検査の実践（表在感覚） 18 感覚検査の実践（深部感覚） 19 感覚検査の実践（温痛覚、2点識別、立体など） 20 不随運動 21 小脳の働きについて 22 失調の検査方法の解説①（上肢） 23 失調の検査方法の解説②（下肢） 24 協調性、失調について 25 バランス評価 26 バランス評価 BBS と転倒の評価 27 患者を想定した実践：CVA、脊髄損傷、糖尿病、末梢神経障害 28 <整形外科テスト> 各関節についての代表的な整形外科的検査法について学習 腰部骨盤① 29 腰部骨盤② 30 股関節 31 足関節 32 膝関節① 33 膝関節② 34 肩関節① 35 バランス評価 肩関節② 36 肘・前腕・手関節 37 頸椎 38 整形外科テストまとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験と実技試験にて評定する。変更がある場合は各教員の初講で説明する。		
教科書 Textbooks	「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」 南山堂 適切な判断を導くための整形外科徒手検査法 メジカルビュー社 「絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第4版」 医学書院		
備 考			
実務経験内容	高山教員：理学療法士として臨床経験11年及び専任教員1年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験8年及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡA	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義・演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法評価プロセスは対象者の社会レベル、能力レベル、機能レベルの問題を抽出し、その問題解決策をプランニングする過程である。問題の抽出、治療プランの立案は解剖学、生理学、運動学等の基礎医学的知識、整形外科学、脳神経外科学、内科学などは臨床医学的知識、さらには理学療法評価学や理学療法治療学的知識を統合しなければ成し遂げることはできない。つまり評価演習は総合教育・実践教育に位置付けられる。また理学療法は人間を対象とするため、知識、技術だけでなくコミュニケーションやマナー、配慮も必要不可欠であり、評価演習ではこれらの対人スキル含め能力向上を図る。下記①-⑤の向上を目標に授業を展開する。 【目標】 臨床現場（実習）を想定したシミュレーションを通じ対人スキルの向上 問題解決能力の向上 実践の中での学習方法の確立 自己教育（育成）力の向上 理学療法評価プロセスの経験 統合と解釈の理解と実践 IDH から ICF への展開		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション・症例提示（THA） 2 検査測定の実践① 3 検査測定の実践② 4 グループディスカッション（対人スキル・リスク管理） 5 実技練習① 6 実技練習② 7 実技練習③ 8 実技試験 9 実技試験（中間試験） 10 グループディスカッション・グループフィードバック 11 評価プロセス説明・Case2 症例提示（TKA） 12 グループディスカッション・グループフィードバック（疾患・手術から Imp 予測） 13 既往・合併症から Imp 予測、糖尿病に関する症状・治療について 14 社会的背景から能力障害を予測 15 併存症についてのリスク管理 16 検査測定方法と計画 17 実技練習 18 検査結果の提示 統合と解釈（経過要約・H と D・リスク管理） 19 個別フィードバック 20 統合と解釈（D と I の関係性） 21 個別フィードバック 22 統合と解釈（I の原因追究） 23 まとめ 個別フィードバック		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	演習内容（評価表）実技試験の両方で評定する。		
教科書 Textbooks	「リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第4版」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 26 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 17 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 11 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡB	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法評価はボトムアップリーズニングとトップダウンリーズニング双方の利点を活かし、はじめて障害の全容を明らかにできる。評価演習ⅡBでは脳血管障害を題材にトップダウンリーズニングによる理学療法評価プロセスを学ぶ構成としている。脳血管障害は多彩な障害像を呈する。多くの場合、関節可動域障害、筋力低下だけでなく、筋緊張異常や感覚障害が動作障害に関与するため、統合と解釈では高い情報処理能力が求められる。また神経系の検査・測定は状況や目的に応じ方法を工夫しなければ意味のある結果を残せない。トップダウンリーズニングによる脳血管障害の評価の難易度は高いが、一連の取り組みにより習得できるものも多いと考える。 さらに評価演習ⅡBは実際の患者様に協力いただいている。極めて現場に近い環境で実践的な対人スキル、リスク管理能力、技術、学力を高めるとともに、医療者、治療者としてのあり方や倫理観を深めて欲しい。下記①-⑤を到達目標として授業を展開する。 【目標】 ①症例との関わりを通じた対人スキルの向上 ②症例の生活上の問題、症例の要望に即した評価の実践 ③動作観察、分析能力の向上 ④神経系の理学療法評価技術の向上 ⑤トップダウンリーズニングによる統合と解釈の理解と実践		
授業計画 Course Content	1 症例情報からリスクの確認と管理方法の検討 2 医療面接の目的と情報収集項目、基本動作能力確認の意義 3 医療面接の実践 1 4 医療面接の実践 2 5 動作観察項目および動作観察条件の検討 1 6 動作観察項目および動作観察条件の検討 2 7 リスク管理方法の検討、動作観察の計画・準備 8 動作観察事前練習 9 動作観察の実践 10 動作観察の記録 11 動作分析 姿勢動作障害の仮説立案 1 12 動作分析 姿勢動作障害の仮説立案 2 13 中枢神経障害に対する評価 14 検査実施計画 1（リスク管理方法を含む）。 15 検査実施計画 2 16 検査実技練習 17 検査の実践 1 18 検査の実践 2 19 検査の解釈 20 統合と解釈 HとDとの関係 21 統合と解釈 DとIとの関係 22 統合と解釈 Iの原因追及 23 統合と解釈 予後予測		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 50 点に演習内容（評価表） 50 点の合計点。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	デイリーノート レポート・レジュメの作成		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	物理療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物理療法学Ⅱでは水治療法、圧迫療法、電気療法、光線療法、牽引療法について学習する。物理療法学Ⅰと同様にこれらの治療がもたらす効果のメカニズムを生理学的知見交えて学習する。各療法の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。		
授業計画 Course Content	1 水治療法 静水圧 浮力が身体に及ぼす影響 2 水治療法 水の抵抗 水温と生理的反応、水中運動療法効果と禁忌 3 渦流浴 各温度と効果 禁忌、上肢用 下肢用 渦流浴の体験 4 圧迫（浮腫除去）療法 浮腫のメカニズム 疾患と浮腫 5 弾性包帯の巻き方 実技 6 オリエンテーションと電気療法の基礎 7 神経筋電気刺激/治療的電気刺激 8 経皮的電気刺激/機能的電気刺激 9 光線療法の特徴と皮膚整理機能 10 紫外線療法/赤外線療法 11 レーザー療法/持続的他動運動（CPM 療法） 12 牽引療法 13 牽引療法 実技、総復習 14 国家試験問題解説 15 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、筆記試験を総合して評価		
教科書 Textbooks	「物理療法学テキスト 改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	電気療法、圧迫療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員25年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢装具学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	橋本 寛	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	義肢装具士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	義肢の概観を学び、リハビリテーションとの関連や基本原理を講義します。基本的な義肢装具の用語や概念が説明でき、基本原理を理解応用できるようになることを到達目標とします。見本や臨床例などを交えて講義を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。また他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。		
授業計画 Course Content	※（ ）内は教科書の章 例：1－1…第1章1 1 義肢総論（0－1， 1－1） 義肢装具の位置づけ、義肢の歴史 2 義肢総論2（1－3， 4） 義足 3 義肢総論3（1－2， 5， 6） 義手、基礎医学、臨床医学 4 前腕義手（1－7） 5 上腕義手（1－8） 6 その他の義手、チェックアウト（1－9， 10） 7 下腿義足、大腿義足、下肢切断に対する作業療法（1－11， 12， 13） 8 装具総論、上肢装具（2－1， 2－2） ※・授業の進捗状況に応じて、進度を変更することがあります。 ・理解する項目や覚える事柄が多く出てきます。各回で復習をいれますので、丸写しにせず、“思い出す努力”をしながら理解し、ほかの人に説明できるようになってください。 ・適宜討論や発表、指名発言を求めますので、積極的に参加してください。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	最終試験合計60%以上を合格とします。試験範囲は教科書及び講義中の配布資料とします。		
教科書 Textbooks	「Crosslink 理学療法学テキスト 義肢装具学」 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	教科書を使用し、不足部分を講義の配布資料で補います。平常点は、授業への積極的な参加（発表、討議、質問）とします。		
実務経験内容			

科目名 Course title	義肢装具学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	切断患者に対する理学療法士の役割を理解する 断端管理を理解し、弾性包帯を断端に巻くことが出来るようになる 義足装着前後の理学療法を理解する		
授業計画 Course Content	1 下肢切断 概論 2 切断術後の機能障害 3 切断術後の断端管理 4 義肢について 5 義肢アライメントについて 6 下肢切断患者の評価 7 下肢切断患者の理学療法（訓練） 8 模擬義足でのアライメント修正・訓練		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 7 年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床および国家試験で頻出の疾患について復習すると共に、その疾患における日常生活動作の特徴を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 脊髄小脳変性症の ADL 2 筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症の ADL 3 脳血管障害の ADL 4 脳血管障害の ADL 5 関節リウマチの ADL 6 パーキンソン病の ADL 7 脊髄損傷の ADL 8 脊髄損傷の ADL 9 脳性麻痺の ADL 10 筋ジストロフィーの ADL 11 高次脳機能障害・認知症の ADL 12 脊髄損傷・脳血管障害の ADL 実技テスト 13 脊髄損傷・脳血管障害の ADL 実技テスト 14 切断の ADL 15 国家試験対策小テスト		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第2 版（医学書院）		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	神経理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	脳卒中片麻痺の障害像と理学療法評価について、講義資料・書籍を使用し、なるべく理解しやすいようにすすめる。VTR を用いて、視覚的な理解を深めるとともに、実技も多く取り入れ、障害像の理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（１）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 2 脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（１）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 3 片麻痺の障害像（２）意識障害、高次脳機能障害 4 片麻痺の障害像（２）意識障害、高次脳機能障害 5 片麻痺の障害像（３）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 6 片麻痺の障害像（３）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 7 片麻痺の障害像（４）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 8 片麻痺の障害像（４）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 9 片麻痺の評価（１） 症例を通じて評価の意義を理解する 10 片麻痺の評価（１） 症例を通じて評価の意義を理解する 11 片麻痺の評価（２） 評価項目について、ブルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について 12 片麻痺の評価（２） 評価項目について、ブルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について 13 片麻痺の評価（３）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 14 片麻痺の評価（３）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 15 片麻痺の評価（４） 前回のつづき 16 片麻痺の評価（５） 前回のつづき 17 CVA の原因とリスク 18 筋緊張・感覚の評価と治療 19 歩行の評価と治療 20 症例検討評価 21 症例検討評価と治療プログラム 22 症例検討評価と在宅目指しての治療プログラム 23 実技（臥位や立位への促通など）		
成績評価の方法・基準・評価	筆記試験		
教科書	「脳卒中理学療法の理論と技術 改訂第3版」 メジカルビュー社 「脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション」 市村出版		
備 考	P C、プロジェクター、D V D、実技室等も用いる		

科目名 Course title	小児理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	荒川 鉄也	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常発達と異常発達についての理解を深める。 小児疾患についての理解を深め、理学療法を行う上での知識・技術を習得する。		
授業計画 Course Content	1 小児理学療法の総論・運動発達の理解 2 正常発達／粗大運動・微細運動の発達 3 発達と評価 4 正常姿勢反射① 5 正常姿勢反射②・異常姿勢反射 6 脳性麻痺に対する理学療法 総論 7 脳性麻痺に対する理学療法 痙直型① 8 脳性麻痺に対する理学療法 痙直型② 9 脳性麻痺に対する理学療法 アテトーゼ型 10 小児整形外科疾患に対する理学療法 11 重症心身障害に対する理学療法 12 筋ジストロフィーに対する理学療法 13 ダウン症候群に対する理学療法 - 発達障害に対する理学療法 14 ハイリスク児・低出生体重児・小児呼吸器障害児に対する理学療法 15 まとめ・復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学 小児理学療法学テキスト 改定第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	荒川理学療法士：理学療法士として臨床経験12年の経験を有する。		

科目名 Course title	脊髄損傷理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮下 創	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄損傷の病態と理学療法について講義と実技をとおして学習する。		
授業計画 Course Content	1 脊髄損傷の総論 2 脊髄損傷の疫学 3 脊髄損傷の予後 4 脊髄損傷のの評価（完全損傷） 5 脊髄損傷の評価（不完全損傷） 6 脊髄損傷の運動療法（完全損傷） 7 脊髄損傷の運動療法（不完全損傷） 8 脊髄損傷の動作分析（実技） 9 脊髄損傷の運動療法（実技） 1 0 脊髄損傷の介助誘導方法 1 1 回復期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 1 2 急性期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 1 3 脊髄損傷の合併症 1 4 脊髄損傷の車いす操作方法 1 5 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「脊髄損傷理学療法マニュアル 第2 版」 文光堂		
備 考 Other Comments	実技を行うため、ジャージ着用のこと。		
実務経験内容	宮下創理学療法士 ：理学療法士として臨床経験 1 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	運動器理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師・教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	○股関節障害の代表的変形性股関節および大腿骨頸部骨折の理学療法について概説する。 ・変形性股関節症 病態生理・評価の画像評価が説明できる。 ・大腿骨近位部骨折 病態生理・評価の説明ができる。 ○臨床でよく遭遇する腰椎関連疾患を中心に、病態とその評価・治療方法について実技指導も踏まえて講義する。 ○膝関節疾患（OA・TKA・骨折・ACL-R）の病態解釈から理学療法について、実技を含めた講義を実施する。 ○臨床現場でよく遭遇する足関節疾患を中心に急性期～機能回復期の理学療法プロセスについて評価・治療方法（実技指導）を踏まえて講義する。 ○臨床現場で診療することが多い肩関節疾患を中心に、病態や解釈の仕方・病態に応じた評価及び治療について講義する。また評価・治療に関しては、実技での演習も行いながら、実際に体験していただきながら講義を行う。		
授業計画 Course Content	1 変形性股関節症について 2 大腿頸部・転子部骨折について 3 股関節疾患の評価実技を行う 4 超音波エコー：エコーの基礎 5 超音波エコー：足関節 6 超音波エコー：膝関節 ① 7 超音波エコー：膝関節 ② 8 超音波エコー：肩関節 ① 9 超音波エコー：肩関節 ② 10 超音波エコー：肩関節 ③ 11 超音波エコー：まとめ （評価：小テスト、定期テスト、レポート）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	12 膝 OA・RA の病態や違いについて TKA 術後の理学療法 13 膝関節骨折（プラトー骨折・膝蓋骨骨折）術後の理学療法 14 ACL 損傷について、再建術後のメディカル・アスレティックリハビリテーション 15 非特異的腰痛の理学療法 16 椎体骨折並びに腰椎分離症の理学療法 17 腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアの理学療法 （評価：小テスト・定期テスト） 18 足関節疾患（足関節果部骨折）の病態解釈と理学療法 19 足関節疾患（アキレス腱断裂など）の病態解釈と理学療法 20 足関節疾患（足関節捻挫）の病態解釈と理学療法 21 肩関節疾患（肩関節周囲炎）の病態解釈と理学療法 22 肩関節疾患（腱板断裂）の病態解釈と理学療法 23 肩関節疾患（上腕骨近位部骨折）の病態解釈と理学療法 （評価：筆記試験の点数）		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版」 南江堂		
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	神経筋難病理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	向井 公一	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の対象患者の中に、神経難病と言われる疾患を抱える方々が多い。中でも、神経筋疾患は重篤な機能障害や活動制限を有することがあり、理学療法の重要性が言われる。 この神経筋疾患の疾患概要と理学療法の繋がりについて学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 ガイダンス／多発性硬化症について 2 多発性硬化症の理学療法について 3 錐体外路系疾患について① 4 錐体外路系疾患について② 5 脊髄小脳変性症について① 6 脊髄小脳変性症について② 7 筋委縮性側索硬化症について① 8 筋委縮性側索硬化症について② 9 筋委縮性側索硬化症について③ 10 ギランバレー症候群について① 11 ギランバレー症候群について① 12 筋疾患について（DMD、PN、MG）① 13 筋疾患について（DMD、PN、MG）② 14 筋疾患について（DMD、PN、MG）③ 15 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験と日々の出席を総合的に勘案して評価を行います。 実技を含むため、できる限り出席すること。		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	実技も含めて行うので、実習のできる格好で臨むこと（実習は事前に通知）		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験19年の経験を有する。		

科目名 Course title	呼吸理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要 呼吸管理に必要な解剖・生理学の復習と血液ガスの解釈、肺機能とその検査法について 呼吸器疾患に対する評価・治療の流れと、リハビリテーションに必要な知識について 到達目標 座学の知識から臨床思考へ移行する 1 歩目にし、興味を持つきっかけにすると共に呼吸に関する評価項目の列挙が、疾患別また症状別にできる。 また血液ガスの解釈、肺機能とその検査法から必要な情報を読み取りリスク管理・病態把握に繋げ、解剖・生理学の知識から呼吸器疾患のより深い理解や理学療法の対象を明確化できる。		
授業計画 Course Content	1 はじめに呼吸療法総論 2 呼吸管理に必要な解剖・生理 3 血液ガスの解釈 4 呼吸リハビリテーションの評価。ADL・QOL の評価 5 呼吸不全の概念と病態 6 各疾患別の病態と理学療法（COPD） 7 各疾患別の病態と理学療法（拘束性肺疾患） 8 各疾患別の病態と理学療法（ARDS の呼吸管理と理学療法） 9 各疾患別の病態と理学療法（睡眠時無呼吸症候群、肺がん） 10 各疾患別の病態と理学療法（肺炎） 11 開胸術後の理学療法 12 人工呼吸器とその適応・離脱 13 在宅での呼吸リハビリテーション、在宅人工呼吸療法 14 新生児・乳幼児の呼吸管理 15 排痰法、気管吸引		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ 内部障害 理学療法テキスト改訂第 3 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	心血管理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	原田 靖章	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	循環器疾患に関する理解を深め、リハビリテーションを行う目的を学ぶ。 循環器疾患に対するリハビリ（心臓リハビリテーション）を行う上での評価、方法、リスク管理を理解する。		
授業計画 Course Content	1 心臓リハビリテーション総論 2 循環器系の基礎（解剖、生理、血圧、心拍数） 3 心電図の基礎 4 運動負荷試験、運動生理 5 心筋梗塞（虚血性心疾患）に対するリハビリテーション 6 大動脈疾患、動脈系抹消循環障害に対するリハビリテーション 7 心不全に対するリハビリテーション 8 フィジカルアセスメント		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ 内部障害 理学療法テキスト改訂第3版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	原田靖章：理学療法士として臨床経験16年の経験を有する。		

科目名 Course title	糖尿病理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	糖尿病の内科的知識から理解を深める。その上で運動療法が糖尿病に与える効果や運動処方 of 根拠を基礎医学的な知見を踏まえ学習する。		
授業計画 Course Content	1 糖尿病とは 2 糖尿病の急性合併症 3 糖尿病の慢性合併症（網膜症） 4 糖尿病の慢性合併症（神経障害 腎症） 5 運動療法が糖尿病に与える効果 6 運動療法処方の実際とその理論的背景 1 7 運動療法処方の実際とその理論的背景 2 8 運動療法処方の実際とその理論的背景 3		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ 内部障害 理学療法テキスト改訂第 3 版」 南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	スポーツ理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、スポーツ障害に対する理学療法について解説する。スポーツ障害を下肢のスポーツ障害（足関節捻挫、膝前十字靱帯損傷、Jones 骨折など）、上肢のスポーツ障害（投球障害肩、野球肘など）、成長期のスポーツ障害（腰椎分離症、筋筋膜性腰痛症、オスグッド・シュラッター病、シンスプリントなど）プログラムについて解説し、実技含めて解説する。また、各疾患に対する理学療法実施場面における注意点や実際について解説する。		
授業計画 Course Content	1 授業の進め方と評価についてオリエンテーション 2 足関節捻挫に対する理学療法 3 膝前十字靱帯損傷に対する理学療法 4 疲労骨折（Jones 骨折）に対する理学療法 5 投球障害肩に対する理学療法①前編 6 投球障害肩に対する理学療法②後編 7 野球肘に対する理学療法①前編 8 野球肘に対する理学療法②後編 9 投球障害肩に対する下肢・体幹への理学療法 10 腰椎分離症や筋筋膜性腰痛症に対する理学療法① 11 腰椎分離症や筋筋膜性腰痛症に対する理学療法② 12 オスグッド・シュラッター病やシンスプリントに対する理学療法① 13 オスグッド・シュラッター病やシンスプリントに対する理学療法② 14 成長期に対する理学療法の実際・注意点 15 スポーツ理学療法まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	・試験（筆記）35% スポーツ理学療法の意義や方法を理解しているか否かで評価する。 ・授業内課題 35% 授業内容を踏まえて、スポーツ理学療法の意義や方法について、論理的な考察を行い、適切にまとめられているかを評価する。 ・授業態度およびプレゼンテーション 30% グループで分担、協力し、責任をもってやり遂げたかを、次の観点から評価する。 1. 実験プロトコルの内容と作成方法 2. 実験準備と手順 3. データ処理および発表資料の作成 4. 発表と質疑・応答の対応		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	プリント配布予定		
実務経験内容			

科目名 Course title	動物介在療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山本 妃呂己 磯脇 知世	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【講義概要】 すでに1 年次後期の動物介在療法Ⅰでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。 この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を実践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を実践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際が多職種連携についても学ぶ。 【到達目標】 ① 馬介在療法を実践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。 ② 馬介在療法を実践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。 ③ 馬介在療法を実践する上での支援の基本的な考え方を理解する。 ④ リハ職が馬介在療法を実践する際が多職種の連携を理解する。		
授業計画 Course Content	1 馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 2 馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 3 馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。 4 馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 5 馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 6 馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 7 馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。 8 馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 ※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	パーソナルトレーニング論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	杉本 拓也	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、人々のスポーツをする・観る・読む・聞く等の要求を自身で理解し、対象者に対して適切なトレーニング方法を知ること、また、医療だけでなく、様々な状況を視野に入れながら対象者に適切なトレーニング方法を提供できるよう指導力を身につけるため、正しい指導法を理解することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 エクササイズサイエンス① 筋系・神経系・骨格系の構造と機能 2 エクササイズサイエンス② 生体エネルギー機構、レジスタントトレーニングへの適応 3 エクササイズサイエンス③ 有酸素性持久カトレーニング、栄養学 4 エクササイズテクニク① 柔軟性、自重、スタビリティエクササイズ 5 エクササイズテクニク② レジスタントトレーニングのエクササイズ 6 エクササイズテクニク③ 持久カトレーニングのプログラムデザイン 7 エクササイズテクニク④ プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング 8 エクササイズテクニク⑤ アスリートを対象としたレジスタントトレーニング		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	杉本理学療法士：理学療法士として臨床経験 1 6 年の経験を有する。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	生活環境論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	成田 亜希	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法士が臨床で行う家屋評価・整備について理解する。 福祉住環境整備の必要性、評価の重要性、対象者や家族への説明の重要性、整備の技術や手順、疾患別での特性などについて理解する。また、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、新バリアフリー法について理解する。 家屋平面図の記載方法を理解する。 事例を挙げ、家屋整備を検討する。		
授業計画 Course Content	1 高齢者を取り巻く社会状況と住環境 2 高齢者を取り巻く社会状況と住環境 3 福祉住環境整備の共通基本技術 4 福祉住環境整備の共通基本技術 5 疾患別・障害別福祉住環境整備 6 疾患別・障害別福祉住環境整備 7 家屋平面図の記載について（自宅平面図を書こう！） 8 家屋平面図を作成し問題点・解決策を検討する（事例提示）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト 課題（平面図） 筆記試験の合算		
教科書 Textbooks	なし。適宜資料を配布する。		
備 考 Other Comments	参考図書：「福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級テキスト 改訂 6 版」東京商工会議所 毎回、復習テスト（小テスト）を行います。必ず復習し、次の講義までに理解し、覚える習慣を身につけましょう！		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	検査測定実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	8 0 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	(1) 意義や目的を理解して、検査測定を実施すること。 (2) オリエンテーション技術向上。 (3) 可能な範囲で情報収集、面接、動作観察（できれば分析）、検査測定等を経験し、知識、技術を向上させること。 (4) 評価実習の前段階として検査測定等から評価における専門知識と専門技術を整理すること。		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 6 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 7 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 1 1 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／4 単位
授業方法 Teaching Methods	1 6 0 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	(1) 面接過程、評価過程に必要な知識・技術の整理をすること。 (2) 評価過程（情報収集、面接、検査、測定、統合と解釈、問題点抽出）、目標設定、治療プログラム作成等を体験すること。 (3) 治療実習の前段階として、評価から治療の専門知識と専門技術を整理すること。		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習前評価を受講すること 実習成果と実習後評価の合算		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文、レジメ		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 6 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 7 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 1 1 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

講義概要

2024 年度 理学療法学科
3 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《専門基礎分野》＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	臨床薬学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田 和宏	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	薬剤師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。		
授業計画 Course Content	1 薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネジメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性 2 感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 3 神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 4 精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 5 循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 6 疼痛の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 7 注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。 8 総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験にて、その習熟度を判定する。		
教科書 Textbooks	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学		
備考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	臨床栄養学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	安永 龍子 ・ 島村 知歩	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	(栄養学) 目的：近年、リハビリテーションの効果と栄養をはじめとした身体状況との関連が注目をあびている。特に入院治療者には、低栄養状態も多いと報告され、栄養改善なしには治療効果は見込めない。今後、栄養状態の回復のためのチーム医療の一員として、また退院後の治療効果向上のための栄養学の知識を習得する。 概要：①1日のエネルギー量の算出方法と摂取する食品群の量、主食・主菜・副食のバランスから「健康な食事」について知る。②「まれに・ときどき」見られる栄養素欠乏と身体的臨床所見を知る。③特にビタミン・ミネラルの体内作用と欠乏症を知る。④病態に応じた栄養管理の基礎を学ぶ。 (保健学) 保健学は、健康の探求とその維持増進を目的とする諸科学を統合した人の生命、健康に関わる学問です。健康を維持増進させるための様々な保健活動を理解し、疾病予防や医療人としての自分自身の健康管理について考えることができることをねらいとします。 「国民衛生の動向」を参考にし、どのような保健活動が行われているのかを学習します。		
授業計画 Course Content	(栄養学) 1 必要エネルギー量（健常時・疾病時）と「健康な食事」 2 栄養素欠乏時の臨床所見 3 ビタミン・ミネラルの体内作用 4 病態に応じた栄養管理と食事指導 (保健学) 5 保健学とは 6 生活習慣病対策について 7 健康増進対策について 8 老人保健について		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(栄養学) 筆記試験（持ち込みについては講義にて提示する） (保健学) 筆記試験、（その他があれば講義にて提示する）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	(保健学：参考) 厚生省の指標 増刊 「国民衛生の動向」 財団法人厚生統計協会 講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	画像診断学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる CT, MRI 画像から理学療法実施上の留意点について説明できる		
授業計画 Course Content	1 画像検査について 2 画像のみかた（レントゲン） 3 画像のみかた（C T） 4 M R I の特徴と見方① 5 M R I の特徴と見方② 6 内科疾患の画像読影 7 脳の機能解剖 8 脳画像の診方		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法研究概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	成田 亜希	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法士に必要な統計学を学び、研究方法について学習する。研究計画等を経験し根拠のある発言が可能になることを目指す。		
授業計画 Course Content	1 研究とは？、研究の必要性（EBM について）、研究の流れ 文献検索の方法 2 クリニカルクエスションの定式化→PICO ピコの作成 3 研究計画の立て方（研究デザイン、研究倫理申請・審査、研究計画書） 4 データの取り方（集め方、測定尺度、予備研究、パイロットスタディとは？） 5 データ分析（記述統計とは？グラフの種類と見方、検定の選び方） （統計解析の実際－2 変量解析、分散分析、多変量解析） 6 結果から考察（結果の書き方、考察の書き方） 学会発表、論文執筆について 7 研究不正行為について 論文の文章の書き方について（アカデミックワードとは？） 8 国家試験対策（問題を解く→解説）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	・小テスト（毎回、前回習ったところを小テストする） ・課題（PICO ピコの作成） ・筆記試験		
教科書 Textbooks	なし 講義資料を配布する。		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	基礎理学療法学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要等	基礎科目の確立。 まずは、国家試験に触れて慣れる。 国家試験の構成を理解し、どのような問題がどのような形で出題されるのか、またどの様に解答すべきかを理解する。 重要な問題、よく出題される問題の理解を高める。 自身でまずは学習しまとめる。		
授業計画 Course Content	1 評価学 確認テスト① 2 評価学 確認テスト② 3 評価学 整形外科学 確認テスト③ 4 整形外科学 確認テスト④ 5 整形外科学 確認テスト⑤ 6 整形外科学 確認テスト⑥ 7 脳血管障害 確認テスト⑦ 8 脳血管障害 確認テスト⑧ 9 脳血管障害 確認テスト⑨ 10 脳血管障害 確認テスト⑩ 11 代謝障害 確認テスト⑪ 12 代謝障害 確認テスト⑫ 13 呼吸障害 確認テスト⑬ 14 呼吸障害 確認テスト⑭ 15 呼吸障害 確認テスト⑮		
成績評価等	中間試験 50 点、終講試験 50 点		
教科書 Textbooks	「クエスチョン・バンク 2021 理学療法士 専門問題」メディックメディア		
備 考 Other Comments	実習前評価にも中間試験が反映される 講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験 12 年及び専任教員 26 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎理学療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	実習前後の知識レベルの確認 国家試験、特に実地問題を解答するのに必要な知識を整理する		
授業計画 Course Content	1 専門分野問題の分析 2 専門分野問題の分析 3 専門分野問題の分析 4 専門分野問題の分析 5 専門分野問題の分析 6 国家試験の分析 循環・心電図 7 国家試験の分析 循環・心電図 8 国家試験の分析 呼吸理学療法 9 国家試験の分析 呼吸理学療法 10 国家試験の分析 代謝疾患 11 国家試験の分析 骨関節疾患 12 国家試験の分析 運動療法 13 国家試験の分析 物理療法 14 国家試験の分析 ADL 15 国家試験の分析 画像		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	「クエスチョン・バンク 2021 理学療法士 専門問題」メディックメディア		
備考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験12年及び専任教員26年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法管理学 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木 綾一	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives			
授業計画 Course Content	1 リハビリテーションとは 2 リハビリテーションを取り巻く環境 3 地域包括ケアシステムとは 4 理学療法士が活躍する分野 5 診療・介護報酬 書類管理 6 多職種連携 カンファレンス 7 安全管理学 8 理学療法機器の保守点検		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	リハビリテーション職種のマネジメント 株式会社シービーアール		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	理学療法管理学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木 綾一	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・ Course objectives			
授業計画 Course Content	以下の内容を 8 回で行う ・理学療法の実施後の診療記録と書類管理（電子カルテ等） ・理学療法の実施に関わるカンファレンス ・理学療法機器の配置計画 ・人事考課 ・労務管理		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	リハビリテーション職種のマネジメント 株式会社シービーアール		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	がんリハビリテーション	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる がんのリハビリテーションにおける理学療法について説明できる リンパ浮腫に対する理学療法について説明できる		
授業計画 Course Content	1 がんのリハビリテーションの概要 2 がんの治療法・評価方法 3 がんのリハビリテーションの実際 4 骨転移について 5 がん細胞の基本的特性について 6 がん悪液質について（症例検討を含む） 7 リンパ浮腫 8 心のケアとリハビリテーション		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	川原 勲：理学療法士として臨床経験 3 2 年の経験を有する。 厚地 里香：理学療法士として臨床経験 8 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療演習 I	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	臨床で求められる治療能力の向上を図る。 運動器、脳血管障害に応じて基本的な運動療法が実施できるようになることを目的とする。		
授業計画 Course Content	1、治療プログラムの立案 2、総論 運動療法の種類と適応、関節可動域制限に対する理学療法 3、実技 上肢の伸張運動と関節内運動 4、実技 上肢の伸張運動と関節内運動 5、実技 上肢の伸張運動と関節内運動 6、実技 上肢の伸張運動と関節内運動 7、実技 下肢の伸張運動と関節内運動 8、実技 下肢の伸張運動と関節内運動 9、実技 下肢の伸張運動と関節内運動、筋力増強 10、実技 下肢の伸張運動と関節内運動、筋力増強 11、実技 下肢の伸張運動と関節内運動、筋力増強 12、概要 片麻痺に対する ADL 練習の進め方 13、実技 立位・立ち上がり練習 14、実技 歩行練習 15、実技 歩行練習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	初回講義にて提示（実技試験・演習課題の合算）		
教科書 Textbooks	なし（講義資料および既存の教科書を適宜利用）		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 17 年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療演習Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	和田 善行 中村 珍輔	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	臨床で求められる評価・治療能力の向上を図る。 症例情報より障害の把握を行うことができる。 症例に応じた治療プログラムの立案と実施が出来る。		
授業計画 Course Content	1、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 2、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 3、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 4、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 5、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 6、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 7、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 8、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 9、 循環器障害に対する理学療法 10、循環器障害に対する理学療法 11、循環器障害に対する理学療法 12、循環器障害に対する理学療法 13、循環器障害に対する理学療法 14、循環器障害に対する理学療法 15、循環器障害に対する理学療法		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	臨床で各分野従事する理学療法士		

科目名 Course title	総合理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／ 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法業務における多様な領域を総合的に理解し、説明できる。 （学校保健、国際支援、災害、産業、スポーツ、障害者スポーツ、ウイメンズ・ヘルス、メンズ・ヘルス） （産業）産業理学療法に必要な「知識・現状」の理解を目的とする。産業における理学療法士の貢献について考えることが出来る。		
授業計画 Course Content	・学校保健領域における理学療法士の役割 ・運動器検診とスポーツテストについて ・世界のリハビリテーション 国際協力について ・世界保健機関緊急医療チームとリハビリテーション ・災害時の理学療法 ・赤十字社の医療救護活動 ・ウイメンズ・ヘルス、メンズヘルスの理学療法 ・産業理学療法 ・産業保健と産業理学療法 ・健康経営について ・ヘルスリテラシーについて ・労働衛生、安全衛生について ・企業への働きかけについて（グループワーク） ・障害者スポーツ ・スポーツ損傷膝の理学療法 ・投球障害の理学療法 ・スポーツ損傷の予防 ・実技、実習 ・産業理学療法が求められる背景 ・睡眠時間と座位時間、V D T 作業が健康に及ぼす影響 ・ワークライフバランスについて ・日本の企業・従業員数について		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 （産業）定期試験の結果をもって判断		
教科書 Textbooks	なし（各講義での配布資料あり）		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	予防理学療法	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	西川 正一郎	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	介護予防における理学療法士の役割について説明できる。 介護予防における理学療法について説明できる。		
授業計画 Course Content	1 予防医学・予防理学療法総論 2 予防理学療法と施策 行政と経済的側面 3 老年医学と予防理学療法（１）老年症候群 4 老年医学と予防理学療法（２）認知症 5 老年医学と予防理学療法（３）転倒・骨折 6 老年医学と予防理学療法（４）フレイル，サルコペニア 7 疾患と予防理学療法（１）運動器疾患 8 疾患と予防理学療法（２）呼吸器疾患（３）循環器疾患		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	予防理学療法学要論 医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	地域理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	リハビリテーションの理念・目的、地域リハビリテーションの理念・目的の理解の下、介護保険制度や地域包括ケアシステムの目的を理解する。その上で、理学療法士の専門性から、地域における理学療法士の役割について考え、理解する。 地域地学両方の現場をイメージできるようになることを狙いとする。 講義では、現場で求められる知識や技術が概説される。 地域で働く理学療法士にとって大切なこと、求められる能力についての理解を深めながら、現場のイメージができるようになることをねらいとする。		
授業計画 Course Content	（2コマ各 担当講師変更） 1・2 リハビリテーションの理念・目的／地域リハビリテーションの目的 介護保険制度の目的、基本理念、地域包括ケアシステムについて 理学療法士に求められる能力 ・望む生活を把握する ・業務連携について ・専門性の理解 地域理学療法とは 地域における理学療法士の役割 3 患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法 4 患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法 5 地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法 6 地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法 7 回復期病院での理学療法 まとめ 8 回復期病院での理学療法 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート課題提出（詳細は講義の際に連絡）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	治療実習Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／7 単位
授業方法 Teaching Methods	2 8 0 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	実習指導者の指導（援助と助言）のもと、以下の項目を模倣～見守りにて実施できること。 （１）医療従事者としての基本的態度を定着させること。 （２）各疾患（障害）に即した検査測定が実施できること。 （３）検査結果の解釈、各症例の障害像を理解・把握できること。 （４）治療の目的に応じ標準的な治療を選択し、理論的に裏付けられたプログラムを設定できること。 （５）標準的な治療が安全かつ効果が期待できる方法で実施できること。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習前評価を受講すること 実習成果と実習後評価を総合的に判断する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文・レジメ		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 6 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 7 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 1 1 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	治療実習Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／7 単位
授業方法 Teaching Methods	2 8 0 時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	実習指導者の指導（援助と助言）のもと、以下の項目を模倣～見守りにて実施できること。 (1) 医療従事者としての基本的態度を定着させること。 (2) 各疾患（障害）に即した検査測定が実施できること。 (3) 検査結果の解釈、各症例の障害像を理解・把握できること。 (4) 治療の目的に応じ標準的な治療を選択し、理論的に裏付けられたプログラムを設定できること。 (5) 標準的な治療が安全かつ効果が期待できる方法で実施できること。 (6) 再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができること。 (7) 症例の理学療法評価、治療を通じ研究の必要性を理解すること。		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果と実習後評価を総合的に判断する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文・レジメ		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 2 6 年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 1 7 年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験 5 年及び専任教員 6 年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験 8 年及び専任教員 4 年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験 1 1 年及び専任教員 1 年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験 1 2 年及び専任教員 6 年の経験を有する。		

講義概要

2024 年度 作業療法学科
1 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《基礎分野》 ＝科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解＝

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2 つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	1 物理量とその表し方、ベクトルとスカラー 2 いろいろな運動と力 3 力のつり合いと運動の法則 4 物体の重心と回転運動 5 力のモーメント① 6 力のモーメント② 7 運動、仕事のエネルギー 8 演習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の EBM に必要な統計学について学ぶ。統計処理の基礎を学ぶこと、作業療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて統計処理を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	1 統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ 2 推定と検定の基礎、2 標本の差の検定－パラメトリック法 (1) 3 1 標本の差の検定－パラメトリック法 (2)、差の検定－ノンパラメトリック法 (1) 4 相関、回帰分析 5 重回帰分析、分割表の検定 6 一元配置分散分析、反復測定分散分析 7 信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 8 検査値の判断指標、まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	15 レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学 第 2 版 中山書店		
備 考 Other Comments	講義を中心に実施し、必要に応じて統計処理ソフトを用いた実技・実演を実施する。		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。 授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	1 Word の基本操作（１）：基本的な文書作成 2 Word の基本操作（２）：文書の編集 3 Excel の基本操作（１）：データの入力・編集 4 Excel の基本操作（２）：表の作成 5 Excel の基本操作（３）：数式・関数の利用 6 Excel の基本操作（４）：グラフの利用 7 Excel の応用操作：データベースとしての利用 8 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」、「単位認定試験」で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 割合については初回の講義にて確認。		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ショートテニス 3 卓球 4 バスケットボール 5 ショートテニス 6 バレーボール 7 バスケットボール 8 ショートテニス 9 ショートテニス 10 卓球 11 フットサル 12 卓球 13 ショートテニス 14 ショートテニス 15 フットサル		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	活動点		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	外国語Ⅰ（医学英語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション：医療英語とは臨床英語&論文読解 2 医療英語を用いた論文の検索方法 国際雑誌の選定 3 Original Article（原著論文）Case Report（症例報告）Review Article（総説）とは 4 医学英語論文の種類と Title の表現 Title から読み取る論文の良し悪し 5 Abstract とは？ Informative Abstract と Indicative Abstract 6 Summary 症例報告の Summary 総説の Summary 7 Introduction の読み方 8 Materials and Methods と Results の読み方 1 9 Materials and Methods と Results の読み方 2 10 Discussion の読み方 11 Conclusion References Acknowledgement の読み方 12 論文を読んでみよう（グループワーク） 13 論文を読んでみよう（グループワーク） 14 臨床上必須英語・診療上常用英語 15 総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」 金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験 1 級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および 1 年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4 日本語能力試験 N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5 日本語能力試験 N1 対策講座 読解③&聴解① 6 日本語能力試験 N1 対策講座 読解④&聴解② 7 日本語能力試験 N1 対策講座 模擬試験 8 解剖学用語 総論 9 解剖学用語 骨 10 解剖学用語 関節 11 解剖学用語 靱帯 12 生理学用語 総論 13 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14 生理学用語 循環器系 15 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高木 琳太郎	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	私たちが関わってきた（関わっている）教育を考えてみることを通して、私たちがほかの人々、物事とともに生きてきた（生きている）日常・社会・世界・関係性について、立ち止まって考えてみる。		
授業計画 Course Content	1 階段のぼりと勉強 2 階段のぼりと勉強 3 狼に育てられた子ども 4 狼に育てられた子ども 5 養生 6 養生 7 「生命場」 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森川 あやこ 赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	自分自身の性格を知った上で、自身が集団においてどのように振る舞えるのか、振る舞うべきなのかを学び、さらに臨床実習に必要な対人スキルを学ぶ。 それらを理解したのち、社会人としてだけではなく、さらに医療を担う者として、どのようなコミュニケーション能力が必要か、また患者に対して、チーム医療としてのコミュニケーションの重要性を学び、実技を交えて習得していくことを目標とする。		
授業計画 Course Content	1 自己紹介、他己紹介のためのコミュニケーション① 2 自己紹介、他己紹介のためのコミュニケーション② 3 電話対応、挨拶、お礼、お詫び 4 コミュニケーション概論 5 医療者に必要な身なり、態度を理解する 6 自身の態度を知る。ポーターの態度類型 7 理学療法士の学生に求められる態度を考える 8 言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション 9 観察する力と傾聴する力について考える。身につける。 10 傾聴実践 11 社会人のマナーとしてのコミュニケーション 12 OSCE を使用したコミュニケーションの実践練習 13 臨床で役立つコミュニケーション① 14 臨床で役立つコミュニケーション② 15 実際の患者を想定したコミュニケーションの実践		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、提出物、筆記試験で総合的に評価する。		
教科書 Textbooks	「PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第3版」 医学書院		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	野村 昌弘	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション 2 心理学の変遷 3 学習と行動 4 知覚・感覚 5 思考 6 記憶と忘却 7 感情 8 欲求・動機付け 9 知能 10 性格 11 発達① 12 発達② 13 発達③ 14 発達④ 15 社会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席・コメントペーパー 50%、期末テスト 50%		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	村上 由希	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SB0s）： ①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動を実践できる力を養成する。		
授業計画 Course Content	1 衛生・公衆衛生学序論 2 保健統計・疫学 3 感染症対策・国際保健・災害医療と健康危機管理 4 環境保健・地域保健と保健行政 5 母子保健・学校保健 6 成人保健・産業保健 7 高齢者の保健・医療・介護 8 精神保健・障害者の保健・難病対策		
成績評価等	定期試験 60 点で合格		
教科書 Textbooks	「シンプル衛生 公衆衛生学」 南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	岡田 明	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適につくることが、今強く求められている。老若男女、少数派・多数派を問わず、豊かで健康的な生活を送るためには必要不可欠なことである。それを実現するためには、こうした空間や機器が、人間そのものに適合するようにデザインされなければならない。 人間工学はそれを支援する学問分野である。すなわち、生活を営む人間の形態や生理的・心理的機能を明らかにし、それを機器や環境の設計に結び付けていくことを目的としている。その点、これからの設計者やデザイナーに必要な不可欠な素養といえる。 講義では、居住空間や住宅設備・生活機器等を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、設計のガイドラインや方法を紹介していく。毎回 1 つのテーマをとりあげ解説していく。		
授業計画 Course Content	毎回 1 つのテーマを取り上げていく。全体は 2 部構成となっており、第 1 部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第 2 部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。 〔第 1 部〕 1 イントロダクション ー人間工学とは何か、どう役立つのか 2 人間工学の具体化をイメージする ーイスのデザインを事例として 3 モノづくりは人の寸法を知ることから始まる ー人体寸法とデザイン 4 悪い姿勢が体を壊す ー運動機能と身体負担 5 感覚は五感だけではない ー感覚の種類と視覚機能 6 人はどのように見ているのか ー視覚の生理学 7 人は見たモノをどのように感じているのか ー視覚の心理学 8 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン 9 わかりやすさをデザインする ー人の認知特性と安全設計 10 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン 12 誰もが目的を達成できるモノのデザイン ーユニバーサルデザインと人間工学 〔第 2 部〕 11 エイジングと高齢者の居住環境 ー高齢社会に対応したモノづくり 介護とリハビリの人間工学的視点 13 リハビリの安全と生理 14 演習：病院のユニバーサルデザイン 15 まとめと明日の人間工学の課題		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	毎時間後の授業コメント＋試験＋レポート		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備 考 Other Comments	毎時間プリントを配布、プリント中に必要事項を書き込んで講義ノートが完成		

《専門基礎分野》 人体の構造と機能と心身の発達＝

科目名 Course title	専門基礎概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛・山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法士養成校では、解剖学、生理学、運動学を基礎として作業療法士としての医学的知識、技術を向上させていく必要がある。それらの科目を十分に理解するためには、高校までに学習したことの復習を行うとともに、国家試験を見据えた基盤作りを行う必要がある。また、実習記録や国家試験対策として、文章の理解、文章作成をすることは、医療従事者にとっても重要となるため、国語の知識は必要となる。この科目は高校までで学んでおくべき知識の復習も兼ねて学習し、作業療法学の基盤になる知識の理解と定着、応用ができるようになることを目標とする。さらに、生理学では特に重要となる筋肉の収縮についても深く学習する。		
授業計画 Course Content	1 国語① 医療従事者に必要な文章作成の基礎を知り、事実の列挙の方法を学ぶ。 2 国語② 事実から意見を述べる練習をし、根拠ある文章作成の基礎を学ぶ。 3 生理学① 細胞の構造、各機関の役割を知り、体内反応との関連性を知る。 4 生理学② 細胞分裂、発生を学び、人の体の成り立ちの基礎を学ぶ。 5 生理学③ 国家試験問題を閲覧し、基礎を学ぶ。 6 解剖学① 骨・筋・神経（内部）について学ぶ。 7 解剖学② 内臓系について学ぶ。 8 解剖学③ 国家試験問題を閲覧し、基礎を学ぶ。 9 運動学① 運動方向・関節について学ぶ。 10 運動学② 骨・筋・神経（外部）について学ぶ。 11 運動学③ 国家試験問題を閲覧し、基礎を学ぶ。 12 筋肉の収縮① 骨格筋の構造、筋原線維、線維の型など 13 筋肉の収縮② 骨格筋・心筋・平滑筋の比較、滑り説、分子機構など 14 筋肉の収縮③ 興奮収縮連関、収縮の諸型、力学的性質など 15 筋肉の収縮④ 収縮記録、エネルギー発生と代謝など		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物 小テスト 定期試験		
教科書 Textbooks	PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800／南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	解剖学は医療を志す者にとって基本の学問であり、人体の構造を理解することは必須である。解剖学 I ではヒトの骨格と関節、靱帯について講義する。 骨学の総論では骨の基本的構造や発生、リモデリングなどについて、各論では頭蓋骨～足の骨までを順々に解説する。 関節、靱帯の総論ではそれぞれの基本的構造や分類などについて、各論では頭蓋骨～足の連結までを順々に解説する。		
授業計画 Course Content	1 骨学総論 1 2 骨学総論 2 3 頭蓋 1 4 頭蓋 2 5 脊柱 1 6 脊柱 2 7 胸郭 1 8 上肢 1 9 上肢 2 10 上肢 3 11 下肢 1 12 下肢 2 13 下肢 3 14 関節、靱帯の総論 1 15 関節、靱帯の総論 2 16 頭蓋の連結 17 脊柱の連結 18 胸郭の連結 19 上肢の連結 1 20 上肢の連結 2 21 上肢の連結 3 22 下肢の連結 1 23 下肢の連結 2		
成績評価	定期試験：100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院		
備 考 Other Comments	必要に応じて骨格模型を使用		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法士として必要かつ重要な筋系および神経系の基本構造を学び、それらのはたらきや相互作用・相互関係を理解する。 筋系の一般的な構造を総論で解説し、次に主要な筋の起始、走行、停止、作用、支配神経について詳しく講義する。 神経系については中枢神経と末梢神経の基本的な構造とはたらきを述べ、特に伝導路において各神経間のつながりについて詳しく講義する。		
授業計画 Course Content	1 筋系総論 2 筋系 体幹 1 頭部 3 筋系 体幹 2 頸部 4 筋系 体幹 3 胸部 5 筋系 体幹 4 腹部 6 筋系 体幹 5 背部 7 筋系 上肢 1 上肢帯・上腕 8 筋系 上肢 2 前腕 1 9 筋系 上肢 3 前腕 2 10 筋系 上肢 4 手 11 筋系 下肢 1 下肢帯 12 筋系 下肢 2 大腿 13 筋系 下肢 3 大腿・下腿 14 筋系 下肢 4 下腿 15 筋系 下肢 5 足 16 神経系 総論 17 神経系 中枢 1 18 神経系 中枢 2 19 神経系 中枢 3 20 神経系 末梢 1 21 神経系 末梢 2 22 神経系 末梢 3 23 神経系 末梢 4		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験： 100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院		
備 考 Other Comments	講義は教科書の流れに沿って、パワーポイント（スライド）を用いて行う。 パワーポイントの内容をプリント化し、授業資料として配布する。 国家試験の過去問を授業時に紹介することにより、必要な知識を自覚し学習意欲を高めることを目指す。 骨格模型の閲覧時間を設けて運動器の構造と一の立体的な理解を深めることを目指す。		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。 以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する 2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 3 細胞分裂、組織：上肢組織 4 組織：支持組織、筋組織、神経組織 5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈） 7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 8 静脈：脳、上肢、奇静脈系 9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓 11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 15 腹膜、間膜		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅴでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	1 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 2 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 3 泌尿器系：腎小体、尿細管 4 泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 5 男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 6 男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 8 女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 9 女性生殖器：胎児の成長、胎盤 10 内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 11 内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン 12 皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 13 眼：眼球の構造 14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜 15 耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	身体機能発現の基礎となる細胞レベルでのメカニズムを学ぶ。細胞における生命諸反応をマイクロ視点で探り、その後細胞群が組織、器官を形成し、コミュニケーションをとりながら複雑な機能発現を成すしくみを理解する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 一般生理 (生理学) 2 一般生理 (生命現象・ホメオスタシス・フィードバック) 3 一般生理 (人体構成物質・細胞構造) 4 細胞機能 (細胞小器官) 5 細胞機能 (細胞膜の物質移動) 6 細胞機能 (調節メカニズム) 7 細胞機能 (シグナル伝達・受容体) 8 興奮発生と伝達 (興奮性細胞・神経系の基本・活動電位と局所電位・静止電位) 9 興奮発生と伝達 (細胞膜イオン透過性の変化) 10 興奮発生と伝達 (イオンチャネル・パッチクランプ) 11 興奮発生と伝達 (活動電位の伝導と特性・ λ と τ ・跳躍伝導) 12 興奮発生と伝達 (単・二・三相性活動電位・複合活動電位・軸索輸送) 13 シナプス伝達 (興奮性・抑制性・シナプス小胞) 14 シナプス伝達 (神経伝達物質・神経伝達物質受容体・神経回路網) 15 シナプス伝達 (ニューロン結合の基本型・可塑性・神経の変性・再生・成長)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「生理学テキスト第9版」文光堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。		
授業計画 Course Content	1 循環系の機能① 心臓の構造と心筋の働き 2 循環系の機能② 心電図 心臓ポンプ機能 3 循環系の機能③ 血管の構造と働き リンパ管系 4 循環系の機能④ 血圧とその調整 5 循環系の機能⑤ 局所の循環 6 呼吸の生理学① 呼吸器系の構造 換気の仕組み 7 呼吸の生理学② 肺機能 ガス交換とガス分圧 8 呼吸の生理学③ 呼吸の調整 呼吸の異常 9 自律神経系と内臓機能① 交感神経系と副交感神経系 10 自律神経系と内臓機能② 自律機能の中枢 内臓反射 11 消化と吸収① 消化管の基本的構造 口腔内と胃内の消化 12 消化と吸収② 小腸内の消化と吸収 13 大腸の働きと排便 肝臓の機能 14 栄養と代謝① 基礎代謝と栄養所要量 15 栄養と代謝② 三大栄養素の中間代謝		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100点満点中60点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第8版」南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。		
授業計画 Course Content	1 体液とその調整① 体液の区分と組成 酸塩基平衡の調整 2 血液の生理① 血液の組成 細胞組成 3 血液の生理② 血液凝固 血液型 免疫機構 4 体温とその調節① 体温の区分と生理的変動 熱産生 5 体温とその調節② 熱放散 発熱とうつ熱 6 尿の生成と排泄① 肝臓の機能的構造 糸球体濾過 7 尿の生成と排泄② 尿細管における再吸収と分泌 8 尿の生成と排泄③ 尿の成分 畜尿と排尿 9 内分泌系の機能① ホルモンの一般的性質と分泌調節 1 0 内分泌系の機能② 視床下部 下垂体ホルモン 1 1 内分泌系の機能③ 甲状腺のホルモンと骨代謝 膵臓のホルモン 1 2 内分泌系の機能④ 副腎のホルモン 1 3 内分泌系の機能⑤ 精巣、卵巣のホルモンと生殖 1 4 感覚系の構造と機能① 感覚の一般的性質 体性感覚 1 5 感覚系の構造と機能② 嗅覚と味覚		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、1 0 0 点満点中 6 0 点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第 8 版」南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体運動の仕組み（身体の機能・構造）、及び、身体運動の特性について学ぶ。 これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ることで、①障害の回復の手段を見いだす ②残存機能を応用させたADL（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。この講座では、主に上肢帯について学ぶ。 到達目標 人間の正常な機能構造を理解する 機能構造から起こる運動の特性について理解する		
授業計画 Course Content	1 運動学とは 2 上肢帯と肩関節の運動の概要 3 上肢帯の機能構造 4 鎖骨の運動 5 鎖骨と肩甲骨の連結について 6 肩甲骨の運動 7 肩関節の運動（肩関節の機能構造） 8 肩関節の運動（肩関節と上腕骨の関係性） 9 肩関節の運動（形状に伴う運動の特性） 10 肩甲骨の運動（運動方向） 11 肩甲骨の運動（肩甲上腕リズム） 12 肩関節周囲の筋肉（頸部から肩甲帯） 13 肩関節周囲の筋肉（肩甲骨周囲および胸郭） 14 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲） 15 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲および上肢）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「カバンジー機能解剖学Ⅰ 上肢 原著第7版」医歯薬出版 「15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体運動の仕組み（身体の機能・構造）および身体運動の特性について学ぶ。 これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ること、①障害の回復の手段を見いだす ② 残存機能を応用させた A D L（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。 この講座では、上肢から手指、把持することについて、学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 上腕から前腕の構造について（概要） 2 肘関節の関節構造について 3 肘関節の関節構造について（関節包・靱帯） 4 肘関節の構造と運動（関節形状に伴う特性） 5 肘関節の運動 6 前腕の構造 7 前腕の運動 8 手根骨の機能解剖 9 手関節の機能構造 10 手関節の運動（形状に伴う特性） 11 手の役割、手の多機能性 12 手関節と手指の運動 13 手指の運動（関節構造と靱帯） 14 上腕の筋群 15 前腕および手内在筋群		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「カバンジー機能解剖学Ⅰ 上肢 原著第7版」医歯薬出版 「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹)Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。		
授業計画 Course Content	1 運動学とは何か 2 力学の基礎①（てこの原理、作用・反作用・力のつりあい） 3 力学の基礎②（ベクトル、滑車、仕事） 4 関節の分類、関節運動の表現法 5 股関節の運動学①（関節の特徴、靱帯） 6 股関節の運動学②（関節の動き、筋肉） 7 股関節の運動学③（屈曲、伸展） 8 股関節の運動学④（外転、pauwels の理論） 9 股関節の運動学⑤（内転、内・外旋） 10 膝関節の運動学①（関節の特徴、半月板） 11 膝関節の運動学②（側副靱帯、十字靱帯） 12 膝関節の運動学③（屈曲、伸展、膝蓋骨の役割） 13 膝関節の運動学④（Screw-home movement、筋肉、伸展機構） 14 膝関節の運動学⑤（半月板の形態と働き、膝関節の安定性） 15 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況、終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹)Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。		
授業計画 Course Content	1 足関節の運動学①（関節の特徴、足を構成する骨の特徴） 2 足関節の運動学②（距腿関節、距骨下関節） 3 足関節の運動学③（ショパール関節、リスフラン関節） 4 足関節の運動学④（中足間関節、中足指節関節、趾節間関節） 5 足関節の運動学⑤（足底弓蓋） 6 脊柱の運動学①（脊柱の特徴、motion segment、） 7 脊柱の運動学②（椎間関節、関節包内運動、頸椎の運動） 8 脊柱の運動学③（椎間円盤、胸椎の運動） 9 脊柱の運動学④（胸椎の運動、胸郭の運動） 10 脊柱の運動学⑤（腰椎の運動、仙腸関節） 11 歩行と走行①（歩行周期、走行との違い） 12 歩行と走行②（歩行周期と重心移動、関節角度の変化） 13 歩行と走行③（歩行時の筋滑動、異常歩行） 14 歩行と走行④（床反力、Floor-foot clearance、double knee action） 15 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席状況 ②レポート（開講後提示予定） ③終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学Ⅰ（運動）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	(運動発達) ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後 10 ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、 認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content (予定)	1 オリエンテーション 2 新生児 3 頭部のコントロール 4 抗重力活動 5 立ち直り運動 6 座位・立位・歩行技能 7 視覚技能 8 上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学Ⅱ（心理）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三枝 好恵	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	(発達心理) 子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。		
授業計画 Course Content (予定)	1 発達とは—発達心理学の基礎 2 乳幼児期の発達 3 言葉の発達① 4 言葉の発達② 5 心の理論 6 児童期のころ 7 青年心理学 8 老年心理学—認知症の理解		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 発達心理 テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	Cross basic リハビリテーションテキスト 人間発達学 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	廣石 伸互	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content (予定)	1 病理学とは 2 細胞・組織の損傷 3 炎症 4 免疫 5 アレルギー 6 感染症 7 呼吸器障害 8 循環器障害 充血とうっ血 9 循環器障害 虚血と梗塞 10 代謝障害 11 先天性異常の分類 12 先天性異常 染色体異常と遺伝子異常 13 腫瘍とは何か 14 悪性腫瘍の広がりと影響 15 脳・神経系の疾患		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 定期試験（100%）		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学」医学書院		
備 考 Other Comments	講義内容は理解度に応じて変更することがある。		

科目名 Course title	神経内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	神経内科学の総論について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content (予定)	主要神経症候 1 運動麻痺 2 運動失調 3 錐体外路症候 4 姿勢反射障害と姿勢異常 5 痙攣とミオクローヌス 6 筋萎縮 7 歩行障害 8 感覚障害 9 疼痛 10 脳神経障害 11 構音障害、嚥下障害、球麻痺症候 12 意識障害 13 高次脳機能傷害 14 自律神経症候 臨床検査 15 画像検査・電気生理学的検査		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 授業の終了時(学期末)にテストをする。		
教科書 Textbooks	(予定)「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	辻井 啓之	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	1. 現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 2. 精神と脳の関係を考える。 3. 疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。		
授業計画 Course Content (予定)	1 講師の自己紹介 この授業全体の概要 精神医学について 認知症症例 2 アルツハイマー型認知症 症例および解説 ニューロンとシナプス 心とは何か 3 脳血管性認知症 症例および解説 4 さまざまな認知症 クロイツフェルトヤコブ病、ハンチントン病など 5 統合失調症 破瓜型 症例および解説 統合失調症概説 6 統合失調症 緊張型 症例および解説 統合失調症の発病 精神科病棟について 7 統合失調症 妄想型 症例および解説 統合失調症の経過 慢性期 8 統合失調症の治療およびリハビリテーションを考える 9 気分障害 症例と解説 気分障害概説 10 気分障害 バーンアウト 症例と解説 気分障害経過 11 気分障害 躁病 症例と解説 気分障害治療 12 気分障害 生活上の注意点 ストレスへの対処を考える 13 薬物依存 症例アルコール依存症 1 薬物依存概説 14 薬物依存 症例アルコール依存症 2 アルコール依存症者の生活史 15 薬物依存 タバコおよびその他の薬物 依存とは アルコール依存症の治療		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験で評価します		
教科書 Textbooks	(予定) 標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版増補版 医学書院		
備 考 Other Comments	適宜プリントを配布します		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content (予定)	(15 回で行う) 1 臨床心理学について 2 パーソナリティ 3 アセスメント 4 発達と心理的問題 5 心理的介入 6 臨床心理学の応用 7 国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験・レポート・授業中の態度など。		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3 版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講座の到達目標は、作業療法について学んでいくにあたり、より広義であるリハビリテーションの概要を理解することである。 到達目標を達成するために、まず、リハビリテーションの定義・歴史について講義したうえで、生活・健康の概念についてみていき、疾病・障害・生活機能を分類する概念について解説していく。続いて、一般化されている患者・障害者の心理的な側面についてみるとともに、リハビリテーションが進められる流れ、リハビリテーションの形態について講義する。		
授業計画 Course Content	1 リハビリテーションの理念（前半） ・①歴史・定義 ②ハビリテーション ③ノーマライゼーション ④自立生活 2 リハビリテーションの理念（後半） ・⑤健康に関連する概念（QOL） ⑥生活・ライフスタイルと健康 3 疾病・生活機能の概念と分類（前半） ・①病気の定義と国際疾病分類（ICD） ②国際障害分類（IDIDH） 4 疾病・生活機能の概念と分類（後半） ・③国際生活機能分類（ICF） 5 患者・障害者の心理・社会的側面 ・①患者・障害者心理 ②心理的適応の過程 ③心理教育（患者教育、家族教室） ④社会参加を支える法制度 6 リハビリテーションの進め方 ・①リハビリテーション関連職種 ②チームアプローチ ③ケース会議（評価会議） ④リハビリテーションプログラム ⑤クリニカルパス 7 リハビリテーションの諸相 ・①医学的リハビリテーション ②教育的リハビリテーション ③職業的リハビリテーション ④社会的リハビリテーション ⑤地域リハビリテーション ⑥予防と健康管理 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験		
教科書 Textbooks	田島文博 編著：リハビリテーション概論 改訂第4版. 永井書店. 2021		
備 考 Other Comments	参考図書：中村隆一・佐直信彦：入門リハビリテーション概論 第7版増補. 医歯薬出版. 2013 「ICF 国際生活機能分類」中央法規		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員2年の経験を有する。		

科目名 Course title	社会福祉学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content (予定)	- 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは - 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現代社会と福祉 - わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 - 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について - 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 - 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について - 高齢者の福祉 介護保険制度について - 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	多職種連携学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	本講座の到達目標は、作業療法士とともにリハビリテーションを担う職種との連携を理解することである。到達目標達成に向け、連携に関する概念を学んだうえで、看護師・理学療法士・言語聴覚士と特に連携することが多い職種の概論を講義する。その後、作業療法士単独ではなく、職種間で連携することで得られる効果について検討していく。		
授業計画 Course Content	1 【作業療法士（OT）】リハビリテーション関連職種と連携 2 【作業療法士（OT）】チームアプローチ 3 【看護師（Ns）】看護とは 4 【看護師（Ns）】看護の提供者とその仕組み 5 【看護師（Ns）】看護過程について 6 【看護師（Ns）】チームアプローチを行ううえで療法士に期待すること 7 【理学療法士（PT）】理学療法の基礎概念 8 【理学療法士（PT）】理学療法の実際（1） 9 【理学療法士（PT）】理学療法の実際（2） 10 【理学療法士（PT）】チームアプローチを行ううえで OT に期待すること 11 【言語聴覚士（ST）】言葉とコミュニケーション 12 【言語聴覚士（ST）】言語障害の種類と接し方（1） 13 【言語聴覚士（ST）】言語障害の種類と接し方（2） 14 【言語聴覚士（ST）】摂食嚥下障害 15 【作業療法士（OT）】チームアプローチを効果的に進めていくために ※理学療法学科・作業療法学科・看護学科学生にて一症例についてグループワーク実施し、発表予定。 看護師（NS）・作業療法士（OT）教員講義回数の変動あり。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 ST（国守）：筆記試験・レポート課題 NS・PT・OT：筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法概論	学 科 Department	作業療学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法の基礎となる「作業」や「活動」とはなにか、「作業療法とは」「作業療法士とは」ということをその言葉の意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、今後につなげていけるようになることを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 作業とは？作業療法とは？ 2 作業療法の理論・理念・関連法規 3 作業療法の歴史 4 作業療法の倫理 5 作業療法士に求められるもの 6 作業療法と ICDH と ICF 7 EBM と作業療法 8 他職種連携：チームアプローチ 9 作業療法の現場・対象・病期 10 作業療法における思考過程 11 作業療法の過程：評価、統合と解釈、計画立案 12 領域別作業療法の実際 13 領域別作業療法の実際 14 作業療法にかかわる医療・福祉制度 15 作業療法部門の管理・運営		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法学概論 第5版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 5 年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業分析学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	藤 善 将	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたうえで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点を持ち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content (予定)	1 作業療法についての振り返り 2 作業療法の理解に向けたグループワーク 3 活動分析（前開きシャツ・靴下など） 4 分析結果の発表・ディスカッション 5 巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク 6 分析結果の発表・ディスカッション 7 食べる行為についての作業分析（グループワーク） 8 分析結果の発表・ディスカッション		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員 6 年及び臨床 2 5 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	植村 博也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の治療媒体としての作業活動の中から代表的な革細工と陶芸を通して、材料と道具の使い方とその管理方法、作品制作の手順を理解する。 作品制作を通し作業分析的視点から、作業療法における作業活動の意味を考える。		
授業計画 Course Content	1 コースオリエンテーション 2 陶 芸 荒練り、菊練りの実技 3 手びねりでのぐい飲み 4 ひもづくりでの湯呑み 5 たたらづくりによる花瓶 6 ひもづくりでの灯籠 7 ひもづくりでの灯籠、素焼き 8 施釉、本焼き 9 革細工 小銭入れ 10 スタンピング 11 染色 12 かがり、ホックつけ 13 コースター 14 カービング 15 染色		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	作品提出、レポートの総合により成績を判定する。		
教科書 Textbooks	「基礎作業学実習ガイド」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	実習科目なので作品提出とレポートを重視する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 17 年及び教員 15 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【一般目標】 作業療法としての木工作業とレクリエーションを体験する。 木工：工程や必要な道具・材料について、包括的作業分析の手法を学ぶ。 レクリエーション：計画立案・発表を通して、作業療法として実践的にレクリエーションを行う手法を学ぶ。 【行動目標】 ① 製作する木工作品を自身で決定し、与えられた設定の中で作品を完成することができるようになる。 ② 木工作業の体験をする中で、作業療法に必要な要素を考えながら、作業分析の視点を養う。 ③ 体験した木工作業を、包括的作業分析をしてレポートにまとめることができる。 ④ 作業療法として行うレクリエーションの必要性を理解する。 ⑤ レクリエーションの計画立案・発表を通して、適切な計画、実施ができるようになる。 ⑥ レクリエーションを実施される側の視点で、他者の実施を評価できるようになる。		
授業計画 Course Content	1～2 オリエンテーション：作業分析とは・レクリエーションとは。（座学） 3 レクリエーション：レクリエーション体験 4～5 レクリエーション：レクリエーション計画 6～7 レクリエーション：レクリエーション発表 8 木工：木工とは（座学）作品設計図作成 9～15 木工：作品作成		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①木工（65％）：作品（25％）とレポート（包括的作業分析）（40％） ②レクリエーション（35％）：計画書と発表内容 ※木工作品及びレポートが期限内に提出がない場合は不可とし、再試験として再提出を求める。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び専任教員 5 年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	作業療法評価法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の治療、援助の計画を立案する為には、対象者の状況を正しく把握することが重要です。本稿では、正しい情報を得られるように評価の基本的な視点を学びます。また、評価は随時見直し、検討する必要があります。評価の流れについても習得することを目標とします。		
授業計画 Course Content	1 評価の意義と目的、開かれた問題と閉じられた問題 2 ONE BEST SOLUTION はない！、クイズとパズル、問題認識 3 責任者は自分自身、評価の目的 4 評価の過程、評価のプロセス 5 各段階の特質①（情報収集、初回評価、ゴール設定） 6 各段階の特質②（OT 実施計画の立案、OT の実施） 7 各段階の特質③（再評価、フォローアップ、記録を書く際の基本的知識と原則） 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①終講試験 ②出席状況		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員26年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法士として対象者を評価する上で、必要な評価技法を学ぶ。 主としてバイタル・身体計測・反射。 <到達目標> 1：バイタル・身体計測・反射において各々の項目の検査意義や定義、注意点など各々にかかわる項目を理解し述べることができる 2：バイタル・身体計測・反射において測定手技を身につけ、誘導・説明から検査開始、終了まで滞りなく適切に行うことができる		
授業計画 Course Content	1 作業療法評価技法総論：評価とは？評価技法とは？評価技法の位置づけなど 2 作業療法評価技法総論：評価結果の統合と解釈など捉え方 3 バイタルサインとは：古典的および現代的バイタルサインとは。それらを測定する技術と意味。血液検査等の略語と標準数値について 4 バイタルサインとは：測定実技 5 バイタルサイン測定の実技テスト（実技・口頭試問） 6 形態測定とは：測定実技 7 携帯測定実技テスト（実技・口頭試問） 8 反射とは：反射検査の意義・反射の種類 9 反射と姿勢筋緊張 10 反射の経路など生理学的基礎について 11 深部反射（伸張反射）：深部反射の持ちうる意味と測定技法 12 病的反射：病的反射の種類と意味、原始反射や上位中枢からの抑制について 13 病的反射：測定技法 14 表在反射：表在反射の種類と意味、測定技法 15 反射の実技テスト（実技・口頭試問）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、終講試験。この授業は医療現場での実践を想定しており、受講態度、実習に不適切な風貌は減点対象とする。授業では計測、血圧測定、反射テストの3つについて実技試験を行うので、授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂		
備 考 Other Comments	実技習得のため練習をしっかりと行うこと。わからない場合は積極的に教員に質問して解決の糸口を見つめられるようにすること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／演習実習	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法評価技法Ⅰに続き、作業療法士として評価する上で、必要な評価技法（検査測定の方法）を学ぶ。主には、関節可動域（ROM）測定と感覚検査。 到達目標： ① ROM 測定および感覚検査の定義・種類・適応・測定方法・測定における留意点を述べることができるようになる ② ROM 測定および感覚検査実施にあたり、被検者を誘導し、検査のオリエンテーションを行い、適切な測定を実施できる		
授業計画 Course Content	1 講座のオリエンテーション、ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識 2 最終域感（生理的・病的）・姿勢の名称・ROM 測定のための道具 3 ROM 測定の手順・測定の注意事項・測定の正確性に影響する因子 4 ROM 測定実技練習 （肩関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、水平屈曲－伸展、） 5 ROM 測定実技練習 （肘関節：屈曲－伸展、手指：屈曲－伸展、外転－内転、前腕：回内-回外） 6 ROM 測定実技練習 （母指：掌側外転－橈側外転、手指：屈曲－伸展、外転－内転） 7 ROM 測定実技練習 （股関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、膝：屈曲－伸展） 8 ROM 測定実技練習 （足関節：底屈－背屈、外転－内転、内がえし－外がえし、肩甲骨：挙上－下制、屈曲－伸展） 9 ROM 実技練習 （体幹と頸部：屈曲－伸展、側屈、回旋） 10 ROM 実技テスト 11 感覚・知覚：定義、意義、表在感覚と深部感覚の違い、伝導路の違い 12 深部感覚の伝導路、防御知覚の伝導路、感覚テストの方法、オリエンテーションの仕方、痛覚・触覚のテストについて 13 感覚検査の実技練習 14 感覚検査の実技練習 15 感覚テスト		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、終講試験（100%）で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象。 ROM 測定、感覚テストの2つについて実技試験を行って授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂		
備 考 Other Comments	実技はしっかり練習すること。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	身体障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体障害領域疾患別作業療法を理解するための基礎を学ぶ。 到達目標： ①身体障がい作業療法対象者の主な症状を理解し介入方法を理解する ②症状別の治療原理を中心に専門基礎科目、基礎科目とのつながりを理解する。		
授業計画 Course Content	1 身体障害領域作業療法の概要、作業遂行モデル 2 治療の連続性、治療方法（Bottom-up approach と Top-down approach） 3 〔作業遂行を行う運動のメカニズム〕物理学的な基礎知識と身体運動の基礎知識 4 〔筋緊張の異常とその治療〕関連用語、基礎知識、筋緊張異常を起こす疾患 5 筋緊張異常の発生機序 筋緊張の評価、痙性筋に対する治療手技と作業療法による介入 6 〔不随意運動とその治療〕定義・分類 振戦症状の検討 不随意運動と障害部位との関係 評価、作業療法 〔協調運動障害とその治療〕定義・評価のための基礎知識 7 〔協調運動障害とその治療〕失調症の主な臨床症状、失調症の発生機序と原因別分類 8 〔協調運動障害とその治療〕評価（運動検査・机上検査・機器による検査） 9 〔協調運動障害とその治療〕治療手技、治療の原則、視覚を利用した方法、固有感覚を利用した方法、巧緻性訓練 10 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕筋力・筋持久力低下の要因と原理、基礎知識 11 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕評価、治療手技、筋力・筋持久力訓練を実施する前に、筋力・筋持久力訓練の種類、特殊疾患の注意点、筋力訓練指導上の注意点 12 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕作業療法との関連 13 〔関節可動域の拡大〕用語、関節可動域制限の原因と機序 14 〔関節可動域の拡大〕評価・治療のための基礎知識、筋緊張と最終域感、関節包内運動、ROMex に使用される 4 つの運動、評価、治療手技、作業療法 15 〔知覚再教育〕用語、評価・治療のための基礎知識、知覚再教育プログラムの前段階、手の知覚再教育プログラム、中枢神経障害と末梢神経障害の違いを中心に		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100％）筆記試験については、小テストの形で分散させることあり。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版」医学書院 その他、必要に応じて指示する		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content (予定)	1 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬会介在療法とは何かを学ぶ。 2 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 3 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 4 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ 5 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 6 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人にとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されるとされており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 7 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 8 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してくための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	地域臨床見学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本実習の主目標は、作業療法の対象領域を広く見聞することである。医療機関での作業療法士の活躍は周知されつつあるが、一方で近年、住民のニーズによって拡大されてきた地域での作業療法士の取り組みについてはまだまだ知られていない。そうした領域で活躍する作業療法士の様々な仕事を見て学ぶことで、自身の作業療法士としての将来像を構築する一助にしてもらいたい。 本目標を達成するために、地域の作業療法関連の施設を複数かつ数日間、見学することを想定している。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） ※新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習で実施することがある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験 8 年の経験を有する。		

講義概要

2024 年度 作業療法学科
2 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《専門基礎分野》 〓人体の構造と機能と心身の発達〓

科目名 Course title	運動学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	6 0 時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講座では 1 学年時に習得した運動学の基礎について、実際に体を動かして起こりうる運動を分析する手法を学習し、そのメカニズムを理解する。後半の運動分析は、実際の日常生活における動作をビデオカメラ等の必要な機器を使用して分析し、考察する。		
授業計画 Course Content	1・2 オリエンテーション、関節運動の考え方 3・4 筋走行と骨運動①（三角筋） 5・6 筋走行と骨運動②（肩甲上腕リズム） 7・8 筋走行と骨運動③（菱形筋） 9・10 筋走行と骨運動④（前鋸筋） 11・12 まとめ①（グループ発表） 13・14 まとめ②（グループ発表） 15・16 運動分析①（椅子からの立ち上がり運動動作撮影） 17・18 運動分析②（椅子からの立ち上がり運動動作分析） 19・20 運動分析③（正常歩行、オリジナル歩行動作撮影） 21・22 運動分析④（立ち上がり動作分析発表） 23・24 運動分析⑤（正常歩行分析発表） 25・26 運動分析⑥（オリジナル動作分析発表） 27・28 重心と体重移動 29・30 （予備）まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①筆記試験 ②レポート ③出席状況 レポート課題は実習を進めながら作成します。筆記試験は記述式です。授業で習得した内容をしっかり理解しておくこと。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	栄養・薬理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小橋 真弓 ・ 前田 和宏	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本講義は、リハビリテーションと栄養・代謝との関連についての理解および薬物による人間の反応の理解ができることを到達目標としている。 したがって、栄養と代謝の概要並び代謝異常に関する講義を行い、その後栄養管理に関する内容を述べる。 もう一つの学習目標としている薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。		
授業計画 Course Content	(栄養学) 1 栄養とは ・基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学の違いを知る ・5大栄養素の消化と吸収など 2 リハビリテーションに関わる栄養学 ・臨床栄養学を中心とした内容、身体計測、血液データからの情報収集 3 病態別（疾患別）の栄養管理 ・主に糖尿病、高血圧、褥瘡などを例にして留意すべき点 4 補足、ふり返り、まとめ ・講義を通してのまとめ (薬理学) 1 薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネジメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性 2 ・感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ・神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 3 ・循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 4 ・精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ・注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(栄養学) 授業態度 2 0 %、筆記試験 8 0 %を行い、評価する (薬理学) 筆記試験（薬物学分野：1 0 0 %）を行い、評価する。		
教科書 Textbooks	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	(栄養学) プリントを使用して授業を進める		

科目名 Course title	臨床検査学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子（講義・実験：筋電図） 竹村 京子（実験：脳波）	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	人は様々な身体機能、精神機能を一連に行いながら生命活動を営んでいる。そこで、個体の実際の身体状況を知るため、生化学および生理学検査により情報を数値化・データ化・図示化して状況を把握し、さらに臨床的に血液検査やレントゲン検査、運動機能検査、感覚機能検査、脳波測定などを行って、詳細な身体情報を得て療法のより適切な対応をすることは重要である。 作業療法士においては、解剖運動生理学、その他の専門基礎科目や専門科目から基礎知識を学ぶとともに、生化学・生理学的なデータを観察して人体をより詳細に理解することが大切である。 当科目では、①筋電測定（運動機能の基本的な要素である「筋肉」の動き）②脳波測定（意識レベルを反映する「大脳皮質で発生する電気信号」）を実験的に記録観察して、身体の運動機能・精神機能についてより一層の理解を深めることを目的とする。		
授業計画 Course Content (予定)	1 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その1） 2 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その2） 3 実習 誘発筋電図、M-H 波（その1） 4 実習 誘発筋電図、M-H 波（その2） 5 脳波発生のメカニズムについて（その1） 6 脳波発生のメカニズムについて（その2） 7 （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その1） 8 （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その2）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。		
教科書 Textbooks	（予定）「生理学テキスト第8版」文光堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	救急医療概論（喀痰吸引を含む）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	本講義、救急医療体制について学び、救急医療時の対応について実技も交えながら実施していく。また、救急医療現場だけでなく、その後のリハビリテーションにおいて必要とされる画像診断について学ぶ。 さらに、喀痰・吸引の実践につながるように、実技を交えながらその概要について学習する。 到達目標は、救急医療を理解すること、画像診断について説明でき、喀痰吸引を模擬実践できることを想定している。		
授業計画 Course Content (予定)	1 (救急) 救急医療体制とトリアージとは 2 (救急) 心肺停止に対する一時救命処置（実習あり） 3 (画像) 画像検査について 4 (画像) レントゲンの見方（一般） 5 (画像) レントゲンの見方（CT） 6 (画像) MRI の特徴と見方 7 (吸引) 嚥下機能と喀痰吸引の基礎知識 8 (吸引) 喀痰・吸引の実践（実技）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 1・2回 井上先生：授業後半の実習でチームワーク、声、手技等を評価します。		
教科書 Textbooks	（予定）なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	1 内科学総論；内科学とは、主な疾患 2 診療の基本；カルテと問診 3 診察法（1）；バイタルサインの見方・考え方 4 診察法（2）；身体所見の取り方と疾患 5 内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 6 循環器疾患（1）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック 7 循環器疾患（2）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） 8 循環器疾患（3）；虚血性心疾患（②）、心不全 9 循環器疾患（4）；不整脈 10 循環器疾患（5）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） 11 循環器疾患（6）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 12 呼吸器疾患（1）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 13 呼吸器疾患（2）；病原微生物と呼吸器感染症 14 呼吸器疾患（3）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 15 呼吸器疾患（4）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験 35 年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	1 消化管疾患（1）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 2 消化管疾患（2）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 3 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（1）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか 4 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（2）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など 5 代謝性疾患（1）；糖尿病 6 代謝性疾患（2）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など 7 内分泌疾患 ；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 8 血液疾患（1）；血液解剖生理の復習、貧血 9 血液疾患（2）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 10 アレルギー・膠原病疾患（1）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 11 アレルギー・膠原病疾患（2）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 12 腎・泌尿器科疾患（1）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 13 腎・泌尿器科疾患（2）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 14 感染症（1）；感染症総論（感染経路、感染予防対策、治療法など） 15 感染症（2）；感染症各論（代表的な感染症）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	神経内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経内科学の各論として各疾患について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 脳血管障害 2 中枢神経感染症 3 パーキンソン病 4 パーキンソニズム 5 不随意運動症 6 痴呆性疾患 7 てんかん 8 脊髄小脳変性症 9 運動ニューロン疾患 10 脱髄性疾患 11 脊椎・脊髄疾患 12 末梢神経疾患 13 ミオパチー 14 自律神経疾患① 15 自律神経疾患②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末のテストで評価する。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	医師として臨床経験38年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	辻井 啓之	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	・現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 ・精神と脳の関係を考える。 ・疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。		
授業計画 Course Content (予定)	1 気分障害：症例、治療、注意点など 2 薬物依存、アルコール依存を中心に症例 3 薬物依存：生活史、依存、耐性 4 薬物依存：症例、離脱症状、アルコール精神病 5 薬物依存：タバコ（ニコチン） 6 薬物依存：覚醒剤、症例、その他の薬物 7 神経症性障害：概説、症例、PTSD 8 神経症性障害：症例、パニック障害、神経症病理 9 神経症性障害：症例、強迫性障害、解離性/転換性障害 10 神経症性障害：神経症病理、治療 11 てんかん：病理、症状、治療① 12 てんかん：病理、症状、治療② 13 知的障害：ダウン症など① 14 知的障害：ダウン症など② 15 補足		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	「精神医学への招待」改訂第3版 南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験36年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 整形外科の基礎知識 2 整形外科治療法 3 整形外科疾患総論 4 炎症性疾患 5 代謝・退行性疾患 6 先天性疾患① 7 先天性疾患② 8 循環障害と壊死疾患① 9 循環障害と壊死疾患② 10 骨・軟部腫瘍① 11 骨・軟部腫瘍② 12 神経・筋疾患① 13 神経・筋疾患② 14 脊椎の疾患① 15 脊椎の疾患②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院 「標準整形外科学 第15版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験30年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	1 骨折① 2 骨折② 3 脊髄損傷① 4 脊髄損傷② 5 脊髄損傷問題 6 捻挫・脱臼 7 神経障害① 8 神経障害② 9 末梢神経損傷 10 腱・靱帯損傷 11 スポーツ障害① 12 スポーツ障害② 13 タナ障害 14 熱傷 15 切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科 第5版」医学書院 「標準整形外科 第15版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験30年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	西野 正人・福永 千佳	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床経験を多く入れて症例を通して疾患概念を理解してもらいたい 小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。		
授業計画 Course Content	1 小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、内分泌・代謝性疾患への理解を深める 2 血液・免疫・救急・膠原病に関する理解を深める 3 免疫・膠原病・腎・泌尿器疾患 4 感染症・消化器疾患 5 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 6 神経・筋・骨系疾患 7 循環器疾患、呼吸器疾患 8 習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版」医学書院		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション制度論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・勝村智加・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	この科目では、リハビリテーションを支える諸制度について学ぶ。具体的には、国の社会保障制度の枠組み、制度の中でも特にリハビリテーションに関連する制度をみていく。さらに、近年構築されてきている地域包括ケアシステムおよび自立支援・就労支援に関する制度や制度を用いて行われている取り組みについて話す。 到達目標は、講義でとらえる諸制度について概要を説明できるようになること、対象者が使用できる制度とそのサービスについて理解することである。		
授業計画 Course Content	1 社会保障制度 I. 社会保障制度のなりたち II. 社会保険制度 III. 社会保障の財源 2 医療保険制度 I. 医療保険の仕組み II. 医療提供体制 3 医療保険制度 III. 診療報酬（診療報酬とその請求、リハビリテーションに関する診療報酬） 4 介護保険制度 I. 介護保険制度（介護保険制度の目的、制度創設の背景、制度の特徴、国民の義務） II. 介護保険のしくみ 5 介護保険制度 - III 介護保険給付サービスの種類 IV. 介護報酬（介護報酬とその請求、リハビリテーションに関する介護報酬） 6 障害者・障害児サービスと就労支援 I. 障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳） II. 障害者総合支援法（制定された経緯、概要） III. 各種サービスと療法士のかかわり IV. 就労支援に関する施設と内容 7 予防・保健 I. 行政におけるリハビリテーション II. 行政リハビリテーション専門職の役割 III. 介護予防、保健指導、地域ケア会議 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験（10割）を実施する。		
教科書 Textbooks	齊藤秀之、能登真一 編：リハビリテーション管理学. 医学書院, 2020		
備 考 Other Comments	複数教員によるオムニバス形式		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	生活行為向上マネジメント	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋和奈	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／演習	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生活行為向上マネジメントの開発背景や構造を知る。 事例を通して、情報を整理し対象者の全体像や取り巻く環境との関係について考察する。また、どのようなマネジメント方法があるかを検討していく。 到達目標は、生活行為と生活行為の障害について説明できること、生活行為向上マネジメントのプロセスおよび各種シートの使い方を説明できること、各種シートの記載ができることである。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、開発の背景、用語の解説 2 生活行為と生活行為の障害、各種シートの使い方 3 演習①模擬事例 4 演習②模擬事例 5 演習③模擬事例 6 演習④模擬事例 7 演習⑤模擬事例 8 演習⑥模擬事例、まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（課題の発表および提出）		
教科書 Textbooks	「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版」医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科全教員	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	仮定の症例について、作業療法評価計画を立案から作業療法評価レポートの作成までを演習する。その際、演習に必要な資料・文献等の収集学習や、専門基礎科目と専門科目の知識を関連づけながら思考していく論理学習等を同時に演習し、臨床実習への準備を整える。		
授業計画 Course Content	(4 5 時間で行う) 1 ケースレポートの書き方 2 レポートを書くときの注意事項 3 ゼミ形式で担当教員の指導の下、レポートを完成させる。 4 実習セミナーに参加し、発表を傾聴し作業療法評価について考える。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	期日までに提出されたケースレポート及び演習中の取り組みについて評定する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝 田 愛	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	6 0 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	徒手筋力検査法について学びます。教科書的な技術を丸暗記するだけでなく、原理原則をしっかりと学ぶことで、対象者にあわせて対応できるようになることが目標です。環境設定、オリエンテーション、測定肢位など臨床的な技法も適宜取り入れながら講義を進めていきます。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション・学力確認テスト 2 徒手筋力検査における基本原則 3 上肢筋の総復習、上肢帯体表解剖 4 肩関節の筋 5 肩関節の筋 6 肩関節の筋 7 肩甲骨の筋 8 肩甲骨の筋 9 肘関節・前腕の筋 10 手関節の筋 11 指の筋 12 指の筋 13 母指の筋 14 母指の筋 15 復習 16 実技試験 17 頸部の筋 18 頸部・体幹の筋 19 体幹・骨盤の筋 20 復習 21 実技試験 22 下肢・体幹筋の総復習、下肢・体幹体表解剖 23 股関節の筋 24 股関節の筋 25 股関節の筋 26 膝関節の筋 27 足関節の筋 28 復習 29 実技試験 30 実技試験		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、実技試験と終講時の筆記試験で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象となる。本講義で行う実技試験は授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「新・徒手筋力検査法 原著 第10版」協同医書出版 「ID 触診術 第2版」三輪書店		
備 考 Other Comments	実技が身につくまでには多くの練習時間を要する。学生同士技術を磨きあってほしい。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小澤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	自分というフィルターを通して他者を観察・評価していくことを体験し、意識化・実務経験化する。		
授業計画 Course Content (予定)	(30 時間で行う) 1 観察 2 自分を知る 3 言葉について 4 客観的事実と主観的事実 5 自己表現 6 視点を変える、視点を増やす		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート点、試験の点数を合算。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 19 年の経験及び教員 5 年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	精神障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	3 0 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	精神障害関連領域における基礎的な知識の整理（精神科医療の歴史、関係法規、社会資源、リスク管理、関連理論など）と障害特性、評価の特性を考える。		
授業計画 Course Content	1 精神障害とは・精神障害者の処遇の歴史・関連法規 2 自己理解とは？ 3 精神障害論・特性 ICF 4 精神疾患の生活のしづらさ・妄想・幻覚等症状の種類や特徴 5 評価の流れと評価手段① 面接法体験 6 評価の流れと評価手段② 箱作り体験 REHAB, LASMI 等評価バッテリー 7 精神科 OT の治療構造 回復段階 8 人と場・集団 治療因子と構造因子・集団の発達レベル 9 作業の分類 目的としての作業・手段としての作業 1 0 地域精神科医療（訪問・ACT） 1 1 リカバリーモデル・ストレングスモデル・エンパワーメント 1 2 就労支援① 1 3 就労支援② 1 4 認知行動療法：SST・ディベート体験 1 5 まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験にて行う。		
教科書 Textbooks	ゴールドマスターテキスト「精神障害作業療法学」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	老年期障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本邦の総人口は 1 億 2,711 万人（2015 年時点）だが、65 歳以上の高齢者人口は 3,392 万人を数える。総人口に占める 65 歳以上人口の割合（高齢化率）は 26.7%であり、世界に類を見ない超高齢化社会である。総人口が減少するなかで高齢化率は上昇を続け、2060 年には高齢化率は 39.9%に達し、2.5 人に 1 人が 65 歳以上となる見通しである。 このような環境の中、国や都道府県、各市町村自治体は地域包括ケアシステムの整備をすすめるとともに、要支援認定者や事業対象者（いわゆる軽度者）の支援のあり方とリハビリテーション専門職等の関与について様々な議論をおこなっている。本講座ではこれらの取り組みを解説し、高齢者の特性や尊厳をふまえた支援について検討することで高齢者領域における作業療法のあり方を考察する。		
授業計画 Course Content	（30 時間で行う） 1・2 高齢者の特徴と理解（市民向け講座から） 3・4 日本のこれからと地域包括ケアシステム 5・6 地域支援事業と総合事業／リハ職同行訪問アセスメント 7・8 短期集中予防サービス／軽度者支援の実際と作業療法 ※5～8を「これからの軽度者支援」として講義 9・10 高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など）その 1 ・介護支援専門員（ケアマネージャー） ・地域包括支援センター ・言語聴覚士、歯科衛生士（口腔プログラム） ・管理栄養士（栄養改善プログラム） 11・12 高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など）その 2 ・リハビリテーションの目指すもの ・作業療法士（MTDLPも含めた） ・理学療法士（運動器の向上プログラム） 13・14 自立支援を目的とした軽度者支援について 事例検討と演習 15 まとめ（1～14の要約と説明、3年生の地域作業療法学へのつなぎなど）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「老人のリハビリテーション 第 8 版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	発達障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【一般目標】 発達障害の各論を学ぶのに必要となる、発達障害の病態や種類、作業療法の基本的な考え方を理解する。 【行動目標】 ① 基本的な原始反射を理解する。 ② 定型発達（粗大運動）の概要を理解する。 ③ 脳性まひ児の種類や病態を理解し、作業療法の考え方を理解する。 ④ 進行性筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎の作業療法の考え方を理解する。 ⑤ 自閉症スペクトラム障害の種類や病態、作業療法の考え方を理解する。 ⑥ 発達検査の概要や意義を理解し、必要な検査が選択できるようになる。 ⑦ 感覚統合など主な理論の概要を理解する。		
授業計画 Course Content	1 原始反射 2 定型発達（粗大運動）① 3 定型発達（粗大運動）② 4 定型発達（巧緻運動）③ 5 定型発達（感覚・知覚・認知機能） 6 定型発達（ADL） 7 定型発達（遊び・社会性） 8 発達検査 9 脳性まひ児の病態、種類や特性 10 脳性まひ児の作業療法 11 自閉症スペクトラム障害の病態や特性 12 自閉症スペクトラム障害の作業療法 13 感覚統合、応用行動分析など 14 知的障害、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎などの作業療法 15 まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト、単位認定試験		
教科書 Textbooks	「Cross basic リハビリテーションテキスト 人間発達学」メジカルビュー 「作業療法学 発達障害作業療法学 第3版」メジカルビュー		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 21 年及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅰ (発達疾患Ⅰ)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	黒澤 淳二	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	整形疾患、重症心身障害を中心とした疾患別の障害特性及び作業療法の進め方について、講義及びグループワークによって理解を深める。		
授業計画 Course Content (予定)	1 DMD 児・者の概要および治療 2 DMD 児・者についてグループワーク、発表 3 重症心身障害児・者の概要および治療 4 重症心身障害児・者についてのグループワーク、発表 5 二分脊椎児・者の概要および治療 6 二分脊椎児・者についてグループワーク、発表 7 骨関節疾患児・者の概要および治療 8 骨関節疾患児・者についてのグループワーク、発表		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験 100%		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 3 2 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅱ (発達疾患Ⅱ)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	加藤 雅子	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	脳性麻痺についての概要、および障害特性によって分類されたタイプ別に、視聴覚教材を用いて臨床像や基本的問題点を確認し、障害特性のイメージと理解につなげる。また、それらの障害が、発達過程におよぼす影響についても講義し、評価～作業療法のアプローチポイントを理解する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 脳性麻痺についての概要① 2 脳性麻痺についての概要② 3 脳性麻痺 痙直型両麻痺① 4 脳性麻痺 痙直型両麻痺② 5 脳性麻痺 痙直型片麻痺① 6 脳性麻痺 痙直型片麻痺② 7 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型① 8 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験および出席状況		
教科書 Textbooks	(予定) なし 資料を配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び教員 2 9 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅲ (精神疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神疾患別の障害特性、作業療法の進め方について		
授業計画 Course Content	1 精神科の基礎知識① 2 精神科の基礎知識② 3 統合失調症の OT① 4 統合失調症の OT① 5 気分障害の OT① 6 気分障害の OT② 7 各種依存症の OT 8 神経性障害の OT 9 てんかんの OT 10 薬物療法 11 模擬症例の評価計画 (GW) 12 精神科でかかわることのある発達障害① 13 パーソナリティ障害の OT① 14 パーソナリティ障害の OT② 15 模擬症例 評価計画発表		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	発表 (40 点満点) 筆記試験 (60 点満点)		
教科書 Textbooks	中央法規：疾患の理解と精神科作業療法 その他：適宜資料配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年及び教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅳ (老年期疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	高齢期分野に多い疾患やそれに対応するアプローチなどを学ぶ。また超高齢化社会となっている我が国における高齢期分野の根底となりつつある地域包括ケアシステムなどについて知り、どのような支援を行うべきなのかを考える。		
授業計画 Course Content	1 高齢期分野とは・・・老人疾患の特徴、加齢と老化 介護保険とその流れ 高齢マネジメント・地域包括ケアシステム 2 認知症とは・・・認知症全般に関連する症状・疾患など 認知症のリハビリテーションと関わり方①アルツハイマー型認知症/脳血管性認知症 3 認知症のリハビリテーションと関わり方②レビー小体型認知症/前頭側頭型認知症/その他認知症 4 HDS-R と MMSE 特徴・実技など。その他高齢期に関連する評価スケール 5 認知症の OT でよく使われる手法 脳トレ体験 6 高齢者の運動器疾患とリハビリテーション① 骨折と置換術/骨折の合併症/脱臼肢位 7 運動器不安定症・ロコモティブシンドローム 8 フレイル・サルコペニア 口腔体操体験 9 廃用症候群/誤用症候群/過用症候群 10 廃用への対応① CVA・廃用からの脱臼等の患部保護について。三角巾での保護実技 11 廃用への対応② 軽運動(棒体操)/ROMex 12 呼吸リハ① 13 呼吸リハ② 呼吸介助・胸郭ストレッチ 体験 14 地域リハ① 15 地域リハ②		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	老人のリハビリテーション 医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅴ (脳血管疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	脳血管障害患者は生活習慣病の中の代表的疾患であり、医療・保健・福祉の各分野におけるリハビリテーション、とりわけ作業療法部門においては避けることの出来ない対象である。 脳血管障害に関する発生機序、心身に及ぼす障害について理解し、対応するリハビリテーションプロセス（リハビリテーション評価の流れ、心身機能、生活障害の程度を測る各手法、対象者のリハビリテーション課題を探るポイント、社会復帰への目標設定など）について整理する。		
授業計画 Course Content	1 脳の機能解剖 2 脳の機能局在 3 脳血管障害の経過 4 脳血管障害の分類 5 脳血管障害による症状① 6 脳血管障害による症状② 7 画像診断 CT 8 画像診断 MRI 9 ブルーンストロームとは 10 上田の12段階評価とは 11 上田の12段階 実技 上肢 12 上田の12段階 実技 下肢 13 上田の12段階 実技 手指 14 手指機能検査 STEF ペグ 15 作業療法評価指針① 16 作業療法評価指針② 17 ADL 評価 バーセルインデックス 18 ADL 評価 FIM 19 ポジショニング実技 20 片麻痺の基本動作 21 片麻痺の応用動作 22 作業療法治療指針 23 まとめ 上記の進行に沿って、座学・実技を交えて講義する。 一項目が複数回に亘ることもあり、学生にはその都度、特に実技準備品について事前連絡を講師より行う。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席率 ②課題レポートの内容 ③筆記試験の採点 ④授業態度		
教科書 Textbooks	「DVD シリーズ7 PTOT のための測定評価 片麻痺機能検査・協調性検査」三輪書店		
備 考 Other Comments	パソコン・プロジェクター使用		
実務経験内容	作業療法士として教員3年及び臨床33年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅵ (整形疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・ 手の機能解剖について理解する ・ 手の外科領域の専門用語について理解する ・ 手術法、術後療法、リスク管理について理解する ・ 標準的訓練プログラムについて理解する ・ 臨床実習および卒後診療に最低限必要な技術、知識を習得する		
授業計画 Course Content	1 整形 OT とは、骨の機能、成長、新陳代謝、関節、関節の機能、筋、末梢神経 2 疼痛、変形、拘縮、強直、動揺関節 3 整形外科診断と検査、保存療法、手術療法 4 骨折総論① 5 骨折総論② 6 骨折総論③ 7 骨折総論④ 8 橈骨遠位端骨折① 9 橈骨遠位端骨折② 10 橈骨遠位端骨折③ 11 腱損傷① 12 腱損傷② 13 腱損傷③ 14 腱損傷④ 15 切断① 16 切断② 17 切断③ 18 切断肢の作業療法訓練 19 熱傷 20 末梢神経損傷① 21 末梢神経損傷② 22 関節リウマチ① 23 関節リウマチ②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「リハ実践テクニック ハンドセラピー」メジカルビュー社 「リハ実践テクニック 関節リウマチ 改訂第2版」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 2 7 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅶ (難病)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「難病」とはその名のとおり、根本的治療法が未だ確立されていない疾患の総称で、医療・保健・福祉の分野ではケアに長期間を要する。授業では以下の理解を深める。 ① 難病疾患に関する社会支援制度、とりわけ公的介護保険制度との関係について、 ② 代表的な神経難病についての疫学、症状、リハビリ評価、対応について整理する。		
授業計画 Course Content	1 神経難病とは 2 神経難病に関する医療、福祉制度 3 パーキンソン病とは 4 パーキンソン病の評価、作業療法 5 多発性硬化症 6 脊髄小脳変性症 7 廃用症候群について 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	① 欠席状況、遅刻・早退 ② 定期試験採点 ③ 授業態度 等で評価いたします。		
教科書 Textbooks	講師作成プリント・スライド		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 3 3 年及び教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅶ (高次脳機能障害)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高次脳機能について概説をした上で、諸症状別に内容及び作業療法による介入方法を知る。高次脳機能障害の各症状と作業機能障害との関連性を考え、介入方法を検討できるようになる。		
授業計画 Course Content	1 高次脳機能って？脳の局在？脳の発達と高次脳機能 2 失語症の OT① 3 失語症の OT② ブローカー ウェルニッケ 動画 4 失行症の OT コース立方体体験 5 失認症の OT① 6 失認症の OT② 7 USN の OT① 8 USN の OT② BIT 標準検査体験 9 記憶障害の OT 10 注意障害の OT① 11 注意障害の OT② TMT かなひろい ハノイの塔 レイ複雑図形 体験 12 遂行機能障害の OT① 13 遂行機能障害の OT② 14 遂行機能障害に関する検査 FAB とは？BADS とは？ FAB・ストループ・動物園地図課題など体験 15 プッシャー現象は高次脳機能障害？？ 振り返り・まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」医学書院 「リハビリテーションにおける 評価法ハンドブック - 障害や健康の測り方 - 」医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員6年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅸ (脊椎損傷)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	脊髄損傷の症状の特性を理解し、作業療法での評価・治療を含め、リハビリテーションチームとしての 関わりや社会復帰についての OT アプローチ等を学習する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 脊髄損傷とは 2 麻痺の特性と随伴症状について 3 受傷原因、急性期の症状と対処 4 急性期におけるリハビリテーション 5 合併症とその管理について 6 脊髄損傷者の基本動作 7 脊髄損傷者の車いすや移乗方法について 8 評価と訓練計画 9 食事、整容動作 10 排泄動作 11 更衣、入浴動作 12 住宅改修の特徴と福祉機器 13 脊髄損傷の損傷髄節レベル別の ADL の特徴 14 作業療法の具体的支援方法 15 症例検討		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 出席状況、授業態度、筆記試験。		
教科書 Textbooks	(予定)「頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第3版」協同医書出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	動物介在療法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 妃呂己、磯脇 知世	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	【講義概要】 すでに1 年次後期の動物介在療法Ⅰでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。 この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を実践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を実践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際多職種連携についても学ぶ。 【到達目標】 ① 馬介在療法を実践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。 ② 馬介在療法を実践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。 ③ 馬介在療法を実践する上での支援の基本的な考え方を理解する。 ④ リハ職が馬介在療法を実践する際多職種の連携を理解する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 2 馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 3 馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。 4 馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 5 馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 6 馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 7 馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。 8 馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について 作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。 また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 ※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	日常生活活動学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	日常生活活動、生活関連活動とは何か？個人がその人らしく『生活する』とはどういうことなのか？を学びます。各人を取り巻く環境は同じではなく、万人が行っている身の回りの活動ひとつとっても、その中に個別の「こだわり」が存在するものもある。そこに作業療法士が関わることで、対象者の生活をどのように取りもどし、援助していくのかを考えていきます。		
授業計画 Course Content	日常生活活動(ADL)と作業療法 1 オリエンテーション 「ADL」とは ／ 「日常生活とは」 2 ADL とは 定義・概念・範囲について 3 基本動作と Self-care 4 Self-care の5項目について考える 5 「できるADL」と「しているADL」 6 ADL の自立と QOL 7 健常者の動作とは 8 ADL 動作と動作分析 9 ADL 動作と動作分析 10 生活関連活動について 11 日常生活活動の評価 ／ テストバッテリー 12 生活と文化的側面とは 13 疾患別 ADL について（呼吸器疾患） 14 疾患別 ADL について（脳血管疾患） 15 疾患別 ADL について（整形疾患）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動 改訂第3版」 協同医書出版		
備 考 Other Comments	実技を行うことがあるため、基本的に動きやすい服装で受講すること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年及び専任教員9年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	橋本 寛	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／演習	実務経験 Experience	(義肢装具士)
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	義肢の概観を学び、リハビリテーションとの関連や基本原理を講義します。基本的な義肢装具の用語や概念が説明でき、基本原理を理解応用できるようになることを到達目標とします。見本や臨床例などを交えて講義を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。また他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。		
授業計画 Course Content	※ () 内は教科書の章 例：1－1…第1章1 1 義肢総論 (0－1, 1－1) 義肢装具の位置づけ、義肢の歴史 2 義肢総論2 (1－3, 4) 義足 3 義肢総論3 (1－2, 5, 6) 義手、基礎医学、臨床医学 4 前腕義手 (1－7) 5 上腕義手 (1－8) 6 その他の義手、チェックアウト (1－9, 10) 7 下腿義足、大腿義足、下肢切断に対する作業療法 (1－11, 12, 13) 8 装具総論、上肢装具 (2－1, 2－2) ※・授業の進捗状況に応じて、進度を変更することがあります。 ・理解する項目や覚える事柄が多く出てきます。各回で復習をいれますので、丸写しにせず、“思い出す努力”をしながら理解し、ほかの人に説明できるようになってください。 ・適宜討論や発表、指名発言を求めますので、積極的に参加してください。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	最終試験合計60%以上を合格とします。試験範囲は教科書及び講義中の配布資料とします。		
教科書 Textbooks	「義肢装具学」作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	教科書を使用し、不足部分を講義の配布資料で補います。平常点は、授業への積極的な参加（発表、討議、質問）とします。		
実務経験内容			

科目名 Course title	装具学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	上肢装具の機能、適応について教授し、代表的な装具に関しては採形から制作までを実施し、修正技術、適合判定技術を習得する。		
授業計画 Course Content	1 装具概論（装具とは、機能、適応） 2 装具の分類、目的、原理 3 製作実習① 指用装具 4 製作実習② 指用装具 5 製作実習③ 指用装具 6 カックアップスプリント① 7 カックアップスプリント② 8 カックアップスプリント③ 9 カックアップスプリント④ 10 カックアップスプリント⑤ 11 カックアップスプリント⑥ 12 カックアップスプリント⑦ 13 カックアップスプリント⑧ 14 カックアップスプリント⑨ 15 カックアップスプリント⑩ 16 短対立装具① 17 短対立装具② 18 短対立装具③ 19 短対立装具④ 20 短対立装具⑤ 21 短対立装具⑥ 22 短対立装具⑦ 23 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 実技課題の提出		
教科書 Textbooks	イラストでわかる装具療法 医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 2 7 年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典 ・ 隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	2000年4月より介護保険制度も開始され、わが国でも福祉用具のレンタルや住宅改修が積極的に利用されつつあるが、まだ全体的な利用率は低い水準にとどまっている。本講座では作業療法士として必要な機器支援の方法、機器の使用法の基礎を学習する。		
授業計画 Course Content	1 福祉用具とは、背景、分類、ISO9999 2 介護保険制度、貸与と特定福祉用具、作業療法士の役割 3 機器使用者に対する支援、機器提供のプロセス 4 中間ユーザーとしての役割、福祉機器の情報 5 車いす、電動車いす 6 車いすの種類、機能、機構 7 移乗用具（ホイスト、吊具） 8 ベッドと周辺機器、テーブル 9 排泄のための機器 10 入浴のための機器 11 手すりスロープ 12 コミュニケーション機器 13 起居関連用具②（マットレス、ベッド手すり、サイドレール） 14 起居関連用具③（寝返り補助用具、姿勢補助用具） 15 起居関連用具④（椅子、いす車、手すり） 16 起居関連用具⑤（ベッドの利点と欠点、寝具選択のポイント） 17 移動関連用具②（歩行器・歩行車、床上移動用具） 18 移動関連用具③（車いすの分類、自走用車いすの種類） 19 移動関連用具⑤（介助用車いす、チルト機構、リクライニング機構） 20 移動関連用具⑥（電動車いす・電動化ユニット） 21 移動関連用具⑦（車いすオプション・クッション） 22 移動関連用具⑧（車いすの選択・車いすに求める要因） 23 移動関連用具⑨（障害形態別移動法）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論 財団法人テクノエイド協会		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年及び専任教員27年の経験を有する。 隅野講師：作業療法士として臨床経験22年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法士の援助技術の一つとして自助具適応による生活能力の向上が上げられる。この講座では自助具に関する基本的な考え方と適応技術について学ぶ。 後半はいくつかの対応課題について実際に自助具を設計・作成し、材料の選択加工方法についても学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 自助具とは基本的知識 2 自助具の製作、注意点 3 製作実習① 4 製作実習② 5 製作実習③ 6 製作実習④ 7 発表会 8 まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①実技（作品の提出） ②レポート ③筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第 1 0 巻 作業療法技術学 2 改訂第 3 版 福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論 財団法人テクノエイド協会		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 9 年及び専任教員 2 7 年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	臨床見学実習Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から２つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。 また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、２年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床見学実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から2つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。 また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、2 年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。		
授業計画 Course Content	(各実習施設による) 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床評価実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 後期／3 単位
授業方法 Teaching Methods	1 3 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本臨床評価実習の主目的は、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（情報収集、面接、観察、検査、測定）を実施し、全体像把握から問題点抽出、目標設定、援助計画の立案までを学習することとします。総合臨床実習に向けて、今後の自己の学習課題を明確化することに主眼が置かれます。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	① 実習前評価（OSCE） ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

講義概要

2024 年度 作業療法学科
3 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法研究法	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	①作業療法研究の必要性と意義を説明できるようになる。 ②研究の種類とデザイン、統計について説明できるようになる。 ③論文の構成と記載すべき事項を説明できるようになる。 ④実証研究を実施しレポートを作成できるようになる		
授業計画 Course Content	1 作業療法研究、臨床倫理と研究倫理、臨床疑問と研究の種類概要 2 研究の種類とデザイン（量的研究：観察研究、介入研究） 3 質的研究：混合法、事例を通した研究 4 調査票の設計、尺度開発、文献研究、データベース研究 5 研究対象者の選定、アウトカム 6 研究目的に応じた統計解析（概観） 7 実証研究実施 8 実証研究実施		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験、レポート		
教科書 Textbooks	編集 山田孝：「標準作業療法学専門分野 作業療法研究法」。医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

＝作業療法管理学＝

科目名 Course title	作業療法管理学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要 作業療法士としてだけでなく、職業人として部門を管理・運営していくには何が必要か。こうした問題意識を起点として、医療・介護保険・障害者総合支援法の制度概要と仕組みについてみていき、部門を管理するための視点を検討する。さらに、業務管理における書類作成など遵守事項や医療の質を高めつつリスクをマネジメントする方法について講義をしていく。 到達目標 ①診療報酬制度・介護報酬制度について理解し、概要について説明できるようになる ②診療報酬制度・介護報酬制度の改定情報を自身で得ることができるようになる ③業務管理について理解する ④医療の質、リスクマネジメントについて理解する		
授業計画 Course Content	1 社会保障制度の振り返りと制度・グループワークテーマの説明・ワーク開始 2 医療保険制度の仕組みと作業療法部門・介護保険制度の仕組みと作業療法部門 3 障害者総合支援法の仕組みと作業療法部門・予防、保健行政の仕組みと作業療法部門 4 業務管理（前半）：病院・施設の組織、療法士の業務、コンプライアンス 5 業務管理（後半）：労務管理、組織マネジメント 6 医療の質とリスクマネジメント 7 EBMと診療ガイドライン 8 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	教科書：齊藤秀之 能登真一 編集：リハビリテーション管理学. 医学書院 参考資料：中村隆一・佐直信彦編集：入門リハビリテーション概論. 医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法管理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要：保健医療専門職に求められる職業倫理や関連法規を理解し、リハビリテーションサービスを提供する上で必要な多職種連携・地域連携の基礎を学ぶ。また、作業療法士が保健医療専門職として社会の中で担う役割・知識・技術・学習理論・教育手段についても学ぶ。加えて感染症が社会にもたらす影響を理解し、その具体的な予防法について修得する 到達目標：①専門職に求められる職業倫理について理解する。 ②保健医療をめぐる法律や医療スタッフに関する法律について理解する ③多職種連携・多職種協働の必要性について理解する。 ④地域包括ケアシステムについて理解する。 ⑤感染症に関する知識をもち、具体的な感染予防対策をとることができる。		
授業計画 Course Content	1 職業倫理① 専門職に求められる職業倫理 2 職業倫理② 身分法と倫理綱領 3 多職種連携 4 地域連携 5 養成教育 6 卒後教育 7 感染症の現状と対策 8 感染症の予防（実技）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）		
教科書 Textbooks	齊藤秀之 能登真一 編集：リハビリテーション管理学. 医学書院		
備 考 Other Comments	適宜配布資料を使用し授業を実施する		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。		

＝地域作業療法学＝

科目名 Course title	地域作業療法学 I	学 科 Department	作業療学科
担当者名 Instructor	名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	(今講師) ・ 特別養護老人ホームとデイサービスの OT の現状を知って、地域施設で働く OTR の役割を考える。 ・ 具体的な OT プログラムを体験し、実習や臨床に出てからの活動の参考にする機会にする。 ・ ワークショップで楽しくアイデアを出し合って、地域で働く OT の可能性を考える。 (名倉講師) ・ 介護保険制度の全般的理解（介護認定からサービス利用に至るプロセスやサービス利用に関わる専門職種など）と同制度においてリハビリテーションの基幹施設と定義づけられる介護老人保健施設について学ぶ。また、2025 年を見据えた医療・介護の基本方針である地域包括ケアシステムを理解し、その取り組みの一環である地域ケア会議についても学習する。		
授業計画 Course Content (予定)	(今講師) 1 施設紹介 2 デイサービスセンターの OT について 3 特別養護老人ホームの OT について 4 ワークショップ～地域 OT ができることを考える～ 5 実技 <OT プログラム体験> (名倉講師) 6 介護保険制度、介護老人保健施設についての説明 7 日本の医療・介護の展望 ・ 2025 年問題について ・ 地域包括ケアシステムと介護予防・自立支援の取り組み ・ 地域ケア会議の紹介と専門職の関与について 8 地域ケア会議の模擬演習 ・ グループワークを通じての演習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) (今 講師) レポート (名倉 講師) 全 1 0 問のテストを行う		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	今 講師：作業療法士として臨床経験 2 2 年の経験を有する。 名倉講師：作業療法士として臨床経験 2 5 年の経験を有する。		

科目名 Course title	地域作業療法学Ⅱ	学 科 Department	作業療学科
担当者名 Instructor	寺村 肇・伊藤 健次郎・日野上 貴也	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	様々な領域での地域作業療法について講義を行います。		
授業計画 Course Content (予定)	(1 5 時間で行う) <精神障害領域> 精神障害領域での地域リハビリテーションの具体的な取り組みの紹介。 ケアマネジメントの考え方について講義。 講義① ・地域リハビリテーションの歴史的背景 ・ケアマネジメントの紹介 講義② ・地域リハビリテーションの取り組み ・地域リハビリテーションでの作業療法士の役割 <訪問リハ> 地域作業療法の実践や現状を訪問看護ステーションや就労支援事業所で勤務する OT、介護保険、障害福祉サービスを利用している利用者さんから聴き取る。 ワークショップ、参加型の講義を通して、学生さん自らで地域作業療法をデザインしてもらい、アイディアを共有し目分なりの地域作業療法のカタチを見出す。 講義①「地域作業療法のカタチ①」 1. 自己紹介、キャリア紹介 2. 各定義の紹介、日本地域作業療学会、地域包括ケアシステムなどの説明 3. アクティブの紹介 訪問リハ、デイ、アクティブクラブ、就労支援、求められること、活動・参加応援事例集、心意気実践チーム等の紹介 4. 利用者さんの紹介 ～疾患、障害のこと等を紹介～ 講義②「地域作業療法のカタチ②～ケースを実際に通して～」 1. 利用者さんトークライブ ～ご病気のこと、障害のこと、お仕事のこと、訪問看護・リハに望むこと～ 2. 質問タイム、運動麻痺のある左上肢の触診体験 3. 感想文作成 講義③「地域作業療法のカタチ③～地域で活躍する病院 OT から & 地域の社会課題とは～」 1. 講師紹介 / 2. 活動報告 / 3. 地域の社会課題とは、ソーシャルキャピタルとは、地域コミュニティづくりの事例等の話題提供 4. 感想文作成 (A4 用紙) 講義④「地域作業療法デザイン～地域包括ケアシステムのなかでの OT の役割とは～」 1. グループワークのルールや流れ、LTP などのフレームワークの活用方法の説明 2. グループワーク / 3. 発表・報告 / 4. まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) <精神> 2 回の講義を踏まえて、地域リハビリテーションの課題についてレポート A4 1 枚程度作成。 <訪問> グループワーク中で作成した LTP2 レポートを個別に完成させたものを A4 用紙 1 枚程度作成。		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	地域作業療法学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	〈発達障害領域の地域作業療法〉 発達障害を伴う子どもたちや大人とその家族が地域で生活する際の課題を知り、支えるための社会資源、制度などについて学び、作業療法士の責務を理解する。		
授業計画 Course Content	近年、医療ケアが必要な子ども、自閉症スペクトラム、学習障害、発達性運動障害などを伴う子どもが増えている。子どもたちやその家族が抱える問題、支援するための社会資源、制度について体系的に学び、ディスカッションを通して作業療法士の役割について考える。 1 地域作業療法（発達障害領域）概論 作業的公正、作業権、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンなど 作業療法実践に必要な理論や概念について理解する。 2 0 歳～未就学児の支援 新生児集中治療室（NICU）、新生児診療相互援助システム（NMCS）、 児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、訪問リハビリテーション等、 子どもや家族を支えるサービスと作業療法士の役割について学ぶ。 3 学童期～思春期（小学生～高校生）の支援 放課後デイサービス、特別支援教育、個別支援計画、保育所等訪問支援事業など、 教育を受ける権利および地域参加を補償するための包括的な支援について理解し、 作業療法士の役割を学ぶ。 4 青年期の支援 就労支援、自立生活支援、意思決定支援、 ACP（アドバンスケアプランニング）についての理解と作業療法士の役割を学ぶ。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	グループディスカッション、筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験 21 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	居住環境整備論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整の為の評価と実際に学び、より豊かな生活と活動範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学習する。		
授業計画 Course Content (予定)	(1 5 時間で行う) 1 「障がい者・高齢者の機能特性と問題点・住環境整備の必要性」 2 「住環境整備に必要な基礎知識（関連法規や建築に関すること）」 3 「住環境の評価」 4 「住環境整備の手順・方法（総論）」 5 「疾患別住環境整備の手順・方法」 6 「事例検討（GW・2 症例程度）」		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート（5 0 %）、学期末試験（5 0 %）などによる総合評価		
教科書 Textbooks	作業療法学全書 改訂第 3 版 第 1 0 巻 作業療法技術学 2 福祉用具の使い方・住環境整備		
備 考 Other Comments	授業に興味・関心を持てるように、また学生の自主的な学習意欲を引き出せるように、教材や授業方法の工夫に努めます。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 2 2 年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	総合臨床実習Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／9単位
授業方法 Teaching Methods	405時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	総合臨床実習は、3年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。 また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。 その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。		
授業計画 Course Content	臨地での実習を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習となることがある。（臨地での実習については、各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	① 実習前評価 ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	総合臨床実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／9 単位
授業方法 Teaching Methods	4 0 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	総合臨床実習は、3 年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。 また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。 その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	① 実習前評価 ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

＝総合実習＝

科目名 Course title	作業療法総合学習Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	講義概要：国家試験専門基礎分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。 到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認し構築する。 国家試験合格を目標とする。		
授業計画 Course Content	【専門基礎分野】 ① 解剖学（骨・筋・神経） ② 生理学 ③ 運動学（上肢帯・体幹・下肢帯） ④ 神経内科学 ⑤ 内科学 ⑥ 精神医学 ⑦ 整形外科学 ⑧ まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法総合学習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	3 年次 後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要：国家試験専門分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。 グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。 到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認構築する。 国家試験合格を目標とする。		
授業計画 Course Content	【専門分野】 ① 身体障害分野 ② 精神障害分野 ③ 老年期障害分野 ④ 発達障害分野 ⑤ 装具学 ⑥ 義肢学 ⑦ 福祉用具 ⑧ まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。		

2023 年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自 : 2023 年 4 月 1 日
至 : 2024 年 3 月 3 1 日

評価基準日 2024 年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科／作業療法学科

学校関係者評価 評価委員

(順不同・敬称略)

委員長 米澤 泰司

委員 大原 敏敬

委員 宮野 博

委員 前原 園代

委員 川原 勲

委員 酒井 真紀

委員 谷川 優香

評価項目の達成および取組状況

1 教育

2 施設・設備

3 学生サービス

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者：

副校長 米澤 博隆

理学療法学科長 桶田 勝文

作業療法学科長 福永 宜典

事務主任 伊丹 朋子

教育分野 リハビリ

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたっている。	動物介在療法、スポーツリハに関連する科目などを設け、多様化する理学、作業療法士への医療・福祉・地域のニーズに対応したカリキュラムを継続して実施している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後も教育内容の見直しを図り、学習の効率化、オンライン授業等を含め、より学生の個別性に合わせた効果的な教育手法を実施する必要がある。	○指摘事項なし。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、地域リハビリテーション、予防リハ、がんリハ、生活行為向上マネジメントなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。 今後も職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行うことが必要。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。	○特別講義等を設け、職域の拡大を目的とした講義を定期的に取り入れると良いと考える。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新型コロナウイルスの取り扱いが5類に移行したことによって、コロナ禍以前の状態に戻すことを前提としているが、一部の臨床実習と科目において学内実習、オンライン授業となっている。	特に2学年においては過密なスケジュールとなったが、臨床実習施設の拡充とスケジュールを行い、また学内実習を組み合わせ、年度内に規程の時間数を終了させることができた。時間割に学年間の偏りがある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	授業スケジュールを調整することで学生の休養期間を確保し、過度に負担を与えないよう配慮する必要がある。	○スケジュールの調整を早急に検討必要。
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	科目ごとの教授内容を明確化し、幅広い知識と技術が習得できるよう調整している。	指定規則改定により加わった新たな教授内容を盛り込んでいるが、年々変化する学生の能力に対応が追いつかないところがある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生の能力に合わせた授業構成や学習に対するモチベーションが向上するような工夫が必要である。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
5. カリキュラムの見直し体制はどのようになっていますか	教育ガイドライン、臨床実習ガイドライン、各科目の受講人数有などを勘案し、一部の科目について合同授業を取り入れて教育効果の向上を進めている。	教育効果が最大限に発揮できるよう学科間で意見交換を行い、授業内容の見直し等を行っている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学科間で学修内容や到達目標の差が生じないよう情報交換し、調整を進めていく。	○指摘事項なし。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	昨今の学生の状況や国家試験の出題傾向等を考慮し、また出版社の意見なども参考にして原則、科目担当講師が厳選している。	出版社から献本を積極的に取り寄せ、学生の現状に合致したテキストを選定している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後も学生の現状と国家試験の出題傾向などを考慮し、適切なテキストの選定を行う。学生の意見を踏まえ、購入後使用頻度の低い教科書については、改善を提案していく。	○指摘事項なし。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	原則、科目ごとの単位認定は担当講師が行い、進級・卒業判定については、学科会議を経て、運営会議で最終判定がなされる。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学修目標を取り入れた目標に合致しているか評価する新たに求められる能力要素があった場合には、成績評価ができるように追加する。	○学生アンケート等を利用し、最良の評価法の検討が必要。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	学修範囲が広い科目では小テストや中間テストを実施するなどし、学生の理解度を確認しながら進めている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っている。	○指摘事項なし。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	進研アド基礎カリサーチの結果に基づき、適宜学生面談を実施している。学生個々の課題を明確にして指導を行っている	カリキュラム外に適宜補修等を実施している。ただし、学生の過剰な負担にならないよう、バランスを取りながら進める必要がある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	基礎カリサーチの結果を詳細に分析し、新たな学習に対する不安を軽減し、学習意欲・学習習慣を維持できるよう取り組む。	○早期より学生の学力を把握し、極力早めにサポートをしていく必要がある。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	臨床でのマナー・身だしなみ等については普段の学校生活から適宜指導している。当校敷地内では全面禁煙とし受動喫煙防止に努めている。	入学時から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	本校の教育方針の意図を理解していただけるように努める。教職員も手本を示し、職業人としてのマナーやモラルの向上を目指していく。	○指摘事項なし。
11. 教育技術（教育方法）の研究・研究を実施していますか	以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位（修士、博士）取得準備	学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかかる時間を確保する。スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会発表、研修会参加、研究活動を実践し、教職員の質向上に努める。	○指摘事項なし。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。	評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。	○指摘事項なし。

2 施設・設備

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR 教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。実習棟の空調設備更新が必要。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR 教室でも試験を実施できる対策を検討する。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	基準を満たした蔵書数を保有している。 メディカルオンラインを導入しており、文献検索が容易になった。	同じ建物内に図書室があるため、利便性が向上したことによって利用率が向上した。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	引き続き配架を効果的に行い、利用の促進を図っていく。	○指摘事項なし。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。 検査機器、研究機器を新規購入し、学習環境が向上した。	新指定規則に必要な物品が納入され、学習環境が向上している。今後も年間購入計画を作成し補充・更新していく。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	新規購入の必要な機材や更新が必要な機器の管理を徹底し、サービスが低下しないように努める。	○指摘事項なし。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	各教室のプロジェクターやマイクについては利用できる環境である。	一部更新が必要な機器があるが概ね教育環境は充実している。 学内 Wi-Fi が充実し、利便性が向上した。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	授業やイベント時にも対応した環境を今後も整備していく。	○指摘事項なし。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	学生寮を保有している。 学生寮はキャンパス敷地内にある。	学生寮には専任の管理者を配置している。 オートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。 隣接する関連看護校の女子寮も利用できるようになり、選択の幅が増えた。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	試験や国家試験前など短期での利用をできるようにしていく。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館、運動場ともに保有している。授業やレクリエーション、また例年であれば式典で利用している。	和幸会グループのクラブ活動や、関連病院と連携し競技復帰前のスポーツ選手も活用している。芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。 ホースセラピーを行う馬場が完成し、動物介在療法授業にも有効活用している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討している。	○指摘事項なし。

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制を取り修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。問題のあった学生については、毎朝のミーティング、学科会議、運営会議等にて担任だけでなく、教職員全体で対応を心がけている。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができています。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続する。	○指摘事項なし。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しきれない問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	現状では十分な環境が整っていると思われる。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを2部屋、また、各所に椅子やソファが設置されており、休憩時間や自習時に学生が有効利用している。	学生用スペースとしては広く、充実している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	照明が暗い傾向にあり、点灯していない時間があるなどの部分を改善できるよう、働きかけを続けていきたい。	修復が必要な個所は改善が必要。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。 学内に売店はないが、弁当の注文販売を行っている。 また、2023年度からは月に一度キッチンカーが来校し、食事の選択肢がさらに増加した。	弁当と自動販売機によって購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。 キッチンカーは学生から好評を得ており、継続していく。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	食事場所のスペースは十分であるが、感染対策のアクリルパーテーションなどがあると良い。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。 学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストアもあり、利便性は向上している。	○指摘事項なし。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。	一般病院から、またその他奨学金の案内をいただいた際は、随時掲示にて学生に連絡を行っている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となっている。	○指摘事項なし。
6. その他	カリキュラム改正で理学療法学科、作業療法学科ともに科目を新設し、学生の自主性に任せていた国家試験対策を最低限必要な内容は教員主導で指導している。	模擬試験過去問ライセンス契約で学内模試の回数を増やし、スマートフォンで学習できるプログラム等を契約することで、教員が学修状況を把握し、個別指導を行う環境を整備した。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生の学修状況に応じて、個別性に特化した対応を取り入れる必要がある。なお、カリキュラム外での時間の使い方について学生に説明し同意を得た上で、その必要性を共有することも重要である。	○指摘事項なし。

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

- ①多様な教育方法の活用：講義だけではなく、ディスカッション、グループワーク、シミュレーション、などさまざまな手法を組み合わせ、効果的な学習環境を提供しています。
- ②個別指導やキャリアサポート：卒業後も学生一人ひとりの成長が期待できるよう、個別指導やキャリアサポートが提供されています。学生自身の興味や能力に合わせた学習機会を提供し、将来に向けて準備できるよう努めています。
- ③近隣に関連法人を持つ学校法人という強みを活かし、一人一人の学生の状況に合わせた実践的な学びが経験できるよう連携・調整しています。
- ④高校、大学クラブチームのフィジカルチェックに教員とともに学生が参加することで当校 理学療法学科の特徴が明確になってきた。
- ⑤学校祭をはじめ、交流会、球技大会などの学科を超えた交流行事や、ハロウィンやクリスマスなどのイベントも積極的に取り入れ、学生満足度の向上につながっている。

5 その他委員からの質問・指摘事項

○学生募集は広域にわたって力を入れているのか？

→寮がある強みを生かし、遠方の高校も訪問している。事務だけでなく教員も全員が高校訪問に出向き、直接先生と顔を合わせて話すことを大切にしている。
入学生がいる高校には必ず報告も兼ねて訪問している。

○スポーツの現場、高校の運動部に出向いて理学療法の魅力を知ってもらうことはできないのか？

→高校や大学の部活動には数か所出向いている。この先も増やしていきたい。

○卒後教育、OB 会や卒業生のネットワークをもっと強くしてはどうか？

→今年度、OB 会で月一回の勉強会を実施する。卒業生に広く声をかけて参加を募り、ネットワークを広げていきたい。

○作業療法士は大変魅力があるのに認知度が低い。入口のハードルを広げ、コース選択制の導入は検討できないのか？

変化の激しい時代は、進路を絞らない傾向にある。今の時代は、進路の幅を広く、また軌道修正出来ることがプラスに捉えられる。

→制度的なところでコース選択は簡単に導入できることではないが、転科など軌道修正がしやすい制度を現在検討している。

2023 年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2023 年 4 月 1 日
至：2024 年 3 月 3 1 日

評価基準日 2024 年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校
日本語科

学校関係者評価 評価委員

(順不同・敬称略)

委員長 米澤 泰司

委 員 大原 敏敬

委 員 宮野 博

委 員 前原 園代

委 員 川原 勲

委 員 酒井 真紀

委 員 谷川 優香

評価項目の達成および取組状況

1 教育

2 施設・設備

3 学生サービス

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者：

副校長 米澤 博隆

日本語科主任 吉田 佳純

事務主任 伊丹 朋子

教育分野 日本語科

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当科は、将来の医療（主に介護）人材を育成するため、社会の一員として自立・自律できる人間を涵養することを教育目標に掲げている。上記目標の下、日本で生活や資格外活動にマッチした、真の意味での「コミュニケーション能力」の向上を目指したカリキュラムデザインを充実・発展させてきた。	教室でのアウトプット活動や教室外での社会活動等を重視することにより、コース目標である「コミュニケーション能力」の習得を目指した授業が展開できていると考える。アウトプットをする機会が多いことで、日本語能力の定着もしやすくなっている。 問題点としては、2カ国からの留学生しかいないので、寮生活に戻った際に、主に母語を使用する様子が見られることである。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	コース目標達成を見据えたカリキュラムおよびシラバス内容は現状では問題はないと考える。 学生同士の日本語を使用してコミュニケーションを増やすために、宿題などでグループワークを与えたり、教室外でもベトナムとインドネシアの学生が接点を持つ機会を設ける必要があると考える、	○寮生活でもこちらの言語を積極的に使っていくような意識付けが必要である。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	当科修了後の学生の進路は、介護福祉士養成のための専門学校進学または特定技能（介護）による就職に絞られてきている。これらの学生達のニーズに即した日本語能力の獲得を目指した教育を行うべく、カリキュラムに「一般常識」「介護の日本語」「介護職員による出前講座」などを取り入れるなどの工夫・挑戦を続けている。	「介護の日本語」では、高齢者体験や介護現場で使用する基本的な語彙・漢字・声かけ表現などを学習項目に取り入れている。学生から「非常に役に立つ」というプラスの意見を多数もらった。 また、「介護職員による出前講座」では、「介護」という専門分野を客観的・多角的に認識する機会を学生に与え、介護福祉士として社会的・職業的自立を目指すためのキャリア教育としての役割を果たしている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学生の進路ニーズを正確に把握するとともに、「異文化で働く」ということ、社会の一員として身につけておくべきこと等について具体的に言語化し、普段から繰り返し伝え導いていくことが必要であると考え。 アルバイト先や就職先の外国人職員の担当者の方たちと意見交換を行い、現場で求められている能力の聞き取りをし、授業に反映させていきたい。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
3. 授業科目の学年進捗や時間配分は適切ですか	入学時のクラス編成から学生の学習進捗度に応じて柔軟にクラス編成と講師配置を行っている。現状では言語学習に必要な少人数クラスの状況がある程度確保できている。(1 クラス 13 名まで)	2 年コースの学生においては、学年進捗や時間配分について特に問題はない。 一方、1 年半コースの学生は学習時間及び進路決定までの時間が短く、十分な日本語能力の養成という点において課題が多いと考えられる。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	1 年半コース生については、入学時点である程度の日本語運用能力を保持していることが望ましい。学生募集時から明確なキャリアパスを学生に周知しておくこと、現地の日本語教師と能力レベルの情報共有を行うなどして、入国時に一定レベル以上の日本語能力を身につけてもらう。留学の手続きの前にその段階での日本語能力を測るテストを行っていきたい。	○指摘事項なし。
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	学生の状況やニーズに応じて、常に見直しをしながらコース毎のシラバスを作成している。 学期ごとに非常勤教員も含めた講師会を行い、授業内容に関して意見交換をし、シラバスの見直しや修正が必要なことがあれば、教員間で精査し変更している。	学生のニーズや状況の変化に応じて柔軟に検討や見直しをすることができている。 今年度は一般常識(日本文化、マナー、自己分析)やスピーチ&ディスカッションの授業を取り入れた。一般常識では、今後も日本で生活していく上で必要となる、マナーや日本文化の理解に取り組んだ。スピーチでは、自分の意見や考えをまとめて、相手に伝わりやすい伝達方法を学習した。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	講師会で、各教員間でシラバスの内容についての理解を深めている。今後認定日本語教育機関となるべく、文化庁が明示している「日本語教育の参照枠」に照らし合わせたシラバス作成が必要になる。	○指摘事項なし。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	日々蓄積され全教員に公開される授業報告や、資格外活動先である介護施設職員からの声等をもとに、学科運営会議等で随時進捗・教材・クラス編成等についての見直しを行っている。 また学期ごとに学生アンケートを実施。授業への満足度をはかり、学生が組みたい日本語能力の技能等の聞き取りを行い、学生からの意見をカリキュラムにも反映するようにしている。	日本語教育業界全体で、コミュニケーション重視の教育法が取り上げられており、当校のカリキュラムはそれに沿ったカリキュラムで取り組んでいる。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後期待される日本語教育の形を把握し、当校の学生に合った学習内容をカリキュラムに取り入れていく必要がある。次年度以降大きく変化する日本語教育業界の変化にも柔軟に対応し、カリキュラムの見直しを行っていく。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	コース目標を念頭に、言語運用能力を重視した初級教材を採用している。また、介護福祉士養成校への進学や特定技能による就職に必要な日本語能力の試験対策教材を学生のレベルやニーズに応じて採用している。	言語運用能力を高める初級用教材の採用により、単なる文型の学習にとどまらず「学習した文型が生活の中でどのように使用できるか」に焦点が当たり、教室活動の質が大きく変わった。それにともない学生の発話量も増え、日本語運用能力を重視したアウトプット活動中心の授業が展開できている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	日本語教育の方法等も日々新しくなり、効果的に学習が進められる教材も日々新しいものが生まれる。常に日本語教育に関する新しい情報収集のためにアンテナを張り、教材研究に費やせる時間を確保し、新たな取り組みを目指す必要がある。	○アウトプット活動は言語運用能力向上に有効であるため、今後もその活動を増やしていくと良いと考える。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	基本的言語能力（「読解」、「文法」、「文字語彙」、「聴解」）の知識に加え、運用能力についても「会話」「作文」「介護の日本語」の試験を実施し、成績評価を行っている。	言語知識に対する評価と、それらの言語知識をいかに運用できるかについての評価を筆記試験と口頭試験によりバランスよく行おうとしている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	現在は「平常点」として出席率、授業態度、日々の提出物や小テスト等の結果も成績評価に反映させている。 今後の学生数の増加を視野に入れた信頼性かつ合理性の高い評価法を検討していく必要がある。「日本語教育の参照枠」にも提示されているコミュニケーション能力をはかる評価方法の作成が必要となる。	○指摘事項なし。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	レベル別クラスによる日本語能力試験対策授業、グループワーク等によるアウトプットを主眼に置いた技能別授業等、学生の能力や授業の目的に応じた活動を展開してきた。また必要に応じて、補助教材や復習プリントの配布を行った。	学生の理解度は個人により、かなりの差が出てきている。現在の授業運営は学生の能力や理解度に応じたクラス設定がある程度可能となっている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後学生数の増加に伴い、語学学習環境（クラスサイズ）のあり方を検討する必要がある。学習システムなどを利用し、学生が自律的に学習を進めていけるような環境整備が課題となる。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	学力不足が認められる学生については、課題を与えたり、自習プリントを配布したり、クラスでの学習に追いつく補助としている。小テストや課ごとのテストでの点数が大きく下回る学生に関しては、テスト内容の復習を課題として与えている。	授業内外でのフォロー体制や個々の学生とのやり取りについては、メッセージングアプリ（Slack）を利用しきめ細かなサポートを行っている。課題の進捗状態の確認、質疑応答など、学生の要望に応じている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学力不足の学生への迅速な対応が肝要であることは言うまでもないが、社会的・職業的自立までのトータルな日本語学習の一時期を担っているという長期的な観点からのサポートも必要である。	○サポート体制を整え、まずは学力不足の学生を支援していく必要がある。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員と通訳を含めた事務職員が協力し、学生の出身国とは異なる習慣（特に時間の厳守、衛生、マナー等）についての指導をしたり、日本語の授業などを通じて日本人の行動規範や思考様式などを学ぶ授業を行っている。また、マナーに関する問題が発生した際にも、その都度全学生へ繰り返しマナーについて話をしている。	入学時のオリエンテーション、学期初めのオリエンテーション、またコース後半を中心とした授業内で、日本社会における基本マナー等についての理解を深める教育を行っている。母国での文化や宗教間に関して、教職員の理解を示しつつ、日本社会で生活する上での必要なことを伝えている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	全ての事柄について短時間で伝えることは難しく、理解度にも個人差があるため、今後も教職員とアルバイト先職員が情報共有を密にし、一丸となり繰り返し忍耐強く指導を継続していく必要がある。（既に学校と職場の連携のための会議を定期的実施している） また、母国の親御さんにも日本の文化やマナーを伝える必要がある。	○指摘事項なし。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	研究会や学会等への参加を奨励し、得られた知見について学科内教員で共有している。	今年度は介護の日本語に関する研究発表を聴講したり、文化庁による日本語教育に関する研修に参加をした。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	理論と実践のバランスが取れた教育活動の展開を目指すとともに、その成果について広く社会に伝えられるよう研究発表等による情報発信を行っていききたい。学内での教員のスキルアップを目的とした勉強会の実施を検討中。	○指摘事項なし。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	学期ごとにアンケート（選択肢、自由記述による）を行い、授業や学校に関する学生の意見を集めている。また個別面談では、学習内容や授業、及び留学生活について聞き取り、教員間で共有し、学校運営に反映させようとしている。	授業全体及び科目毎の授業評価を行うことにより、コース全体のみならず担当教員に対する評価も把握できるようになっている。 学生との信頼関係＝授業評価になりがちで、授業内容に関しての評価を得られているか不確かなところがある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	留学生は授業に関する不満があっても表出しないことがある。聞き取る項目や方法を検討し、思いが反映される授業を展開したい。一方で、教育目標については、ぶれることなく教員間で一貫性を持って学生に示していきたい。	○指摘事項なし。

2 施設・設備

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室の数は十分である。 施設整備の点から、隣の部屋との仕切りがない部分があり筒抜けになっているので、聴解や保温等について課題がある。	教室の数と広さは十分である。 イスラムの学生のために祈祷室も設けている。 休憩時間に学生達が楽しめるよう、卓球・バドミントンなどの用具も揃えている。	5 4 <u>3</u> 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	隣の部屋の間仕切りに関しては、現在設備担当者に確認中。 学生数の増加に伴い、フリースペースの活用方法の工夫が必要となる。	○指摘事項なし。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室および書棚を設置し、多読教材をはじめとする書籍が閲覧できるようにしている。学生への貸し出しも行っており、日本語の本の読書の機会を促している。また自律学習用に日本語読解学習支援システムなども紹介している。	今年度若干の多読用教材の補充を行ったが、まだ書籍の点数が少ない。寄付などで頂いた書籍もあるが、古い書籍も多く、学生が興味を持ちにくいものもある。今後、多読に慣れるため、学生が興味のある幅広い分野の蔵書の充実が必要である。	5 4 <u>3</u> 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	教材費の充実、不要となった書籍の寄付を募る等の方法により、第二言語として日本語を学ぶ学生が満足できる内容の蔵書を充実させていきたい。	○予算もあるとは思いますが、蔵書は学生のためにも必要であるため、揃えてあげて欲しい。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習等は行わない。		5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分		
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	プロジェクター等は利用しやすい環境にある。 学生のクラスワークなどのコミュニケーションツール確保のためにWi-Fiが設置されている。	効果的な授業活動を行うのに必要なPCの設備は整っている。 聴解学習の際にプロジェクターからの出力音声だと、音が割れて聞きにくいことがある。今後円滑な授業の流れに支障をきたすことのないよう、スピーカー等を用いることも必要となる。	5 4 <u>3</u> 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学習時間の短さを補うため、今後LMS(Learning Management System)等の利用による教室外学習や反転授業の可能性についても検討していきたい。	○指摘事項なし。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか (有効に活用されていますか)	留学生全員に寮が安価な価格で提供されている。 講義棟に併設している寮(男女別)があり、通学に便利である。 寮内共有部において、掃除を人任せにしている学生が多く、学期途中で掃除当番制を取り入れた。教職員が、週に1回程度寮のチェックに行き、掃除の確認を行っている。	寮内の施設備品等について不具合の生じたものは、適宜、改善及び改修を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	寮には日本人学生もいるため、学生寮での生活を日本での貴重な学びの場として捉えていきたい。 また、寮生同士が協力することで、今後必要となる協調性を身につけてもらう場となってほしい。	○指摘事項なし。
6. 体育館や運動場などを保有していますか (有効に活用されていますか)	グラウンドでは、サッカー、ジョギング、散歩、動物との触れ合いをする姿が見られる。 新入生との交流の場として、体育館を使用してスポーツ大会を開催した。	体育館や芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	今後、充実した学生生活を目的とした更なる有効活用を考えていく必要がある。	○指摘事項なし。

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	専任教員が担任業務を行い、成績等の管理、学生面談を行っている。担任1人にすべてを任せるのではなく、各教員が相互に他クラスの担任業務をサポートする体制が整えられている。 必要に応じて臨時の学生面談を行い、問題の早期解決に取り組んでいる。	定期的な面談以外にも、問題があればすぐに面談を置こうことで、問題の早期解決、対策ができています。必要であれば、母国の保護者にも参加してもらい、オンライン面談を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	現状は全教員が全学生の状況がある程度把握できているが、今後学生数、クラス数の増加に伴い、授業を担当しないクラスについては該当クラスの学生の把握は難しくなると思われるので、学科会議の中で学生に関する情報共有を行っていく。	○理想は担任2人体制、もしくは副担任制である。人間的に難しいようであれば、会議等での学生の情報共有が重要である。

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	通訳を介した母語による面談を随時行い、状況の把握を行っている。（通訳は事務職員・介護施設職員である卒業生が担当） また関連の医療施設にカウンセラー（日本人）がおり、必要に応じて個々に相談できる体制が整っている。	語学力の問題でカウンセラーに本人が直接相談できる状況にはないためプライバシーが守られない上に、異文化理解の知識のある専門のカウンセラーがいないことが課題である。 また、ベトナム語通訳ができる事務職員はいるが、インドネシア語ができる職員は常駐していない。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	寮やアルバイトなど学生の生活全般に関するカウンセリングを含めた「生活指導」や通訳スタッフの拡充が必要である。 当校卒業生が関連施設で就業しているので、スムーズに通訳ができる体制を整える必要がある。	○指摘事項なし。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	教室前に広いロビーがあり、ソファやテーブル、十分な備品及びスペースが確保されている。	ロビー内は季節に合わせた日本の年中行事にまつわる飾り物や学生の成果物などを設置し、温かみのある空間になるよう工夫している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	将来的には未利用部分を整備し、留学生が地域の方々などと交流できるような空間づくりが望まれる。	○指摘事項なし。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	学生寮が隣接しているため、学生がロビー内で食事を取ることは少ない。売店はないが、弁当の注文販売があり、自動販売機も十分設置されている。 ロビー内に電子レンジや電気ケトルなども設置している。	全員が校内で食事をとることはあまり多くないが、休憩時間に温かいコーヒーやお茶を入れるなどして、学生達がほっとできる場を提供できている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	食事場所については十分である。 売店については近所にスーパーやコンビニがある。	○指摘事項なし。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	学校独自の支援制度として、診療費補助制度がある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。留学生が利用できる学費減免等はないものの、寮費等を安価に設定していることが生活への支援となっている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	成績優秀者等への奨学金が更に充実していけば、学習動機の上につながると考える。	○指摘事項なし。
6. その他	特になし				

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組み

①今年度は留学生が学校祭や地域のイベントに積極的に参加し、教室外の人々とのつながりを持つ機会が増え、日本語学習への動機づけや日本人・日本文化理解への大きい一助となった。

今年度参加イベント一覧

○七夕まつり(グリーンホール田原)：ステージ参加

○田原フェス(北谷公園)：ボランティア参加、ステージ参加

○朝のあいさつ運動(田原地域)

○クリスマス・キャロル(グリーンホール田原)：ステージ参加

○クリーン作戦(田原地域)

②日本、日本文化等への理解を深める機会を与える工夫として、お正月文化体験をはじめ各種行事をカリキュラムに取り入れている。今年度のお正月文化体験（着付け、書き初め、茶道体験）では、地域ボランティアの方々の全面的な協力をいただき、地域住民との交流を図る貴重な機会となった。

③教員は学生のアルバイト先である介護施設との連携に力を注いでいる。介護施設の日本人職員を対象に異文化理解講座を実施したり、日本語科の活動や学生の母国の文化等を紹介する「日本語通信」という発行物を全職員に配布したりすることにより、日本人側の異文化理解についての意識づけを図り、留学生と日本人職員をつなげる橋渡しの役割を果たそうとしている。

④必要に応じて、希望者対象にオンラインで留学生の保護者との面談を実施している（通訳付）。母国の保護者に日本での生活の様子を詳しく知らせることで、家族に安心感と信頼感を持ってもらえるような取り組みを行っている。

5 その他委員からの質問・指摘事項

○留学生が日本へ来る目的・動機は何なのか？

→・将来日本で働いて経済的に自立するため。(短大を出て現地で就職しても給与は低い)

・知識や技術を母国に持ち帰るため。

・日本の文化が好き、日本に住みたいから。

※長期的な目線で将来のことを考えて来日しているというより、日本留学の中で将来の進路について考える学生が多い。

ON1 を取得する学生はどのくらいいるのか？

→N5 レベルで入学してくるが、卒業時に N3 レベルになっていることが目標。

卒業後に N1 を取得している学生は複数いる。(N1 を取得するのは当校修了後になるので、全員の後追い調査は出来ていない。)